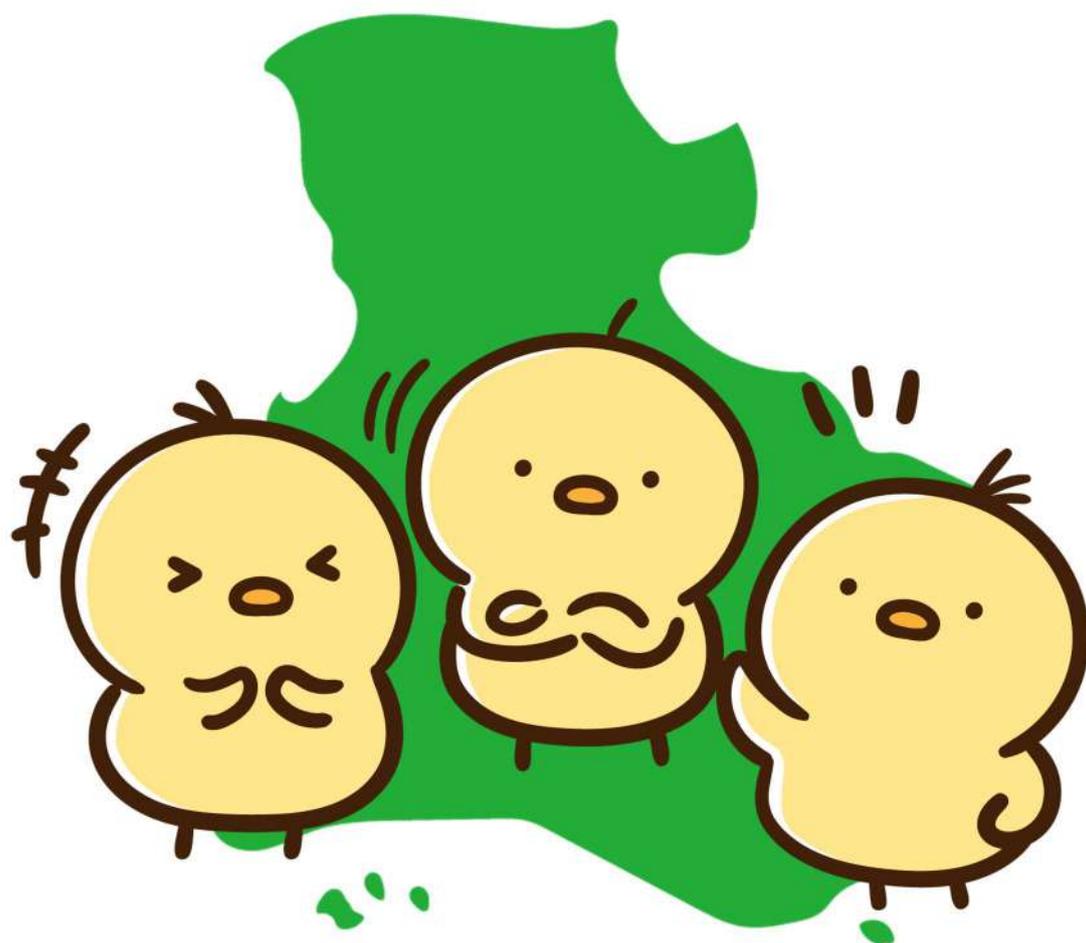


令和4年度

ひょうごボランティア地域づくりネットワーク会議・

ひょうごボランティア基金助成事業報告会

助成事業報告資料・活動資料 とりまとめ冊子



兵庫県社会福祉協議会 ひょうごボランティアプラザ

目次(ページ順)

(地域・自治体行政番号・事業区分順)

地域	中間	団体名	事業名	ページ	所在地	1回目	2回目
○		(特非)ひょうごセルフヘルプ支援センター	セルフヘルプグループ実践セミナー事業	1	東灘区	M	K
○		食親同好会	感性&多様性尊重のサステナブルデザイン事業	2	東灘区	F	E
○		(特非)きょうどうのわ	世代結び ～持続可能なコミュニティのための多世代交流～	3	東灘区	B	F
○		(特非)友之会	おともだちプラス交流プロジェクト事業(3年目 ネットワークを広げよう！編)	4	東灘区	A	F
○		多文化共生センターひょうご	「プラスたぶんか」多文化な背景をもつ家族への子育て支援場所づくり	5	東灘区	C	B
○		東灘こどもカフェ	地域を愛するこどもを育む事業	6	東灘区	L	G
○		(認定)コミュニティ・サポートセンター神戸	居場所向け自己評価ツール(エコシステムワークブック)を用いた運営支援～県内の中間支援NPOとのタイアップによる取り組み～	7	東灘区	A	D
	基	(認定)コミュニティ・サポートセンター神戸	文化・交流系の地域活動団体の創出支援事業	8	東灘区	E	A
○		(特非)サポートステーション灘・つどいの家	水曜つどいの広場・土曜つどいの広場	9	灘区	L	I
○		(特非)ミャンマーKOBÉ	コロナ禍におけるミャンマー人への支援・交流事業	10	長田区	K	N
○		(特非)オルタナティブビレッジ	アートを通して農に触れよう！	11	北区	H	L
	創	地域チャレンジセンター・プラス	北神区初の中間支援組織設立事業	12	北区	D	C
○		地域チャレンジセンター・プラス	多様な社会・地域に対応した子ども・若者まると支援	13	北区	D	C
○		(特非)神戸の冬を支える会	様々な困難を抱えた方の日常生活支援事業	14	中央区	J	G
○		(特非)ガジュマルの船	摂食障害の理解を深めるために～自然との触れ合いの中で～	15	中央区	N	G
○		(特非)神戸市精神障がい者家族会連合会	心の病や精神障害(ひきこもり、発達障害含む)で悩む家族、当事者への電話相談及び面談	16	中央区	G	H I
○		(公社)兵庫県精神福祉家族会連合会	2022年度兵家連メンタルヘルスセミナー	17	中央区	K	K
○		(特非)NGO神戸外国人救援ネット	難民申請者等の生活と権利を守るためのプロジェクト	18	中央区	K	M
○		(一社)パートナーズ	ひょうご・こどもコミュニティラボ	19	中央区	D	D
○		(特非)神戸アスリートタウンクラブ	スポーツを通じた国際人材の育成と国際交流	20	中央区	L	J
○		兵庫県在日外国人教育研究協議会	外国につながる子どもたちの進路保障に向けて～学校・行政・地域をつなぐとり組み～	21	中央区	G	M
	基	(認定)しみん基金・こうべ	助成事業と情報発信	22	中央区	I	K
	創	(一社)みくもや	若者に特化した中間支援事業UxCampus	23	中央区	E	C
○		(特非)つなげる	双子ママ主催！夕暮れどきに子育て家庭の『ほっと一息できる場』を地域で育てるプロジェクト	24	尼崎市	B	D
○		(特非)ことばルームへようこそ	「小さく生まれたり、医療的ケアの必要な赤ちゃんたちとそご両親を先輩父母と医療職がサポートします！」カンガルーポー	25	尼崎市	K	H
	基	(特非)シンフォニー	地域NPOブラッシュアップ支援事業	26	尼崎市	H	N
○		健康づくりサポーター会	健康寿命を延ばす実践講座	27	西宮市	D	E
○		(特非)コミュニティ事業支援ネット	シニア層や大学生が活躍する場を創出するための基礎調査	28	西宮市	F	F
○		(特非)西宮フットボールクラブ	児童養護施設入居者と地域住民のフラッグフットボール・チアリーディング体験会	29	西宮市	L	M
	創	(特非)なごみ	協働体制で構築する新たな地域づくり中間支援事業	30	西宮市	L	K
○		(一社)さんぴいす	コロナ禍から考えるレジリエンス向上のためのプログラム開発事業	31	芦屋市	F	B
	基	(一社)さんぴいす	淡路市中間支援ネットワーク自立支援サポート事業	32	芦屋市	F	B
○		(特非)あしやNPOセンター	Just！ Do it 応援します。あなたの活動を夢から実現へ	33	芦屋市	C	E
○		(特非)アイリス	「STOP！ THE 介護離職」	34	伊丹市	K	G
○		兵庫県健康生きがいづくり協議会	健康生きがいづくり	35	伊丹市	H	I
○		(特非)親子会エルフ	大人も子どもも楽しもう！豊かなこころ作りを目的とした親子育成支援事業	36	宝塚市	M	J
○		(特非)健康・生きがい就労ラボ	高齢者向け生活に役立つスマホ操作技術普及事業	37	宝塚市	I	L
○		(特非)健康・生きがい就労ラボ	高齢者の健康づくりに貢献する就労開発事業	38	宝塚市	H	C
	基	NPO会計支援センター合同会社	NPO法人会計支援業務～NPOの会計をセミナーで学ぶ～	39	宝塚市	J	J
	基	(特非)市民事務局かわにし	「NPO大学・マナビ塾」2022	40	川西市	G	G
○		(特非)女性医学健康研究所	北神地域での産後ケア事業の妊産婦への周知と利用の拡大	41	三田市	M	L
○		(特非)場とつながりの研究センター	「在住外国人の孤立を防ぎ、仲間づくりができる場づくりプロジェクト」	42	三田市	B	E
	基	(特非)場とつながりの研究センター	NPOや地縁団体の事務力アップ支援事業	43	三田市	B	E
	創	(特非)いながわリンク	地域活動エンパワーメント事業(1年目)	44	猪名川町	N	H
○		(特非)みっくす	With コロナで支え合う みっくす街づくりプロジェクト	45	明石市	M	H

地域	中間	団体名	事業名	ページ	所在地	1回目	2回目
○		(特非)お一えんくらぶ	本気のこどもクッキング 目指せ キッズシェフ!～食から育てる 子どもの自立心	46	明石市	M	M
○		(特非)TEAM・あげあげ	合言葉は「地域での繋がり」	47	加古川市	E	B
○		(特非)One by one	自主防災組織活性化事業	48	加古川市	J	M
○		(特非)Co-creationこのゆびとまれ	山をまるごと遊ぶこのゆびとまれプロジェクト	49	加古川市	B	B
○		(特非)ニュー☆ハリマ	チャレンジしにくい町のチャレンジショップ作り	50	播磨町	I	N
○		ママの働き方応援隊北播磨校	共同養育を促進する赤ちゃん先生クラスの開催事業～産後/バ育休制度の改正をふまえて	51	小野市	C	A
○		(特非)みらぼて	不登校や登校しぶりのある子どもと親のサポート事業	52	小野市	G	N
○		(特非)北播磨市民活動支援センター	北播磨ソーシャルコネクト事業～多様な主体がつながる場づくり～	53	小野市	K	L
	基	(特非)北播磨市民活動支援センター	NPO等のICT利活用の推進と実務支援事業	54	小野市	K	L
	創	(一社)ユニテ	地域人材のネットワークを生かした中間支援事業	55	加西市	H	J
○		(特非)生涯学習サポート兵庫	子育てよろず相談事業 親子のココロをつなぐ森じかんMORINOWA	56	姫路市	G	L
○		(認定)コムサロン21	車椅子でも安心!大手前通りマップづくり事業	57	姫路市	E	D
○		(認定)コムサロン21	Withコロナの出会いの場づくり	58	姫路市	E	D
	基	(認定)コムサロン21	播磨NPO中間支援センター事業	59	姫路市	A	A
○		(特非)ひとまちあーと	はりまのくにビズトープ事業	60	たつの市	J	N
○		(特非)Goodstock	空き家問題を前進させるためのアップサイクルプロジェクト	61	たつの市	O	I
○		しんぐうNext	Next Seeds プロジェクト シーズン2「ふたば」	62	たつの市	I	J
○		しんぐうNext	しんぐう☆まちあそび2022【Next☆マイスター発掘プログラム】	63	たつの市	I	J
○		(特非)地域を元気にする会	住み慣れた家で安心して暮らせる地域を目指して	64	宍粟市	N	K
	基	(特非)奥播磨夢倶楽部	おくはりま持続可能な地域づくり相談室	65	宍粟市	D	A
○		(特非)上郡ひがし蔵net	体験教室などを通じ、社会教育の推進を図る事業	66	上郡町	I	I
	基	(特非)コミュニティアートセンタープラッツ	NPO活動維持継続支援事業	67	豊岡市	J	H
○		(特非)朝来どんぐりの会	不登校やひきこもり者の相談支援事業	68	朝来市	G	J
○		(特非)里地里山問題研究所	農村課題解決と地域活性化に貢献する関係人口創出・拡大事業	69	丹波篠山市	A	C
○		(特非)丹波ひとまち支援機構	丹波「社会的つながり」プロジェクト(第2期)	70	丹波市	I	G
○		(特非)丹波ひとまち支援機構	「学校を核とした地域づくり」を応援する まなびの里プロジェクト	71	丹波市	C	F
○		生涯学習応援隊so-so.39	あなたの声で地域の物語を届けよう～シニア×オンライン 最終章	72	丹波市	L	L
○		(特非)兵庫SPO支援センター	地域で地域を支える ―「見守る力」を育て、ネットワークを創る―	73	洲本市	N	M
	基	(特非)兵庫SPO支援センター	働いている人・遠隔地の人のためのNPO等支援窓口 ―休日・遠隔地のサポート―	74	洲本市	N	M
○		プラットフォーム淡路島	プラットフォーム淡路島 快適な島暮らしの絆・支え合いの仕組みをつくる事業	75	南あわじ市	J	K
○		(認定)ソーシャルデザインセンター淡路	これからの島の暮らしをつくる学校(略称島の学校)2022 ～子どもたちとつくるSDGs宣言～	76	南あわじ市	M	I
	基	(認定)ソーシャルデザインセンター淡路	SODA地域応援事業2022	76	南あわじ市	M	I
○		(特非)コミュニティスペースエモラボ	AMAアイティラボ 阿万ICT推進研究所	77	南あわじ市	H	H
○		(特非)淡路島ファミリーサポートセンターまあるく	「一時預かり保育担い手確保のために、アクティブシニア発掘 第2弾」事業	78	淡路市	N	N

(五十音順)

	学校・企業名	ページ	1回目	2回目
企業	アイザワ証券 株式会社	79	C E	D F
企業	株式会社ウィル	81	C	—
企業	大阪ガスネットワーク株式会社	82	C	—
学校	神戸親和女子大学	86	A	B
企業	生活協同組合コープこうべ	87	A F	C E
企業	第一生命保険 株式会社	89	B D F	A B C
企業	ためま株式会社	93	D	F
企業	有限会社花田設計事務所	94	F	D
学校	兵庫県立大学大学院	95	B	A
学校	兵庫大学	97	E	E

グループ意見交換 1回目 目次

グループ	地域	中間	団体名・企業名・学校名	事業名(助成団体のみ)	ページ
A	学		神戸親和女子大学		86
	企		生活協同組合コープこうべ		87
	5		(特非)友之会	おともだちプラス交流プロジェクト事業(3年目 ネットワークを広げよう！編)	4
	5		(特非)里地里山問題研究所	農村課題解決と地域活性化に貢献する関係人口創出・拡大事業	69
	19		(認定)コミュニティー・サポートセンター神戸	居場所向け自己評価ツール(エコシステムワークブック)を用いた運営支援～県内の中間支援NPOとのタイアップによる取り組み～	7
		基	(認定)コムサロン21	播磨NPO中間支援センター事業	59
B	企		第一生命保険株式会社		89
	学		兵庫県立大学大学院		95
	1		(特非)つなげる	双子ママ主催！夕暮れどきに子育て家庭の『ほっと一息できる場』を地域で育てるプロジェクト	24
	3		(特非)きょうどうのわ	世代結び ～持続可能なコミュニティのための多世代交流～	3
	7		(特非)Co-creationこのゆびとまれ	山をまるごと遊ぼうこの指とまれプロジェクト	49
	11		(特非)場とつながりの研究センター	「在住外国人の孤立を防ぎ、仲間づくりができる場づくりプロジェクト」	42
		基	(特非)場とつながりの研究センター	NPOや地縁団体の事務力アップ支援事業	43
C	企		アイザワ証券 株式会社		79
	企		株式会社ウィル		81
	企		大阪ガスネットワーク株式会社		82
	12		ママの働き方応援隊北播磨校	共同養育を促進する赤ちゃん先生クラスの開催事業一産後パパ育児制度の改正をふまえて	51
	13		多文化共生センターひょうご	「プラスたぶんか」多文化な背景をもつ家族への子育て支援場所づくり	5
	19		(特非)あしやNPOセンター	Just! Do it 応援します。あなたの活動を夢から実現へ	33
	19		(特非)丹波ひとまち支援機構	「学校を核とした地域づくり」を応援する まなびの里プロジェクト	71
D	企		第一生命保険株式会社		89
	企		ためま株式会社		93
	1		健康づくりサポーター会	健康寿命を延ばす実践講座	27
	13		地域チャレンジセンター・プラス	多様な社会・地域に対応した子ども・若者まると支援	13
		創	地域チャレンジセンター・プラス	北神区初の中間支援組織設立事業	12
	13		(一社)パートナーズ	ひょうご・こどもコミュニティラボ	19
		基	(特非)奥播磨夢倶楽部	おくはりま持続可能な地域づくり相談室	65
E	企		アイザワ証券 株式会社		79
	学		兵庫大学		97
	3		(特非)TEAM・あげあげ	合言葉は「地域での繋がり」	47
	4		(認定)コムサロン21	車椅子でも安心！大手前通りマップづくり事業	57
	12		(認定)コムサロン21	Withコロナの出会いの場づくり	58
		基	(認定)コミュニティー・サポートセンター神戸	文化・交流系の地域活動団体の創出支援事業	8
		創	(一社)みくもや	若者に特化した中間支援事業UxCampus	23
F	企		生活協同組合コープこうべ		87
	企		第一生命保険株式会社		89
	企		有限会社花田設計事務所		94
	3		食親同好会	感性&多様性尊重のサステナブルデザイン事業	2
	3		(特非)コミュニティ事業支援ネット	シニア層や大学生が活躍する場を創出するための基礎調査	28
	3		(一社)さんびいす	コロナ禍から考えるレジリエンス向上のためのプログラム開発事業	31
		基	(一社)さんびいす	淡路市中間支援ネットワーク自立支援サポート事業	32
G	1		(特非)神戸市精神障がい者家族会連合会	心の病や精神障害(ひきこもり、発達障害含む)で悩む家族、当事者への電話相談及び面談	16
	1		(特非)生涯学習サポート兵庫	子育てよろず相談事業 親子のココロをつなぐ森じかんMORINOWA	56
	1		(特非)朝来どんぐりの会	不登校やひきこもり者の相談支援事業	68
	13		兵庫県在日外国人教育研究協議会	外国につながる子どもたちの進路保障に向けて～学校・行政・地域をつなぐとくみ～	21
	13		(特非)みらぽて	不登校や登校しぶりのある子どもと親のサポート事業	52
		基	(特非)市民事務局かわにし	「NPO大学・マナビ塾」2022	40

グループ	地域	中間	団体名・企業名・学校名	事業名(助成団体のみ)	ページ
H	1		兵庫県健康生きがいづくり協議会	健康生きがいづくり	35
	5		(特非)オルタナティブビレッジ	アートを通して農に触れよう!	11
	14		(特非)コミュニティスペースエモラボ	AMAアイティラボ 阿万ICT推進研究所	77
	17		(特非)健康・生きがい就労ラボ	高齢者の健康づくりに貢献する就労開発事業	38
		基	(特非)シンフォニー	地域NPOブラッシュアップ支援事業	26
	創	(一社)ユニテ	地域人材のネットワークを生かした中間支援事業	55	
I	2		(特非)上郡ひがし蔵net	体験教室などを通じ、社会教育の推進を図る事業	66
	2		(特非)丹波ひとまち支援機構	丹波「社会的つながり」プロジェクト(第2期)	70
	3		(特非)ニュー☆ハリマ	チャレンジしにくい町のチャレンジジョブ作り	50
	3		しんぐうNext	Next Seeds プロジェクト シーズン2「ふたば」	62
	13		しんぐうNext	しんぐう☆まちあそび2022[Next☆マイスター発掘プログラム]	63
	14		(特非)健康・生きがい就労ラボ	高齢者向け生活に役立つスマホ操作技術普及事業	37
		基	(認定)しみん基金・こうべ	助成事業と情報発信	22
J	1		(特非)神戸の冬を支える会	様々な困難を抱えた方の日常生活支援事業	14
	3		(特非)One by one	自主防災組織活性化事業	48
	3		(特非)ひとまちあーと	はりまのくにビストロ事業	60
	3		プラットフォーム淡路島	プラットフォーム淡路島 快適な島暮らしの絆・支え合いの仕組みをつくる事業	75
		基	NPO会計支援センター合同会社	NPO法人会計支援業務～NPOの会計をセミナーで学ぶ～	39
		基	(特非)コミュニティアートセンターブラッツ	NPO活動維持継続支援事業	67
K	1		(公社)兵庫県精神福祉家族会連合会	2022年度兵家連メンタルヘルスセミナー	17
	1		(特非)NGO神戸外国人救援ネット	難民申請者等の生活と権利を守るためのプロジェクト	18
	1		(特非)ことばルームへようこそ	「小さく生まれたり、医療的ケアの必要な赤ちゃんたちとそご両親を先輩父母と医療職がサポートします!」カンガルーボー	25
	1		(特非)アイリス	「STOP! THE 介護離職」	34
	11		(特非)ミャンマー-KOBE	コロナ禍におけるミャンマー人への支援・交流事業	10
	19		(特非)北播磨市民活動支援センター	北播磨ソーシャルコネクト事業～多様な主体がつながる場づくり～	53
		基	(特非)北播磨市民活動支援センター	NPO等のICT利活用推進と実務支援事業	54
L	6		生涯学習応援隊so-so.39	あなたの声で地域の物語を届けよう～シニア×オンライン 最終章	72
	13		東灘こどもカフェ	地域を愛するこどもを育む事業	6
	13		(特非)サポートステーション灘・つどいの家	水曜つどいの広場・土曜つどいの広場	9
	13		(特非)神戸アスリートタウンクラブ	スポーツを通じた国際人材の育成と国際交流	20
	13		(特非)西宮フットボールクラブ	児童養護施設入居者と地域住民のフラッグフットボール・チャリーディング体験会	29
		創	(特非)なごみ	協働体制で構築する新たな地域づくり中間支援事業	30
M	1		(特非)ひょうごセルフヘルプ支援センター	セルフヘルプグループ実践セミナー事業	1
	1		(特非)女性医学健康研究所	北神地域での産後ケア事業の妊産婦への周知と利用の拡大	41
	13		(特非)親子会エルフ	大人も子どもも楽しもう!豊かなこころ作りを目的とした親子育成支援事業	36
	13		(特非)おーえんくらぶ	本気のこどもクッキング 目指せ キッズシェフ!～食から育てる 子どもの自立心	46
	13		(特非)みつくす	With コロナで支え合う みつくす街づくりプロジェクト	45
	13		(認定)ソーシャルデザインセンター淡路	これからの島の暮らしをつくる学校(路称島の学校)2022 ～子どもたちとつくるSDGs宣言～	76
		基	(認定)ソーシャルデザインセンター淡路	SODA地域応援事業2022	76
N	1		(特非)ガジュマルの船	摂食障害の理解を深めるために～自然との触れ合いの中で～	15
	3		(特非)地域を元気にする会	住み慣れた家で安心して暮らせる地域を目指して	64
	3		(特非)Goodstock	空き家問題を前進させるためのアップサイクルプロジェクト	61
	13		(特非)淡路島ファミリーサポートセンターまあるく	「一時預かり保育担い手確保のために、アクティブシニア発掘 第2弾」事業	78
	13		(特非)兵庫SPO支援センター	地域で地域を支える ―「見守る力」を育て、ネットワークを創る―	73
		基	(特非)兵庫SPO支援センター	働いている人・遠隔地の人のためのNPO等支援窓口 一休日・遠隔地のサポート	74
		創	(特非)いながわリンク	地域活動エンパワーメント事業(1年目)	44

※「地域」欄の番号は特定非営利活動促進法第2条第1項別表に掲げる事業区分

グループ意見交換 2回目 目次

グループ	地域	中間	団体名・企業名・学校名	事業名(助成団体のみ)	ページ
A	学		兵庫県立大学大学院		95
	企		第一生命保険株式会社		89
	12		ママの働き方応援隊北播磨校	共同養育を促進する赤ちゃん先生クラスの開催事業ー産後パパ育休制度の改正をふまえて	51
		基	(認定)コミュニティー・サポートセンター神戸	文化・交流系の地域活動団体の創出支援事業	8
		基	(認定)コムサロン21	播磨NPO中間支援センター事業	59
		基	(特非)奥播磨夢倶楽部	おくはりま持続可能な地域づくり相談室	65
B	学		神戸親和女子大学		86
	企		第一生命保険株式会社		89
	3		(特非)TEAM・あげあげ	合言葉は「地域での繋がり」	47
	3		(一社)さんぴいす	コロナ禍から考えるレジリエンス向上のためのプログラム開発事業	31
		基	(一社)さんぴいす	淡路市中間支援ネットワーク自立支援サポート事業	32
	7		(特非)Co-creationこのゆびとまれ	山をまるごと遊ぼうこのゆびとまれプロジェクト	49
	13		多文化共生センターひょうご	「プラスたぶんか」多文化な背景をもつ家族への子育て支援場所づくり	5
C	企		第一生命保険株式会社		89
	企		生活協同組合コープこうべ		87
	5		(特非)里地里山問題研究所	農村課題解決と地域活性化に貢献する関係人口創出・拡大事業	69
	13		地域チャレンジセンター・プラス	多様な社会・地域に対応した子ども・若者まると支援	13
		創	地域チャレンジセンター・プラス	北神区初の中間支援組織設立事業	12
	17		(特非)健康・生きがい就労ラボ	高齢者の健康づくりに貢献する就労開発事業	38
		創	(一社)みくもや	若者に特化した中間支援事業UxCampus	23
D	企		アイザワ証券 株式会社		79
	企		有限会社花田設計事務所		94
	1		(特非)つなげる	双子ママ主催！夕暮れどきに子育て家庭の『ほっと一息できる場』を地域で育てるプロジェクト	24
	4		(認定)コムサロン21	車椅子でも安心！大手前通りマップづくり事業	57
	12		(認定)コムサロン21	Withコロナの出会いの場づくり	58
	13		(一社)パートナーズ	ひょうご・子どもコミュニティラボ	19
	19		(認定)コミュニティー・サポートセンター神戸	居場所向け自己評価ツール(エコシステムワークブック)を用いた運営支援～県内の中間支援NPOとのタイアップによる取り組み～	7
E	学		兵庫大学		97
	企		生活協同組合コープこうべ		87
	1		健康づくりサポーター会	健康寿命を延ばす実践講座	27
	3		食親同好会	感性&多様性尊重のサステナブルデザイン事業	2
	11		(特非)場とつながりの研究センター	「在住外国人の孤立を防ぎ、仲間づくりができる場づくりプロジェクト」	42
		基	(特非)場とつながりの研究センター	NPOや地縁団体の事務力アップ支援事業	43
	19		(特非)あしやNPOセンター	Just! Do it 応援します。あなたの活動を夢から実現へ	33
F	企		ためま株式会社		93
	企		アイザワ証券 株式会社		79
	3		(特非)きょうどうのわ	世代結び ～持続可能なコミュニティのための多世代交流～	3
	3		(特非)コミュニティ事業支援ネット	シニア層や大学生が活躍する場を創出するための基礎調査	28
	5		(特非)友之会	おともだちプラス交流プロジェクト事業(3年目 ネットワークを広げよう！編)	4
	19		(特非)丹波ひとまち支援機構	「学校を核とした地域づくり」を応援する まなびの里プロジェクト	71
G	1		(特非)神戸の冬を支える会	様々な困難を抱えた方の日常生活支援事業	14
	1		(特非)アイリス	「STOP! THE 介護離職」	34
	1		(特非)ガジュマルの船	摂食障害の理解を深めるために～自然との触れ合いの中で～	15
	2		(特非)丹波ひとまち支援機構	丹波「社会的つながり」プロジェクト(第2期)	70
	13		東灘こどもカフェ	地域を愛するこどもを育む事業	6
		基	(特非)市民事務局かわにし	「NPO大学・マナビ塾」2022	40

グループ	地域	中間	団体名・企業名・学校名	事業名(助成団体のみ)	ページ
H	1		(特非)神戸市精神障がい者家族会連合会	心の病や精神障害(ひきこもり、発達障害含む)で悩む家族、当事者への電話相談及び面談	16
	1		(特非)ことばルームへようこそ	「小さく生まれたり、医療的ケアの必要な赤ちゃんたちとそこでご両親を先輩父母と医療職がサポートします!」カンガルーボー	25
	13		(特非)みつくす	With コロナで支え合う みつくす街づくりプロジェクト	45
	14		(特非)コミュニティスペースエモラボ	AMAアイティラボ 阿万ICT推進研究所	77
		創	(特非)いながわリンク	地域活動エンパワーメント事業(1年目)	44
		基	(特非)コミュニティアートセンタープラッツ	NPO活動維持継続支援事業	67
I	1		兵庫県健康生きがいづくり協議会	健康生きがいづくり	35
	1		(特非)神戸市精神障がい者家族会連合会	心の病や精神障害(ひきこもり、発達障害含む)で悩む家族、当事者への電話相談及び面談	16
	2		(特非)上郡ひがし蔵net	体験教室などを通じ、社会教育の推進を図る事業	66
	3		(特非)Goodstock	空き家問題を前進させるためのアップサイクルプロジェクト	61
	13		(特非)サポートステーション灘・つどいの家	水曜つどいの広場・土曜つどいの広場	9
	13		(認定)ソーシャルデザインセンター淡路	これからの島の暮らしをつくる学校(略称島の学校)2022 ~子どもたちとつくるSDGs宣言~	76
		基	(認定)ソーシャルデザインセンター淡路	SODA地域応援事業2022	76
J	1		(特非)朝来どんぐりの会	不登校やひきこもり者の相談支援事業	68
	3		しんぐうNext	Next Seeds プロジェクト シーズン2「ふたば」	62
	13		しんぐうNext	しんぐう☆まちあそび2022【Next☆マイスター発掘プログラム】	63
	13		(特非)神戸アスリートタウンクラブ	スポーツを通じた国際人材の育成と国際交流	20
	13		(特非)親子会エルフ	大人も子どもも楽しもう!豊かなこころ作りを目的とした親子育成支援事業	36
		創	(一社)ユニテ	地域人材のネットワークを生かした中間支援事業	55
		基	NPO会計支援センター合同会社	NPO法人会計支援業務~NPOの会計をセミナーで学ぶ~	39
K	1		(公社)兵庫県精神福祉家族会連合会	2022年度兵家連メンタルヘルスセミナー	17
	1		(特非)ひょうごセルフヘルプ支援センター	セルフヘルプグループ実践セミナー事業	1
	3		プラットフォーム淡路島	プラットフォーム淡路島 快適な島暮らしの絆・支え合いの仕組みをつくる事業	75
	3		(特非)地域を元気にする会	住み慣れた家で安心して暮らせる地域を目指して	64
		創	(特非)なごみ	協働体制で構築する新たな地域づくり中間支援事業	30
		基	(認定)しみん基金・こうべ	助成事業と情報発信	22
L	1		(特非)生涯学習サポート兵庫	子育てよろず相談事業 親子のココロをつなぐ森じかんMORINOWA	56
	1		(特非)女性医学健康研究所	北神地域での産後ケア事業の妊産婦への周知と利用の拡大	41
	5		(特非)オルタナティブビレッジ	アートを通して農に触れよう!	11
	6		生涯学習応援隊so-so.39	あなたの声で地域の物語を届けよう~シニア×オンライン 最終章	72
	14		(特非)健康・生きがい就労ラボ	高齢者向け生活に役立つスマホ操作技術普及事業	37
	19		(特非)北播磨市民活動支援センター	北播磨ソーシャルコネクト事業~多様な主体がつながる場づくり~	53
		基	(特非)北播磨市民活動支援センター	NPO等のICT利活用への推進と実務支援事業	54
M	1		(特非)NGO神戸外国人救援ネット	難民申請者等の生活と権利を守るためのプロジェクト	18
	3		(特非)One by one	自主防災組織活性化事業	48
	13		兵庫県在日外国人教育研究協議会	外国につながる子どもたちの進路保障に向けて~学校・行政・地域をつなぐとくみ~	21
	13		(特非)西宮フットボールクラブ	児童養護施設入居者と地域住民のフラッグフットボール・チャリーディング体験会	29
	13		(特非)おーえんくらぶ	本気のこどもクッキング 目指せ キッズシェフ!~食から育てる 子どもの自立心	46
	13		(特非)兵庫SPO支援センター	地域で地域を支える - 「見守る力」を育て、ネットワークを創る -	73
		基	(特非)兵庫SPO支援センター	働いている人・遠隔地の人のためのNPO等支援窓口 一休日・遠隔地のサポート	74
N	3		(特非)ニュー☆ハリマ	チャレンジしにくい町のチャレンジショップ作り	50
	3		(特非)ひとまちあーと	はりまのくにビズトープ事業	60
	11		(特非)ミャンマー-KOBE	コロナ禍におけるミャンマー人への支援・交流事業	10
	13		(特非)みらぼて	不登校や登校しぶりのある子どもと親のサポート事業	52
	13		(特非)淡路島ファミリーサポートセンターまあるく	「一時預かり保育担い手確保のために、アクティブシニア発掘 第2弾」事業	78
		基	(特非)シンフォニー	地域NPOブラッシュアップ支援事業	26

※「地域」欄の番号は特定非営利活動促進法第2条第1項別表に掲げる事業区分

セルフヘルプグループ実践セミナー事業

特定非営利法人ひょうごセルフヘルプ支援センター

1. 事業がめざすところ

社会のマージナルな場に追いやられがちな福祉当事者はコロナ禍の中で一層つながりが欠如し、孤立する傾向にある。この孤立を予防し、解消するために福祉当事者を SHG につなぐ機会とする。また、つながった当事者が情報交換会や交流会を通してエンパワメントすることをめざす。

さらには一般市民が当事者の体験談を聞き、その保有する困難を理解して支え合う地域社会を構築することを目指した事業であった。

2. 活動内容

兵庫県内 4ヶ所を基盤として選択し、セルフヘルプ体験型セミナーを開催した。

第 1 部 全体会で福祉当事者の SHG 体験談発表。

第 2 部 3つの分科会に分かれてさらに質疑応答によって理解を深め、広める会

第 1 回：芦屋市

日時 2022 年 7 月 28 日 (木) 13:00~15:30

発表団体 認知症の人をささえる家族の会あじさいの会

NPO 法人発達障害をもつ大人の会 (DDAC)

日本 ALS 協会近畿ブロック

参加者数 44 名

協力 兵庫県社会福祉協議会 芦屋市社会福祉協議会 あしや NPO センター

第 2 回：三木市

日時 2022 年 9 月 24 日 (土) 13:00~15:30

発表団体 失語症者と家族の会・BANBAN しゃべろう会

高次脳機能障害の当事者・家族・支援者の会「チャレンジャー」

ふたつばクローバー (きょうだい会)

不登校・ひきこもり支援ネットワークほっぷ☆すてっぷ

参加者数 25 名

協力 兵庫県社会福祉協議会 後援 三木市社会福祉協議会

第 3 回：淡路市

日時 2022 年 11 月 12 日 (土) 13:00~15:30

発表団体 (精神障がい)障がいのある人の自助と支援の会 「グループかけはし」

(精神障がい)いきいき家族会

(知的障がい)南あわじ市手をつなぐ育成会

(ひきこもり)ハチドリの会

参加者数 30 名

協力 兵庫県社会福祉協議会 洲本市社会福祉協議会 南あわじ市社会福祉協議会 淡路市社会福祉協議会

第 4 回：県域全てを含めて

日時 2023 年 1 月 20 日 (金) 13:00~15:30

発表団体 (ひきこもり等)NPO 法人ピアサポートひまわりの家

(依存・嗜癖)一般社団法人かえでの会阪神ダルク

(多胎児・子育て)ひょうご多胎ネット

参加者数 54 名

協力 兵庫県社会福祉協議会

3. 成果や課題点

オンラインによるセミナーであったために、兵庫県内を中心として広い領域に及んで多くの一般市民や専門職を含めて異種の分野の方々の参加をえて、さまざまな SHG を周知することができた。また、市域の社会福祉協議会のボランティアセンターにおいて市民活動の一環と位置付けて SHG の活動を広め、福祉当事者を SHG につなぐ役割を担っていることをも認識することができた。そうであるなら、今後は当セルフヘルプ支援センターも協働することによって、一層活発に活動を進展していけるものと考えられる。

当センターのオンラインによる発信技術が未熟であることが明らかとなった。第 3 回の三木市におけるオンライン態勢の完璧さや第 4 回の県福祉センターにおいては更なるインターネット機器とその操作技術を保有する県社協の方々のご助力のおかげで極めてスムーズに実施できたし、オンラインへの不安は全くなかったことは大変、有難いことであった。

4. 今後の展望

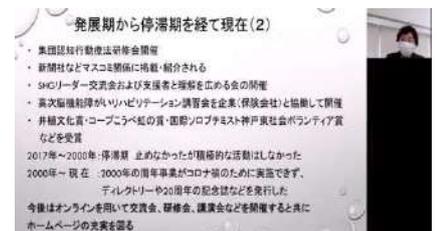
今後は当センターがそうしたインターネット技術力を有するスタッフを育成することにある、と思われる。また、県や市の社会福祉協議会が既に地域の SHG の状況を把握していることも多いことが判明したので、当センターの活動は市町村域の社会福祉協議会との協働あるいは話し合いを深めつつ、進めていくことが肝要かと考える。



第 1 回団体発表の様子



第 2 回団体発表・会場の様子



第 3 回活動報告の様子



第 4 回団体発表の様子

— 事業報告資料 —
「感性&多様性尊重のサステナブルデザイン事業」

食親同好会



1. 事業が目指すところ

1)ビジョン(地域健康づくり)に対し①食縁交流会活動 ②環境美化活動 ③多世代交流活動の3大活動を軸に社会貢献活動の展開を目指しています。
2) 上記ビジョンを達成するために地域QOL(主観的健康)の向上とソーシャルキャピタル(社会関係資本)としての地域の絆(相互扶助)を深めることが大切です。つまり、地域におけるローカルパートナーシップを活用し、橋渡し型で誰もが平等に参画し、有機的につながる地域をプロデュースすること(他者とのリアルな復権を図ること)になります。
3) サステナブルデザイン作成の為に、調査研究(フィジビリティスタディ)で可能性を追求しローカルパートナーシップを活性化して各団体をネットワーク組織化します。狙いは、スタートアップ(革新的なイノベーション)支援になります。

2. 活動内容

年月日	活動内容	年月日	活動内容
R4.4.30	腸活クッキング(腸内細菌活用の健康長寿策)	R4.7.30	栄養療法クッキング(生活習慣病予防対策)
R4.9.24	栄養医学協会とのコラボ。腸内細菌の好物(食物繊維&発酵食品等)で健康づくり。		甲南女子大学とのコラボ
		R4.10.16	美腸クッキング(疾病&未病対策)
R4.5.22	食養生クッキング(食生活改善策)		神戸女子大学とのコラボ
	医食同源をベースに免疫力アップ達成	R4.9.3	東灘クリーンサミット:東灘区美化団体と
R4/5/28	婚活クッキング(健全マッチングカップル誕生)		神戸市環境局との情報共有化を推進
R4/10/8	双子座クッキング(5/28) ハロウィンクッキング(10/8)を開催→ソフトな少子化対策	R4.10.29	食育と環境イベント(東灘区&灘区対象)
			食育3原則実践の講演と環境美化のイベント
R4.6.26	フレイル予防クッキング(機能性予防対策)	R4.11.5	神戸市立三宮図書館移転記念イベント
R4.11.27	神戸松蔭女子学院大学とのコラボ		神戸市障がい者団体の独占内覧会を実施
R4.7.9	サブディイベント(東灘区内の美化対策)	地域別毎月	甲南山手、深江、岡本、十二間、魚崎、御影、住吉
	大規模(100人以上)環境美化イベント	1~2回実施	2号線、山麓線、六甲道等各クリーンクルーで環境保全

3. 成果と課題点

(1) 成果→健康づくり集団としてローカルパートナーシップを活用した地域サステナブルデザインを実践
1) 食縁交流会活動:管理栄養士養成の女子大学(松蔭女子学院大、甲南女子大、神戸女子大)とコラボし、健康長寿を推進。→年9回実績、計261人(フレイル2回/66人、栄養19人、腸活2回/44人、食養生20人、美腸27人、婚活2回/42人)
2) 環境美化活動:地域別10クリーンクルーの美化活動に国土交通省より8月に道路愛護功労者表彰式で感謝状授与。→年145回実績、クリーンクルー参加者720人、クリーンサミット参加者27人 計747人
3) 多世代交流活動:ジェンダー&ダイバーシティを地域社会の中で自然適合を企図。→年3回実績、食育と環境70人、サブ100人、三宮図書館イベント25人 計195人

(2) 課題点→ローカルパートナーシップ活性化を期するも他団体との同時歩調を合わせるのが困難
1) 相互目標・目的が合致しても、双方の担い手不足・資金不足・認識不足が足枷になりました。
2) 新しい技術や考え方を導入する際に、既成概念にこだわる団体との交渉に手間取りました。
3) 調整(日程、目的、内容等)のスムーズ化は「フットワーク力・リアル力・即断力」がキーポイントでした。

4. 今後の展望、成果の活用

1) 食縁交流会活動：SDGs第3目標「すべての人に健康と福祉を」の実現に向けた食育の推進
→全世代対応食縁交流会として、従来からの高齢者対象に加え少子化対策の若者世代対応婚活クッキングをひょうご出会いサポートセンター(兵庫県青少年本部)と提携し、「あいサポート援団」として新たな挑戦をしました。健全なカップルマッチングに寄与し、少子化対策のソフト面開発で更に若者世代へのアウトリーチ型寄り添いを推進。

2) 環境美化活動：ローカルパートナーシップ活性化によるSDGs第11目標「住み続けられるまちづくりを」
→地域ネットワーク組織(クリーンクルー団/事務局:食親同好会)として10クリーンクルーを構築し、国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所との協働関係をより一層強化して、特に国道沿いの清掃美化を徹底していく覚悟です。東灘区&灘区内の国道沿いに「ボランティア・サポート・プログラム」のパネルが13箇所あり、WIN WIN関係を深化。

3) 多世代交流活動：ごちゃまぜ文化活用によるSDGs第4目標「質の高い教育をみんなに」
→感性と多様性をリスペクトする活動として「誰一人取り残さない」という全世代対象のプログラムを中心に推進してきました。その結果、教育の原点は子どもにあるという想いに至りましたので、今後は親子共育の観点からワークショップ形式で環境サステナブル策(自然の神秘と不思議さの尊重)をフィジビリティスタディで追求します。

2022年度報告

世代結び～持続可能なコミュニティのための多世代交流～

特定非営利活動法人きょうどうのわ

2020年から神戸市東灘区六甲アイランドで実施している世代結び事業の3年目について報告します。

【目的】多世代交流の場面や接点を数多く創出し、住民や団体をつなぐことで、地域活動が持続していくコミュニティをつくる。

【活動内容】①連続講座「RICファミリーあそびのひろば」を開催して子育て世代と地域をつなぐ ②活動団体を相互訪問でつなぎヒアリング調査をレポートにして発信する ③神戸国際大（六アイ）学生を地域団体の活動体験にコーディネート、地域と大学をつなぐ。



6月「交流会」26団体32人参加

①連続講座「RICファミリーあそびのひろば」開催

居住歴の浅い子育て世代のファミリーと地域をつなぐ活動として、2017年から3年間本助成を受けた前回の事業から継続開催し、定番となっています。前事業のひろばからは若いリーダーや活動者が複数誕生し、まちを活性化しています。今年も、9～12月まで3回開講し、延べ100人が参加しました。



神戸国際大チャペルでXmas会

②活動団体を相互訪問でつなぎ聞き取り調査レポートを発信

昨年度までに参加した地域団体は34にのぼり、そのレポートをポスターにして、2022年8～12月六アイ情報・交流センターでロングラン展示しました。今年度も、新たに5団体を追加掲載する予定で訪問調査を進めています。



神戸ファッション美術館で粘土アート

①③の報告も含め3年間の「世代結び事業」全体のレポートをまとめる予定です。

③神戸国際大学と連携、学生を地域団体の活動体験にコーディネート

地域貢献は大学のミッションの一つ、住民団体も地域資源としての大学のコミットを望んでいます。学生の地域活動体験を進めたい神戸国際大学が、昨年度の「団体訪問レポート」を見て当法人に協力を求め、地域団体と大学を結ぶコーディネートを進めています。6月の団体交流会での事業説明を経て14団体が受け入れにエントリーし、1月現在、9団体で学生の活動が成立しました。

2/9に開催する団体交流会で学生の報告を交え、事業のまとめと今後を考える予定です。



1



2



3



4

- 1 国際交流団体「CHIC」のイベントで活動
- 2 放課後居場所「スマイル」で活動体験（後列右から3・4番目）
- 3 「こぼらっと」のおやさい市で接客体験（右側男子）
- 4 「ゴミ出しお手伝い」を見学する留学生（右から1・3番目）
- 5 「美緑化RICの会」で作業体験（前列）



5

おともだちプラス交流プロジェクト事業（3年目 ネットワークを広げよう！編）
特定非営利活動法人 友之会

1 事業が目指すところ

継続して交流をしている生産地域の高齢者、消費地域の障がい者・障がい者家族・支援者とともに、活動に興味ある一般市民、子育て世代層への交流を広げる。
修繕した茅葺古民家を中心にさらなるネットワークを深め広げることを目指す。



5/29 神戸女学院大学の屋外授業の様子

2 主な活動内容

- ・南あわじ市の玉ねぎの収穫（6/4、5）2回
- ・夏野菜、黒枝豆の種まき・苗付け・盛り土・草むしり等（4/3～9/19 6回）
- ・黒枝豆の収穫（10/8、14、15、21、23、29 6回）
※23日は借切りバス2台で、1日の参加者人数63人過去最高となる
- ・就労支援「ぼこあぼこ」野菜提供
毎週月曜日（4/4～3/27 最終52回予定）
- ・木の芽家族会野菜提供
毎月第二日曜日（4/10～3/12 最終12回最終予定）
- ・家族会新春懇親会に落語家露の団六氏を招へい
1/8実施 概ね60名参加



6/4、5 南あわじ市玉ねぎの収穫の様子



ファミリー層のじゃがいも・ブルーベリーの収穫の様子



1/8 家族会での露の団六氏



10/23 黒枝豆収穫参加者最大の様子



10/21 黒枝豆収穫時の集合写真



10/29 黒枝豆収穫の様子

3 成果や課題点

今まで参加がなかった一般市民、子育て世代層、大学生等の参加があり、ネットワークが広がったことはとても良かった。また活動に賛同していただいた企業よりブルゾン・長靴等の贈呈を受けることが出来た。しかし、継続しているがための役割分担のあいまいさ、参加人数が増えることでの伝達方法に課題が残った。今回を機に改善策を検討していく。



立花産業での里深氏スピーチの様子

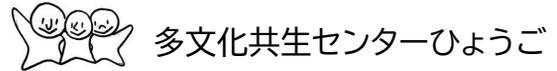
4 今後の展望、成果の活用

- ・教育関連各所との連携を増やす。
- ・企業関連の福利厚生の一環として利用していただけるよう提案していく。



茅葺古民家での幅広い世代の交流の様子

「プラスたぶんか」多文化な背景をもつ家族への子育て支援場所づくり



《事業の背景と趣旨》

- 外国人の子どもに対する支援は、小学校に入学してからの「学習支援」が中心である。未就学児に対しては組織立った活動が行われておらず、支援の空白期間が生じるという課題があった。
- 地域に暮らす外国人、特に未就学年齢の子どもがいる家庭を対象に、交流や居場所となる場所を提供し、早期からの社会参画をめざす



《事業実施》

- 場所 KICC御影にほんごプラザ(神戸市東灘区御影本町、御影市場内)
- 時間 土曜日午後3時～4時30分
- 内容
 - 個別支援 年齢・月齢に合わせた交流や学習支援(ブロック、折り紙、ひらがな学習など)
 - 交流イベント 地域のこどもたちと多文化なイベントで交流
 - 個別相談対応



ボランティアも子づれで



ドイツの方からクリスマスのお話



ブロックで遊ぶ

《成果》

- 新しくオープンした御影にほんごプラザを利用して、新たな外国人支援の拠点づくりができた
- 帰国子女やインターナショナルスクールの子どもなど、公的な支援からもれている人たちにアプローチができた
- 交流イベントを通じて、御影市場の方との交流ができた

《課題》

- 就学前の子どもの発達課題へのアプローチについて、外国人の保護者の理解を得るのが難しい(問題が顕在化・重大化してから相談に来る)
- 自分のコミュニティ以外に関心のない保護者の存在
- 活動が空いたときのボランティアのモチベーションの維持

《今後の展望》

- 御影にほんごプラザにおける他の事業との組み合わせで、より参加へのハードルを下げたい
- 近隣のイベントにも外国人住民が参加できるための橋渡しをする

地域を愛するこどもを育む事業

団体名:東灘こどもカフェ

【12年間の歩み】

阪神淡路大震災の炊き出しをきっかけに始まった配食ボランティア活動をベースに東灘こどもカフェとして13年目を迎えました。活動の幅も広がりますます充実し、2022年に前の道路には会員さんの投票により「ふれあい甲南三番街」と言う名称がつけました。みなさんのお陰でこどもにとっても大人にとっても楽しく安心して来れる居場所になっています。

日程	内容	詳細
7月24日	こどもの軽音楽部による演奏会	こどもたちがバンド系の楽器に触れ、音楽を通して「自分の好きな事を自由に楽しめる場所や仲間を増やす」「地域の活性化」その一歩としてバンド演奏体験まで出来るワークショップ付き演奏会。
7月31日	こども音楽体験ワークショップ	こどもの軽音楽部kidsBandの講師による「楽器に触れて音楽の楽しさを知る」体験型ワークショップ第一回。
8月11日	こども音楽体験ワークショップ	こどもの軽音楽部kidsBandの講師による「楽器に触れて音楽の楽しさを知る」体験型ワークショップ第二回。
10月1日	ワークショップ参加者による音楽発表会	7月のワークショップから自分と、そして仲間と共に頑張った練習の成果を披露し、自分が頑張ることで地域の方を元気づけ笑顔にする経験をしてもらう音楽発表会。
10月2日	こども屋台イベント	いつもは大人のお手伝いをするこどもたちが主役になって、大切な誰かのためにメニューから販売まで行う。与えられた予算の中でより多くの方に美味しさや笑顔を届けられるか、食育やお金の流れまで学べるこども屋台。
10月28日	こどもハロウィン英語パーティー	開始から終わりまで、終始英語で会話を繰り広げる楽しく英語を覚えるハロウィンパーティー。先生からのサプライズプレゼントも準備して頂きました。
12月10日	こども音楽クリスマス演奏会	2022年の下半期から始めた素人だったあの子がkidsBandとして、自分の為、家族の為、地域みんなのために、それぞれの思いを込めて演奏するクリスマス演奏会。
12月26日	こども写しん聞の発行	こどもだから知っている。地域のおすすめの飲食店、公園、遊び場所を紹介するこども写しん聞、第一号を発行。



〈参加者の感想〉

- ・体験出来て良かった。
- ・友達と一緒に楽しかった。
- ・くじ引きや工作をするのが楽しかった。
- ・いろんな工夫や遊びがあってとても楽しい。
- ・いろいろなふれあいがあって良かった。
- ・輪投げが楽しかった。
- ・カップケーキが売り切れで残念だった。
- ・初めて楽器に触れて嬉しかった。
- ・こどもが楽しそうな姿を見て嬉しかった。
- ・共通の趣味や音楽好きの人と演奏出来て楽しかった。
- ・いつも色んなイベントをありがとうございます。
- ・子供が楽しめるイベントをこども自身で手伝い、地域の方と交流があって良かった。

〈今後やってほしいイベント〉

- ・工作、こども囲碁、こども作文教室、カフェ
- ・カップケーキが売り切れていたのも、またカップケーキ屋さんをやってほしい。
- ・お祭りを開催してほしい
(スーパーボールすくいなど)
- ・料理教室の回数を増やしてほしい
- ・楽器演奏よりも楽器に触れる機会を増やしてほしい

〈今後展望〉

- ・こどもが主役の地域の人が楽しめるお祭りを東灘こどもカフェ主催で開催し、地域の成果に繋げることが目標です。

地域づくり活動 NPO 事業助成
居場所向け自己評価ツール(エコシステムワークブック)を用いた運営支援
～県内の中間支援NPOとのタイアップによる取り組み～

認定 NPO 法人コミュニティ・サポートセンター神戸

1. 事業が目指すところ(事業の目的、社会課題)

- ・居場所やボランティア団体が活動を継続・発展させるための評価ツールを知り、今後の活動に役立てる
- ・県内の中間支援 NPO と共に支援スキルを高める

2. 活動内容

以下の内容でエコシステムワークブックを用いた「NPO 評価セミナー」を開催

	会場	実施日	パートナー団体	協力団体	参加人数 (うち関係者)
1	豊岡	12月2日 (金)	NPO 法人プラッツ	豊岡市社会福祉協議会	9 (7)
2	淡路	12月14日 (水)	NPO 法人ソーシャルデザインセンター 淡路	洲本市社会福祉協議会、 南あわじ市社会福祉協議会、 淡路市社会福祉協議会	11 (9)
3	姫路	1月24日 (水)	認定 NPO 法人コム サロン 21	姫路市社会福祉協議会	10 (4)

3. 成果と課題

1) 成果

- ・参加団体が組織の現状を「見える化」することができた。エコシステム、「できていること」、「これから伸ばすこと」を明らかにし、今後の活動計画づくりの参考にすることができた。
- ・パートナー団体や協力団体と共に中間支援に必要な評価のスキルを高めることができた。

2) 課題

- ・ワークブックの更なる充実、運営支援の更なる充実

4. 今後の展望、成果の活用

- ・エコシステムや、組織評価チェックシートを毎年実施し、定期的な評価の実施を目指す。



令和4年度 中間支援活動助成報告書

認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸

●事業名: 文化・交流系の地域活動団体の創出支援事業「地域貢献ゼミナール」開催

●実施目的: 元気なシニア層が、各分野の地域活動について学んだ上で、自ら活動を始めることを目的とする。

●セミナー内容

回	コマ	講座名	講師	会場
理論編	7月8日(金)	オリエンテーション	事務局	兵庫区文化センター会議室1・2
		① シニアの新しい働き方や地域貢献活動	帝塚山大学名誉教授 中川 幾郎さん	
	7月22日(金)	② 地域活動を知る(1) 文化・スポーツ	【文化】ボンジュール紙芝居 保田 光雄さん 【スポーツ】リフレッシュ船寺 中山 寿子さん	兵庫区文化センター会議室1・2
		③ 地域活動を知る(2) 子ども・高齢者	【子ども】こどもフクワク食堂 榎本 憲子さん 【高齢者】つどい場コスモス 山本 靖之さん	
実践編	7月下旬	⑤ 実習	各自興味のある分野の団体で実習を行い、地域活動を行うイメージをつかむ。	CS神戸の各拠点の紹介による地域活動団体
	8月5日(金)	⑥ 実習の振り返り	CS神戸理事長 中村 順子	兵庫区文化センター会議室1・2
		⑦ グループワーク(1) 事業計画シミュレーションワーク		
	8月19日(金)	⑧ グループワーク(2) 事業計画シミュレーションワーク	人・モノ・お金の集め方、プログラムの作り方など実践的に学びます。	兵庫区文化センター会議室1・2
		⑨ グループワーク(3) 事業計画の発表		
フォローアップ	9月	⑩ フォローアップ研修	グループ立ち上げやマッチングに対するフォローアップをCS神戸の各拠点にて行います。	CS神戸の各拠点(東灘区、灘区、長田区、垂水区)

講座



グループワーク



集合写真



フォローアップ研修



●成果・課題・今後の展望

【成果】

- ①50・60代現役の方から、80代元気シニア12名参加し、講座の募集意図と合致。
- ②男性の地域活動者が増えない中、参加者12名のうち7名男性。ニーズがあることが分かった。
- ③実習先として、講座趣旨に賛同した14地域団体の協力を得られ、「スポーツ・文化・子ども・食・高齢者・多文化共生」と多様な6分野を参加者に提供。
- ④修了後もフォローアップ継続中。
 - 1)9~11月に3グループ(地域の居場所、子どもの居場所、あいさつ運動)がトライアル実施。
 - 2)1月にトライアルの報告発表会を行い、有志が地域の居場所「笑顔サンサン」立ち上げ。
- ⑤受講生1名が地域の居場所「ほほえみの集い」を垂水区で立ち上げた。同居場所に、受講生2名が絵手紙指導と銭太鼓披露でボランティアとして参加予定。
- ⑥新型コロナウイルス感染対策を徹底して開催。感染等の報告は入っていない。

【課題】

- ①事業所と離れた兵庫区での開催で集客に苦戦した。(広報こうべ兵庫区版・Facebook広告実施)
- ②受講生の居住地が神戸市内・市外とばらけていた為、グループ立ち上げが難しかった。

【今後の展望】 地域で活動するグループが数多く立ち上がることを目指して、今後は事業所がある灘・東灘・中央区でのサポートにより力を入れていきたい。

〈本事業のCS神戸での位置づけ〉



本事業は、CS神戸が独自に設定した団体発達の7ステップを6拠点でサポートしているうちの、「2.知識学習」「3.企画づくり」「4.試行・なかまづくり」の部分を実践するものであり、新たなグループの立ち上げを目指します。

2022年度「水曜・土曜つどいのひろば」

特定非営利活動法人 サポートステーション灘・つどいの家

1 事業が目指すところ

「カフェでもない、塾でもない、居場所！」をモットーに、子どもの居場所づくり事業として、食事支援、学習支援、心のケアを目的としている。金曜日にも実施しており、週2回ペースで開催中である。

土曜日は、同日同所でデイサービスを実施しており、多世代交流できることが魅力である。

2 活動内容

(1)水曜・土曜つどいのひろばの開催

日時： 第1・3・5水曜 15時～17時、第2・4土曜 10時～12時

対象： 地域の小・中学生 10名/回 参加料：100円/回

場所： 水曜；おせっかカフェ 土曜；成徳地域福祉センター

(2)広報活動：チラシの配布。事例の発表2回（あつまれなだっこサポーター、居場所講座ゲスト）

(3)連携活動：他団体の活動見学。ボランティア研修の受け入れ。交流会への参加。

3 成果や課題点

(1) 成果

食事付の学習支援は、保護者から助かるという声を頂く。食材の寄付が増え、餃子を焼くなど簡単な自炊もできた。他学校や他学年の友達も出来て、児童の自信につながった。声が出にくい児童、発達がゆっくりな児童も参加しているが、大学生や他児童と楽しく学習している。ポッチャや輪投げを取り入れ、自然に多世代交流ができた。事例発表や交流会への参加、ボランティア研修の受け入れにより、4名のスタッフ増員につながった。頭の片隅にあった記憶によって、困っている方を必要な支援団体につなぐことができ、交流会や報告会のありがたさを感じた。

(2) 課題点

迅速かつ都度の活動報告ができていないこと(SNS)。収入源の確保。学校との連携の少なさ。

4 今後の展望、成果の活用

2018年度にスタートした子どもの居場所、コロナで一時休止もしたが、2020年度から当助成金のおかげで、回数や開催日の増加と事業を拡充することができた。食材・資金・人材等、多くの支援があって実施できていることを強く感じている。他団体の活動の良さを取り入れたり、当団体の活動を伝えたり、連携しながら活動することができた充実した一年であった。これからもその感謝と連携の大切さを忘れずに活動を継続していくとともに、2023年度は、これまでの歩みをフォトブックにして、子どもの居場所立ち上げ支援の新ツールとして活用していく所存である。



「コロナ禍におけるミャンマー人への支援・交流事業」

特定非営利活動法人ミャンマーKOBÉ

1 事業が目指すところ

コロナ禍で生活上の困難を抱えるミャンマー人に対し、食料等の支給を行い支援するとともに、講演や写真店により市民のミャンマーへの理解を促進する。

2 活動内容

(1)生活相談会の実施

神戸在住・在勤等のミャンマー人から、面談や電話・メール等により、生活・住居・仕事等に関する相談を受け対応を行った。

(2)食料等の支給会

ア 冬服等プレゼント会

日本で暮らすミャンマー人にとって日本の冬の寒さは厳しい。コロナ禍のなか生活が苦しいミャンマー人を対象に、寄付を受けた冬用の服や寝具をプレゼントした。プレゼント会は、11月から12月にかけて7回実施し390人の参加があった。



イ 食料支給会

- ・ミャンマー人を対象に、米・カップ麺・レトルトカレー等の食料支給会を5回開催し、約60人に支給した。
- ・ミャンマー人によるフットサル大会時に、米・麺類等の食料及び料理を約800人に対して支給した。

(3)神戸市民のミャンマーへの理解の促進

NPO法人ミャンマーKOBÉの鳴嶋副理事長による講演会を実施した。テーマは副理事長が行ってきたミャンマーでの事業に関するものであり、当法人の会員をはじめミャンマーの関係団体や支援団体及びミャンマー人の参加もあった。

(4)ミャンマーに関する活動の市民等への紹介

ミャンマーの少数民族の村に水道を造った神戸市北区の佐々木晃一氏の写真展を、ひょうご国際プラザにおいて、9月～10月に開催した。

3 成果

多くのミャンマー人に冬服・寝具や食料を支給し各種相談に応じることにより、生活支援が可能となり、また、市民等に対してミャンマーの理解を促進することができた。

4 今後の展望

引き続き、これらの事業を検証のうえ継続実施し、ミャンマー人の生活を支援していく。

アートを通して農に触れよう！

(特非) NPO 法人オルタナティブビレッジ

●本事業の目的

本事業を企画した目的は“アート”という側面からオルタナティブビレッジに関心を持ってもらい、より多くの人にまずは当団体の存在や活動を知ってもらうことである。

当団体の存在する目的は、“農・食”を通してコミュニティを形成することで、日本社会が抱える問題を解決する。そのため、農作業プログラムなどを通して人とのつながりを形成し、個人が抱える問題をサポートし合う共助のコミュニティを形成するよう心がけていた。しかし、当団体の抱える課題は、農や食への関心が非常に高い人のみが私たちのイベントに参加しており、それ以外の人たちにリーチしていない。そのため、まずは私たちの存在を知ってもらう活動として、アートという側面でイベントを行った。

●活動内容

農×アートワークショップ

【第1回】8月18日/講師 黒木拓実

・参加人数 4組9人

・内 容 作物でオリジナルキャラクターを作り

【第2回】9月11日/講師 黒木拓実

・参加人数 8組20人

・内 容 野菜を使ってクレヨンづくり



<イベント風景：畑で作物を探索中>

【第3回】10月30日/講師 黒木拓実

・参加人数 8組15人

・内 容 かぼちゃを作ってランタンづくり



<イベント風景：ランタン作成中>



<イベント風景:クレヨンを作成中>

【第4回】12月18日/講師 原田遊歩/黒木拓実

・参加人数 7組11人

・内 容 しめ縄を作るワークショップ



<イベント風景:しめ縄作成中>

●成果…総勢 27組 50名以上の方が本企画に参加してくれた。アンケートの満足度も高く、自然が多くない地域からの参加者は日頃触れられない畑に触れられると、連続で本企画に参加してくれる方もいた。今までオルタナティブビレッジがリーチできなかった層に来てもらえ、当団体を知ってもらうきっかけづくりになった。

●反省点と今後の展望…課題は当団体との今後の関わり方である。今回が私たちの存在とその活動を知り、農に関心を持つきっかけづくりとなった。そこからの一歩踏み込んだ農の初級、中級のコンテンツを持ち合わせていないことが反省だと感じた。今後は、「きっかけづくり・初級コンテンツ・中級コンテンツ・上級コンテンツ」と導線をきちんとつくり、活動が終了後は次のステップに流していきたい。

みなさま、はじめまして！

「地域チャレンジセンター・プラス」です！

神戸市北神地域・西宮市北部を主な活動拠点とし、地域社会にそして自分自身に「プラス」を生み出したいと考える人が集えるような「場をつくる」活動を始めました。2022年3月に立ち上がったばかりの中間支援団体ですが、北神地域に縁のある方がつながれるような取り組みを進めていきます。

なお、2023年3月にNPO法人格取得予定です。

●主な活動内容

1. 市民活動やNPOの立ち上げや運営に関する相談支援を行います。
2. 北神地域で活動する人たちの「つながり」を作ります。
3. 北神地域の魅力を、掘り下げていく場をつくりまします。
4. 北神地域内に多様な「居場所」を作るサポートを行います。

【中間支援活動助成(創設支援事業)】

講座① 「はじめての助成金セミナー」	講座② 「労働者協同組合ってなに？」	地域アイデア創出会議② 「淡河の取り組みを参考に 私たちの地域でできること」
神戸市こどもの居場所づくり事業補助金を事例に、助成金を出す側(行政)・受けた側(NPO)双方のゲストからお話を聞く講座を開催しました。また、代表・大島による「助成金申請書類作成のポイント」の解説も実施しました。	「労働者協同組合」は、一人ひとりが出資することで、それぞれが代表でかつ労働者でもあるという、新しいタイプの非営利法人。兵庫県相談窓口を担当する兵庫県行政書士会をお招きして、メリットや懸念点を聞きました。	淡河は神戸市の中で最も奥深くにある地域のひとつ。急激に少子高齢化の波が押し寄せる農村で、暮らす人々が「ここで暮らせてよかった」と思え次世代が住み続けたいと思うまちづくりのお話を聞きました。
日時：2022年7月22日(金) 14:00~16:00 場所：北神区文化センター 参加者：8名 ゲスト：西 みどりさん(神戸市) 春山尚貴さん(NPO)	日時：2023年1月16日(月) 14:00~16:00 場所：北神区文化センター 参加者：8名 ゲスト：阪本浩司さん(行政書士)	日時：2023年2月3日(金) 14:00~15:45 場所：淡河宿本陣跡 参加者：8名 ゲスト：鶴巻耕介さん(淡河ワッショイ)
		

※第1回地域アイデア創出会議(2022年12月18日)は、コロナ急拡大を受け中止

【地域づくり活動 NPO 事業助成】

多様な社会・地域に対応した子ども・若者まると支援事業

新旧の住宅地が混在した特徴ある地域である神戸市北神区および西宮市北部(いわゆる裏六甲エリア)は、「過疎地で孤立した母親」と「新地域でキャリアと子育てのジレンマを抱えながらのワンオペ子育ての母親」が存在している地域です。また、母語が非英語圏の外国人親子も増加傾向にあり、言語の問題から社会との接点を持てず孤立状態に陥っていることや、公営住宅や UR も多い土地柄のため困窮世帯やひとり親世帯も増加傾向にあります。しかし、「最初の一步として相談できる人や場」がない現状です。

子どもの「生きる力」の原点は母親の「生きる力」であり、乳幼児の発育環境が学齢期の子どもの発達に大きな影響を与えることと考えられます。窮状にある母親が少しでも自分らしく心穏やかに生活するためには、支援する人や場、機関などさまざまな社会資源との出会いが必要ですが、圏域の社会資源が「見える化」されていません(行政も手を付けることができていないようです)。そこで、本年度は、圏域内における子ども若者やその家族を支えるための人的資源を洗い出し、見える化するための取り組みを行いました。

●居場所実態調査	●支援者交流会の開催
<p>【訪問先】</p> <ul style="list-style-type: none">・自宅開放型フリースペース natural K(7/1)・(特活)りぐこうべ兵庫(8/8)・JLC 自然塾(8/25)・からとの未来を考える会(9/1)・(一社)子育て広場 そよ風(10/3)・(特活)オルタナティブヴィレッジ(11/9,12/7)・森の学校つくも(12/5)・上山口東自治会”子ども食堂みんなあつまれ”(1/25)	<p>①秋の収穫体験(10/16 & 10/30)</p> <p>子育て中の母親と子育て支援者が会う場づくりとして、JLC 自然塾と連携して収穫体験を実施。</p> <p>参加者： 13 家族(うち、支援者6人)</p> <p>②子育て支援者ネットミーティング(10/3)</p> <p>支援者・社協職員とが集まり、北神地域における子育て支援環境の実態について情報を共有。</p> <p>参加者： 5名</p>

【コーディネーター(島津)の考察】

今回は立ち上げとして、地域の子育て支援をやっている(やっていきたい)という強い想いを思っている方に声を掛けたところ、北神や西宮北部地域では、地域活動団体はあるが情報が入りにくい、または、他団体との関わる接点がないという課題の認識は一致しました。

まずは、地域の支援者(これから支援をしたいと思っている人)とのつながりを作り、地域の子育て支援について一緒に考えるような場をつくっていく必要があると感じました。多様なスキルをもつ当事者性のある女性がこの地には多くいるので、気軽につながれる場を作って「未来の支援者」となるよう支援の輪を広げていきたいと考えています

北神地域初の中間支援組織

地域チャレンジセンター・プラス

challengecenter.plus.
kobe@gmail.com

様々な困難を抱えた方の日常生活支援事業

NPO法人 神戸の冬を支える会

1、事業の目的、趣旨

アルコールや薬物依存症、ギャンブル依存症、認知症、発達障害など様々な問題や生きづらさを抱え、生活費の浪費や近所とのトラブル、地域からの孤立、家賃の滞納、万引の繰り返しなど日常生活に困難をきたす方に対して、生活破綻を防ぎ、安心して日常生活が送れるような具体的な支援活動を通じて問題の本質を見抜いて解決を図る。



2、事業の方法

以前の「刑事施設釈放者の生活再建と再犯防止のための事業」の成果と課題を踏まえ、制度の谷間に落ちて支援が行き届かない現状を解決していく。

- ① フォーマルな制度の枠組だけでは支援しきれない問題を抱えた人を支援
- ② 関係機関と連携しながらインフォーマルなサポートを組み合わせて支援
- ③ 困難を抱えた方の生活と人権を守っていくことが必要
- ④ 食糧支援。金銭管理、住居確保支援、刑事施設釈放時の支援など必要に応じた活動

3、具体的な活動内容 Aさん（30歳代女性、単身）の場合



複雑な家庭環境（ネグレクト、DVなど）。知的障害、浪費壁があり、所持金がなくなると当り屋をして、これまで2度服役。刑事裁判での情状証人や服役中の手紙でのやり取りで信頼関係を築き、満期釈放時は地域生活定着支援センターと連携し帰住先の確保、その後の生活を多くの団体のネットワークを形成しサポート。これまで何の支援もないうまま、貧困、犯罪、服役を繰り返して来たことから脱却を目指す。

4、成果と今後の課題 約100の方に延べ数百回の支援の実施。

- ① 支援制度もなく、支援が受けられないことにより生活が成り立たない方へのサポートの必要性。制度の枠で考えるのではなく、対象者のニーズから発想し、特に社会的に理解を得にくい方々であるからこそ支援が必要というスタンス。
- ② 生活や権利を守るためにはフレキシブルに行動し、何でもするというスタンスの重要性。関係機関への同行、手続支援、食糧支援、訪問など。
- ③ まず行動。関係機関との連携。信頼関係は実際の支援活動を展開する中で生まれ、支援する中でさらに支援の輪が広がる。
- ④ 制度の谷間を埋める活動は社会的に必要な活動。放置による複雑化、深刻化を防止。支援を手探りでも実行していく中で新たな社会的に必要な制度創出への手がかりとしていくことを目指す（ソーシャルアクション）。

摂食障害の理解を深めるために～自然との触れ合いの中で～

特定非営利活動法人 ガジュマルの船

1. 事業が目指すところ (事業の目的, なぜこの事業を実施しようと思ったか, 課題となる社会情勢)

- ・摂食障害：主に心理的な原因のため、拒食・過食・嘔吐等食行動に異常をきたし心身に深刻な影響が及ぶ病気。他の依存症を併発する場合も多い。差別や偏見を恐れ、適切な治療や支援を受けられず孤立する当事者も。
- 摂食障害や関連する精神障害当事者が孤立することなく、地域で生活できる居場所、つながりをつくる
- ・摂食障害の当事者どうしが交流し、当事者を主体として共に悩みを分かち合い、解決策を考える機会を設けることで、回復と自分らしい生き方の確立を目指す。
- ・摂食障害の理解を深める啓発活動を行い、差別や偏見なく精神障害者と健常者が共に生きる社会を実現する

2. 活動内容

(1) 畑作業

- ・事務所の近くの畑を借り、土づくりからはじめ、野菜や花を育てる。
- ・作業に対する責任感や、植物の生長を見守り収穫する喜びを得た。
- ・指導をして下さる地域の方とのつながりも。



(2) ミーティングの開催

- ・「ミーティング」＝心の中にかかえている苦しさや、自分の体験を「言いつばなし、聞きつばなし」のルール（他の人が話すことに批判も賞賛も意見もせずただ聴く）で語り合う場。安心・安全な守られた環境で自分の思いを話すことで、自己洞察を深め、各々の生きづらさからの解放につなげる。
- ・オンライン併用で、常時4～7名ほどの参加

(3) 機関誌の発行

- ・B5判16ページの小冊子を作成。年6回発行。会員、賛助会員、医療機関、福祉機関等に郵送
- ・文章や近況、行事報告、イラストを各々が執筆、パソコンの得意なメンバーが組版担当



3. 成果や課題点 (事業の成果, 事業により明らかになった課題事業そのものの反省点や課題)

- ・ミーティングを定期的に休まず継続し、各々が自己の内面を見つめ回復への手掛かりができた。
- ・他の当事者団体や医療機関との連携ができた（医療機関からの紹介で新規に参加した当事者も）。
- ・計画したが途中で断念した事業がある→現実に即した計画でなかった面もある。
→メンバーの状態（心身ともに回復途上であること）も考慮に入れ、現実に即した計画を立て、実現可能な活動を堅実に継続して続けることと、「やりたいこと」を支える人とのつながり作りが必要

4. 今後の展望, 成果の活用 (事業による成果や経験が今後の団体の活動にどう活用される・していくのか)

- ・摂食障害・精神障害以外のつながり（医療、教育、地域）へと広げていく
- ・摂食障害や依存症からの回復には、人との社会的なつながりが重要
→現実に即した無理をしない活動を継続し、当事者が孤独感から解放されて、自らの生きる意味を見出しながら自己肯定感を得、自らの力を発揮し、社会で生きる力をつけたい→ともに生きる社会へ
- ・新しくつながった当事者が、活動の中で役割を担っていくことで次世代へとつなげる循環をつくる
- ・団体として、経済的に自立した運営ができるよう、自らの仕事づくりを考える。

「心の病や精神障害（ひきこもり、発達障害含む）で悩む家族、当事者への電話相談及び面談」

特定非営利活動法人神戸市精神障がい者家族会連合会

1 事業が目指すところ

一般社会の偏見がまだ強く、身体・知的障害に比べ理解や支援が進んでいない精神障害の当事者の家族が、自らの体験から学んだ知恵や知識を困っている方へ共有し、適切な機関に繋ぎ、病気と折り合いをつけて前向きに生きていく支援をすることを事業の目的とする。

2 活動内容

高森先生講
演会

- ・相談員による電話相談 毎週金曜日
- ・相談員の研修会 毎月1回（第4金曜日）
- ・相談員の募集 随時
- ・相談室の整備 相談員用のデスク、パーテーション購入
- ・講座開催(全2回)

10/6 高森先生による講演会

「あなたの力が家族を変える」

1/22 金子・金井先生による講演会

「働きたいと思ったとき・人を雇いたいと思ったとき、
守らなければならないルールや、知っておきたい
制度・知識について一緒に勉強しませんか？」



金子・金井先生
講演会

3 成果や課題点

(1) 成果

専門家を招いての講座開催により、相談員のスキルアップに繋がり、相談内容の質が向上した。

(2) 事業の反省点

交通費・日当を付けることによる相談員の増員を目指したが、問題を抱えている家庭が多く、増員には繋がらなかった。

4 今後の展望、成果の活用

2回の講座開催を通して、専門家による研修会の実施等のノウハウを構築できたので、今後もこの経験を活かし、定期的を開催することによって相談部の質の向上を図り、精神障害の当事者の家族のさらなる支援に繋げていきたい。

『2022年度兵家連メンタルヘルスセミナー』（連携重視事業）

(公社)兵庫県精神福祉家族会連合会

1. 事業が目指すところ

精神疾患は未だ決定的な薬は無く、人薬、時間薬が主体を占めるが、それを理解するのも時間もかかる。多くの福祉サービスがあるが、そのサービスも多岐にわたり、複雑で周知されていない。精神医療制度そのものにも問題点が多く、その解決には多くの方々の協力が必要である。精神疾患に苦しむ当事者、ご家族、支援者、一般の方々に情報を伝えて地域連携を図り、偏見解消にも役立ちたい。今回は、精神障害者を持つご家族を対象として、どのような対応をして行けば、当事者とご家族が理解し合い、治療に近づくかを連続セミナーにより、集中的に学んでいくことを目的とした。



参加者 39 名の第 2 回セミナー風景

2. 活動内容

	開催月日	セミナーのテーマ
1	8月7日	精神障害者の家族のための介入 技法プログラム(1回目~4回目)
2	9月4日	
3	10月13日	
4	11月10日	



3. 成果や課題

4回までの開催で参加者延べ137名であった。昨年までは種々のテーマで討議していたが、今回は、一つのテーマでの連続講義であり、精神障害者への対応方法について、非常に詳しく学ぶことが出来た。此の種の技法は、頭で理解して駄目であり、何度も実践して失敗しながら学ぶものであることが良く分かった。その意味でも、精神障害は本当に難しく、家族が疲れて、倒れないように当事者と上手く向き合う方法が必要であることが分かった。今後は、今回のやり方を何度も試しながら、自分なりの対応方法を身に付けて行かねばならないと理解した。参加した方々からも、大変良いセミナーであったとの声が聞けました。

4. 今後の展望と成果の活用

- ① 多くの専門家や福祉事業所内に熟練の福祉支援専門職が居るが、その方々とのネットワーク作り、当事者を包括的にケアしていく体制を目指していきたい。
- ② 講習会資料全体を製本化して配布することにより、精神障害者への家族の対応方法を多くの方々に伝えていきたい。

難民申請者等の生活と権利を守るためのプロジェクト

特定非営利活動法人 NGO 神戸外国人救援ネット

1 事業が目指すところ

日本で暮らす外国人が増加する中、難民申請を行う外国人も多数存在するが、難民として認められる人は極めて少なく3%程度（2021年度）である。不安定な在留資格のまま、生活に困窮する人も多く、法律的なサポートだけでなく、生活そのものに関わるサポートが必要である。また、ウクライナ情勢の深刻化の中で難民問題が日本の課題、地域社会の課題であることが可視化されてきた。神戸は1917年のロシア革命時の白系ロシア人や第2次大戦時のユダヤ人、ベトナム戦争後のベトナム難民など、様々な難民を受け入れ今日の神戸のまちを共に築き上げてきた。本事業では、現在の神戸で暮らす難民申請者への総合的サポートを行うことと、「難民と神戸」の歴史を学ぶことを目指す。

2 活動内容

◆難民申請者等に対して、以下のようなサポートを行う。（随時）

- ・弁護士事務所や各種関係機関への同行、通訳の派遣
- ・各種手続きのサポート
- ・住居の確保、食料品や生活用品の提供

◆「難民と神戸」を学ぶ講演会とまちあるきを開催

2023年1月9日（月・祝）13時半～16時半

「神戸のベトナム難民」

講師：野上恵美さん（ベトナム夢 KOBE 代表）

◆「難民と神戸」に関する情報収集と、リーフレットの作成

3 成果や課題点

◆成果

・アフガニスタン、イラン、ウガンダ、ウクライナ、カメルーン、ガーナ、ギニア、シリア、セネガル、チュニジア、ブルキナファソ、ミャンマーなどの難民申請者へ、物資配布、同行・通訳支援を実施することができた。

- ・講演会に20人（対面）+5人（オンライン）、まちあるきに22人が参加した。

◆課題

- ・3年間の取り組みをまとめる冊子を現在作成中。
- ・予算や人手の関係もあり、難民申請者が必要とする全ての支援が出来たわけではない。

4 今後の展望、成果の活用

様々な団体と連携し、この3年間の事業を実施することができた。「難民と神戸」を振り返る冊子を現在作成中なので、この冊子から歴史を学び、それをもとに今後、難民申請者をはじめとする在住外国人の支援を地域全体で取り組めるようにしていきたい。



1. 事業が目指すところ

以前より小・中学生の学校外での文化体験活動の機会が減っており、コロナ禍でさらに学校内での体験機会までも失われています。コロナ前と同様に大勢で集うことが叶わなくなっている現状においては、少人数で、かつ開催機会を増やすことが求められています。

学校現場においては、コロナ対策の負担増にとどまらず、家庭教育や社会福祉の機能までも担う必要も増し、すべてのこどもの個性を受け入れる余裕がないのが現状です。地域で継続的に関わり、こどもの主体性を引き出す支援を行うため、特に学校教育で十分に補えないロボットプログラミングを含む情報教育や、音楽、文化芸術分野の体験活動の機会を創出することが目的です。

2. 活動内容

<p>ロボットプログラミング (小学生9名) 6/19、7/17、8/21、9/18、10/16、11/20、12/18、1/15、2/19 (予定) 講師：(株) S&F PARTNERS プログラミング教室 Makids 講師</p>	<p>2022/7/26 こども陶芸 (小学生7人、中学生4人) 講師：工房我楽多 富田幹彦先生</p>
	
<p>2022/8/6 デコレーションケーキ教室 (小学生12人、中学生3人) 講師：レーブドゥシェフ佐野靖夫氏</p>	<p>2022/8/16 理科実験教室 (小学生4人) 講師：SpaceMori 理科実験教室 森永和子先生</p>
	

3. 成果や課題点

- (1) 成果：学校外での地域のプロ講師との関わりにより、こどもの興味関心がさらに高まった。
- (2) 課題：コロナウイルス感染拡大の影響で、実施が叶わなかった事業があったが、今後も柔軟な対応が求められる覚悟が必要。集客、広報の難しさがあり、学びを必要とする家庭に届ける工夫が必要。

4. 今後の展望、成果の活用

一般的なロボットプログラミング教室のレッスン料は高額なため、生活困窮あるいは要配慮家庭では受講が叶わず、教育格差がさらに広がる分野となっています。貧困の負の連鎖を断ち切るため、こどもへの教育機会の均等と学習支援の促進のために今後も地域での働きかけを継続していきます。体験機会や自信が持てない小・中学生の支援を地域で行うことにより、本人の主体性を引き出し、自己肯定感や認知力を高め、将来の可能性を拓けるきっかけづくりを行います。本人の変化を保護者と共有し、家庭への支援にもつなげていきます。

スポーツを通じた国際人材の育成と国際交流 特定非営利活動法人神戸アスリートタウンクラブ

1. 事業が目指すところ

「子ども向け英語×スポーツ教室の開催」および「県内外国人材と連携した国際交流を目的としたスポーツイベントの実施」を通じた国際人材の育成と地域の国際化支援。

■ 子ども向け英語×スポーツ教室の開催

英語を使って運動トレーニングを行うことで、コロナ禍による子どもたちの運動不足の解消、地域の国際化に向けた子どもたちへの英語環境の提供を目的とする。

■ 県内外国人材と連携した国際交流を目的としたスポーツイベントの実施

スポーツや運動能力測定などの運動ゲームを通して、地元住民の健康増進ならびに地元住民と近隣在住外国人、オンラインでの海外とのリアルタイム交流を目的としたイベント。

2. 活動内容

【教室】英語×スポーツ教室 体験会

会場：グリーンアリーナ神戸 グリーンスタジオ

地域の未就学児を対象とした、英語を使ってトレーニングを行う教室の体験会。各回、外国人1名、日本人2名の講師による50分間の教室を実施。

	9月27日	11月20日	11月27日
2・3歳児	8組	5組	4組
年少～年長	7人	6人	6人



【イベント】アフリカチャレンジ実施概要

会場：グリーンアリーナ神戸 コスモスギャラリー

1. フットサル大会の併催として、プロアジリティ、垂直跳び、リバウンドジャンプ、立ち幅跳び、握力などを計測し、アフリカ人アスリートなどの運動能力記録に挑戦。
2. 大会参加者のほか、関係者や帯同の家族、グリーンアリーナ神戸の施設利用者等、地元住民を含めた幅広い年齢層、運動強度層の参加となった。
3. イベントスタッフに外国人2名（ザンビア、エクアドル）が参加し、現場での国際交流を実施。



3. 成果や課題

【教室】幼少期からの外国人との接触機会、英語でのコミュニケーションの機会を創出した。コロナ禍のなかでの開催となったため、参加者数も限られたが、今後は広報をさらに強化していく必要がある。

【イベント】オンライン、対面のハイブリッドでアフリカ人との比較・交流を体感できる場を提供。フットサル大会との併催としたが、大会参加者以外の受け入れも積極的に行っていきたい。

4. 今後の展望、成果の活用

【教室】体験会を通じての参加者増の波を継続し、有料教室としての定着を図る。

【イベント】今後も各種イベントとの併催などとして2026年実施を継続していく。

外国につながる子どもたちの進路保障に向けて ～学校・行政・地域をつなぐとりくみ～

兵庫県在日外国人教育研究協議会

1. 事業がめざすところ

高校進学をめざす外国人中学生や中学卒業後に来日した主に高校学齢期の外国人に向けて、高校選択・入試と高校卒業後の進路実現を図るため、『ハンドブック』を増刷し、中学校、地域の支援教室などに寄贈して、必要な情報を提供するとともに、包括的な支援とネットワークづくりをめざしました。また、高校生向けの多文化進路ガイダンスを実施し、高校卒業後の進路実現を図りました。



多文化進路ガイダンス（JICA 関西）

2. 活動内容（主なもの）

- ・2022年7・8月（県内）『ハンドブック』寄贈と情報提供、相談
- ・7月18日（JICA 関西）兵庫県在日外国人高校生交流会
多文化進路ガイダンス
- ・アンケート実施、訪問、情報提供など（外国人特別枠選抜実施校）
- ・2023年2月5日（神戸市）第28回兵庫県外教研究集会
- ・2月12日（神戸市）在日外国人高校生交流会



『ハンドブック』

3. 成果や課題

校種間の連携や進路ガイダンスが今までなかった中、生徒や保護者、学校関係者や支援者からの高校進学や就職・進路の相談が急増していました。『ハンドブック』寄贈だけでなく、聞き取りや情報提供をすることにより、市町との連携や自治体ごとの連携を推進できました。また、7月に開催した多文化進路ガイダンスは、生徒や教員に好評で、今後の継続が課題です。2月の対面による研究集会は、講演を受けて情報交換会をします。参加者は今後の支援のヒントが得られると思います。



昨年度の研究集会 オンラインで実施

4. 今後の展望、成果の活用

在日外国人生徒支援と情報の発信を今後も続けるために、行政をはじめ関係機関・団体との連携がますます必要となっています。兵庫県外教は、そのネットワークの要として微力ながら貢献していきたいと考えています。そのために、今回の事業の成果を元に、県内だけでなく全国の先進的な事例や取組の情報も得て、研究・協議を深めていきたいです。

助成事業と情報発信

認定 NPO 法人しみん基金・こうべ

1, 事業の目的

下記5つの中間支援事業を行うことで、市民活動団体への財政的支援や組織力強化を行い、市民活動団体を育成する。

2, 活動内容

- ① 相談対応 7件
- ② 情報提供・ネットワーク
 - ・HP、SNS、メルマガ発行などにより、助成先団体への訪問等による活動紹介(6団体)、関係各団体から寄せられた情報等の発信
 - ・ニュースレターの発行 年3回
 - ・公開審査会や助成事業成果報告会での「市民活動団体」間、団体と支援者との交流
 - 公開審査会(こうべまちづくり会館)10月27日(木)
 - 成果報告会(こうべまちづくり会館)12月6日(火)
 - ・グーグル広告、ヤフーネット募金を使った情報発信
 - グーグル広告 2.91万回表示 クリック数2010回
 - クリック率6.91%(4/1~1/31の10か月間)
- ③ 人材育成
 - ・公開審査会や成果発表会時実施による、プレゼンテーション力の育成・向上
- ④ 書類作成指導
 - ・助成申請、事業成果報告書などの作成助言
- ⑤ その他
 - ・物品寄付等の広報ツールの作成
 - ・寄付者等へのお礼状作成・発送

3, 成果と課題

今年度も助成事業を継続し9団体への助成・2団体への表彰のみすることができた。来年度こそは根本的な見直しへの一歩を踏み出したい。

4, 今後の展望

現状の小さな見直しや、クラウドファンディング等の講座など、できるところから手を付けて継続した組織内課題に手を付けたい。

公開審査会の公開投票



成果報告会



お礼状



若者に特化した中間支援事業 “Ux Campus”

R4年度 中間支援創設 一般社団法人みくもや

1. 事業が目指すところ

神戸市では、地域コミュニティへの主な参加者の高齢化が進んでおり、若い世代の地域の担い手の発掘・育成が急務となっている。また、市内には中間支援組織が複数ある一方、学生や若者に特化した支援組織は数少ない。そのため、若者が地域に参画する機会や選択肢が限られていたり、地域の団体が若者を活動に巻き込みたくてもその方法が分からず、世代交代が進まないという現状がある。そこで、本事業では、若者を地域に巻き込むことに特化した中間支援事業を行うことで、若者による地域活動の参画を促進する。

創設3年間の計画

1年目

支援体制構築

広報基盤強化
ネットワーク構築

2年目

実績の積み上げ

地域プロジェクトの企画
セミナーの企画運営

3年目

支援の拡充

インターン生の受入
支援ノウハウの蓄積

2. 令和4年度 活動内容

2-1. 広報基盤強化

団体Webサイトを強化し、事業の全体像や相談業務についての情報発信を行った。特にこれまでメンバーが関わってきた学生プロジェクトの事例や、地域活動に参加した学生に焦点を当てたインタビュー記事などを掲載することで、具体的な活動イメージを喚起することを狙った。若者が地域活動に対して持つ堅苦しいイメージを排除したデザインを意識し、ロゴを通したメッセージや写真・イラストなどを使い、地域活動に親近感を持ってもらえるよう、情報を発信した。



2-2. ネットワーク構築

地域のプレイヤー発掘を狙ったワークショップ型セミナーを企画し、市内4箇所のワーキングスペースや地域活動拠点を会場として実施し、各会場のコーディネーターや、ゲストスピーカー、神戸で何かチャレンジしたいという市民と繋がる事ができた（本助成事業外）。また、神戸市内で活動する約80のNPO・地域団体へのヒアリング・活動現場の訪問を実施し、ネットワークを広げることができた。また、対面での活動が増えてきつつあるタイミングで、紙媒体の団体紹介リーフレットも作成し、事業の認知度向上とネットワーク構築に努めた。



3. 成果と課題

Webサイトやロゴ、リーフレットなど情報発信において基盤となるツールが一通り整備できたのは本助成事業における大きな成果であった。何よりそれらツールを制作するに当たり、これまで本団体メンバーと地域活動で繋がりのあった「元学生」達に仕事を依頼したことで、卒業後のネットワークを維持できたのは本団体にとって大きな財産となった。今後は、今回整備したツールを上手く活用し、地域プロジェクトを創出・支援するという活動そのものを充実させ、実績を積み上げていくことが必要になる。

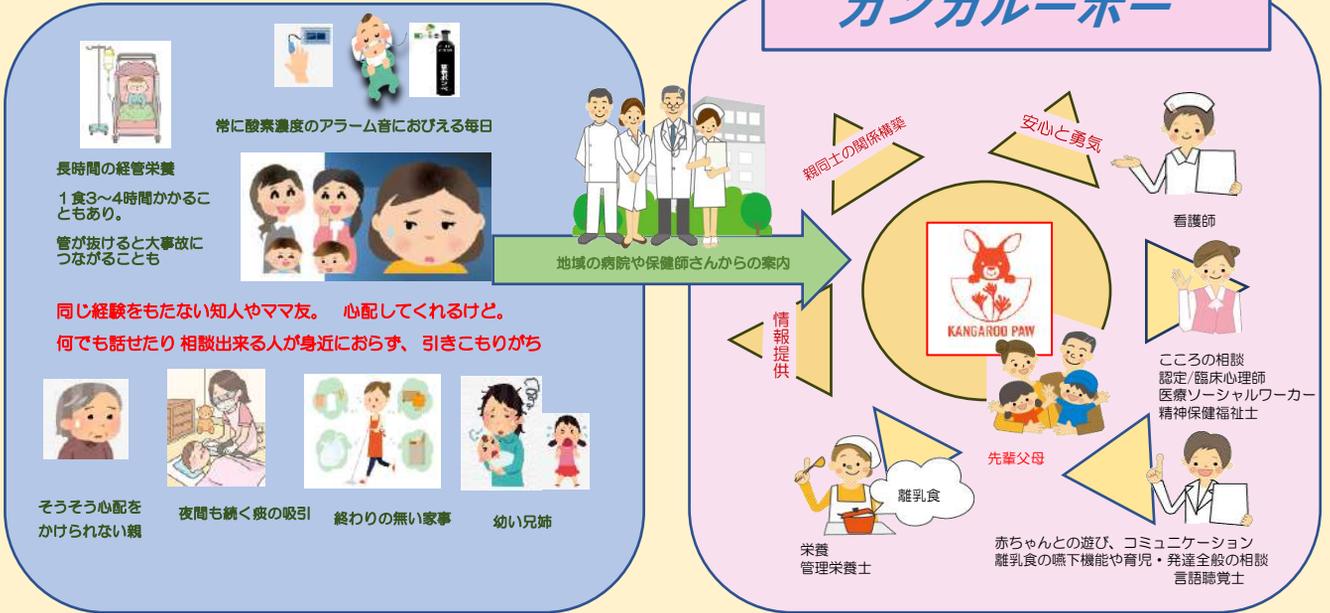
医療職が職場を出て先輩父母とともに
相談サポートの出来る居場所づくりをします！

カンガルーポー

特定非営利活動法人
ことばルームへようこそ

対象となるご家族

小さく生まれたり、医療的ケアの必要な赤ちゃん
24時間 目の離せない看病と家事育児を担う親



1. 背景と目的

医療先進国で守られた命があるからこそ、「世界でもまれな高度な医療機器で子供の命を家庭で見守る」という難しく厳しい日々が人知れず父母の努力で静かに続けられている。

医療的ケアを必要とした乳児を持つ親同士が、子どもの育つ地域で自然に出会い、子育てや医療 発達相談が受けられるような居場所づくりが必要とされている。カンガルーポーは医療従事者が病院から地域に出て先輩父母たちと力を合わせ、これら父母の支援を実践する。

2. 成果と課題

【成果】 令和3年11月20日尼崎市女性センタートレピエにてキックオフミーティングを開き勉強会を重ねた
令和4年9月22日第1回カンガルーポー(小田南生涯学習センター:参加親子1組)、令和5年1月14日第2回カンガルーポー(尼崎市女性センタートレピエ開催予定であったが雨天でベビーカーでの参加が困難となり当日朝急遽オンライン開催に変更:参加親子2組)

【課題】 参加者の個人情報を守るためにクローズドな会にした影響もあり、認知度が低く、参加希望を申し出る方が少なかった。又あってもコロナの第7波、第8波と重なるなどしてキャンセルが続いた。医療的ケアの必要な乳児の出かけづらさが印象に残った。今後の広報について検討が必要と考える。

カンガルーポーは植物の名前でその花はカンガルーの手のような形をしています。

親同士の手と手をつなぎ、その手に安心と勇気と情報を渡すことができればと思い名付けました。

地域NPOブラッシュアップ支援事業（NPO法人シンフォニー）

1 事業が目指すところ

地域のNPO法人と連携し、相談、ネットワーク、情報提供等の機能を発揮して、地域のNPO等の基本的な活動を支援する取組を拡充し、小規模NPOの底上げを行う。

2 活動内容

今年度の活動は、コロナ過で孤立を強いられている地域団体のネットワークづくり支援、高齢化が進む地域団体の「面倒くさい」事務に対する支援を軸に行った。シェアリングエコノミーやジョブ型雇用をテーマに、高齢者と若者、定住外国人が一つのチームとして活動することを推進してきた。

（1）ソーシャルネットワーキングづくり支援

地域団体の中には車を持っていたり、技術・技能を有する人材を抱えている団体は少なくない。また、地域には空家もある。

この資源を共有し、助け合うソーシャルネットワーキングで地域団体の相互支援を目指す活動として「ソーシャルネットワーキング作り事業」を行い、歌と音楽の会と障がい者支援団体の結びつきを作りを行った。（9月17日）

今後、シェアリングエコノミーとしてこのソーシャルネットワーキングづくりを発展させ、SDGsを掲げる企業と地域団体の連携、協働を促進していく。

（2）インターン・ボランティアマッチング

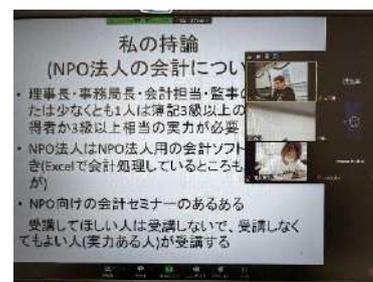
関西圏の大学生のインターン受け入れ、ボランティアマッチング、留学生の受け入れ、地域活動につなぐ行った。（関学等学生8名、留学生6名）

今後、地域団体、NPO等へのインターン、アルバイト等に発展させ、ソーシャルキャリアサポートとして活動していく。

（3）ブラッシュアップセミナー等

NPOリーダー・スタッフのスキルアップを支援する目的で、NP等のリーダー・スタッフのスキルアップセミナー（ジョブ型雇用、会計力アップ、広報力アップ等）を行った。（12月3日（土）～12月24日）

今後、2月11日（市民活動の役割を考える）、2月12日（インボイス研究会）を行っていく。



（3）夢応援相談

具体的には、専門家（税理士、社労士等）専門家による相談事業の拡充として「夢応援相談」（積水ハウスとの共催）、インボイス対策の勉強会（尼崎NPO法人協議会と共催）、ソーシャルビジネス相談会（日本政策金融機関との共催）等々。

今後外国人の地域活動支援にも拡充していきたい。

（4）事務支援

事務支援として助成金等申請支援（4団体）、NPO法人設立支援（伊丹サードプレイス尼崎国際交流協会等2団体）、会計支援（ブラッシュアップセミナー）等々。

今後、パレルキャリアや退職公務員等と学生等若者の組み合わせで一つの、クラウドサービスを活用した事務支援に発展させていく予定である。

健康づくりサポーター会 「健康寿命を延ばす実践講座」

1. 事業が目指すところ

高齢社会となり、平均寿命は男性 81 歳、女性 87 歳、健康寿命は男性 72 歳、女性 75 歳です。この差は男性 9 歳、女性 12 歳でなっています。この期間は自立できていないため、医療費や介護費が増える主な原因となっています。政府や自治体はこの期間を出来るだけ短くするための施策を行っています。

本事業は健康寿命を延ばすために高齢者が楽しく、直ぐに役に立つような講座を行います。

同時に奈良学園大学保健医療学部の協力を得て、参加者に対してコロナ下での生活習慣調査と握力測定を行い、分析します。結果は協力団体に渡すと共に日本認知症予防学会の一般演題に発表すべく準備します。

2. 活動内容（参加人数）

番号	開催日	場所（参加人数）	内 容
1	令和 4 年 9 月 16 日	尼崎市立花生涯学習センター（25）	「認知症予防劇・ぼけたらあかん」
2	令和 4 年 10 月 17 日	西宮市瓦木公民館（22）	「一枚の写真で回想法」
3	令和 4 年 11 月 5 日	西宮市上ヶ原公民館（30）	「フレイル予防の楽しい体操」
4	令和 4 年 11 月 17 日	芦屋市木口記念館（24）	「一笑一若」 「薬の話と太極柔力球」
5	令和 4 年 12 月 17 日	香櫨園市民センター（12）	「フレイル予防の楽しい体操」
6	令和 5 年 1 月 21 日	香櫨園市民センター（11）	「薬の話と太極柔力球」
	令和 5 年 2 月 4 日	西宮浜公民館	「フレイル予防の楽しい体操」
	令和 5 年 2 月 7 日	西宮市甲武集会所	「手指体操」
	令和 5 年 2 月 14 日	西宮市小松センター	「フレイル予防の楽しい体操」
	令和 5 年 2 月 18 日	西宮市能登町運動公園	「サギにご用心」
	令和 5 年 2 月・日	西宮市高須公民館	「検討中」
	令和 5 年 2 月・日	西宮市高須公民館	「検討中」



ぼけたらあかん劇



フレイル予防の楽しい体操

3. 成果や課題点

新型コロナ感染が中々収束しないため、講座開催の日程調整がスムーズに進みませんでした。多くの団体は参加人数を減らしつつ、少しでも地域住民の役に立つ講座を開催したいとのこと。今回は「フレイル予防」に関心が高く、4 回行いました。集客をどのように行うかが課題として残っています。

4. 今後の展望と成果の活用

前年の事業で、生活習慣に関するアンケート調査と握力測定を行いました。

コロナ感染の影響で社会活動の減少があり、高齢者の体力の低下や、食生活への影響があることが分かりました。

今回も同様の調査と握力測定を行っています。これを奈良学園大学で分析、評価し 9 月新潟市で開催される第 12 回日本認知症予防学会の一般演題として発表すべく準備します。



大学生が活躍する場を創出するための基礎調査

こみサポ（特定非営利活動法人コミュニティ事業支援ネット）

市民活動団体の弱みと大学生の強みをつなぐために、
大学生のスキルとニーズを把握する調査を行った。

事業概要

- 課題** NPOや自治会等の市民活動団体は、高齢化の影響もあってICTツール等の活用を苦手とし、活動の幅が広がらない。
<例> コロナ禍でLINEやZoom等のICTツールを活用できず、活動休止になった団体がある。
- 目的** ICTツール等の活用が学生生活を送るうえで必須スキルとなっている大学生のスキルや特技を、NPOや自治会等の市民活動団体に活用する。
- 対象** 女子学生（課外活動に積極的な女子大学生を対象）
アンケート回収：101人
- 方法** WEBアンケート（当法人に関わる学生ネットワークを通じて）

主な調査結果

◆大学生のスキルや特技

* Microsoft Word/Excel/PowerPointの一般的な操作ができる	85%以上
* スマホを使った動画撮影ができる	94.1%
* オンラインツールの使い方を教えられる	89.1%
* オンラインツールを使ったミーティング開催方法を教えられる	61.4%
* Twitterの使い方を教えられる	77.2%
* Instagramの使い方を教えられる	90.1%
* 連絡ツールとしてのLINEの使い方を教えられる	73.3%

◆大学生のニーズ

* 市民活動団体等に役立てたいか？ （単数選択式質問）	やってみたい	48.2%
	自信はないが興味がある	37.6%

★前向きな大学生が86.1%！

* 報酬はどれくらい必要か？ （単数選択式質問）	交通費程度	25.7%
	最低賃金（時給）程度	21.8%
	相場に見合った報酬程度	24.8%

★アルバイトやボランティアとしての可能性大！

大学生のスキル・ニーズを
市民活動団体につなぐ

今後の展開

◆当法人が実施する市民活動団体に大学生をつなぐ仕組みに展開！

大学生のスキルや特技を有償で提供する

“学生クリエイター”

大学生ボランティアをマッチングする

“学生ボランティア交流事業”

児童養護施設入居者と地域住民のフラッグフットボール体験会

特定非営利活動法人 西宮フットボールクラブ 理事長 上山 竜生

1. 事業が目指すところ

西宮市近郊の児童養護施設入居者と近隣の小学生に対し、「児童養護施設入居者と地域住民のフラッグフットボール・チアリーディング体験会」を通じて、接触する危険なプレイがない簡易なアメリカンフットボール・チアリーディングの素晴らしさを知ってもらいます。

児童養護施設入居者と地元児童と共同で物事を行うことで生まれる「絆」を育てていきます。

2. 活動内容

広報活動 体験会の写真・動画を記録撮影し、ホームページやSNSでの広報活動のために活用

フラッグフットボール体験会 開催 予定

2023年2月26日

参加者 15名予定 場所：西宮市 流通体育館



3. 成果や課題点

2月中の開催を視野にいれ、現在、調整及び準備中である。

4. 今後の展望、成果の活用

自主開催にあたり、コロナウィルス感染症の拡大による日程・会場・規模の変更が多数あり、予定通りには行かず、延期延期となりました。よりスムーズな運営を目指します。

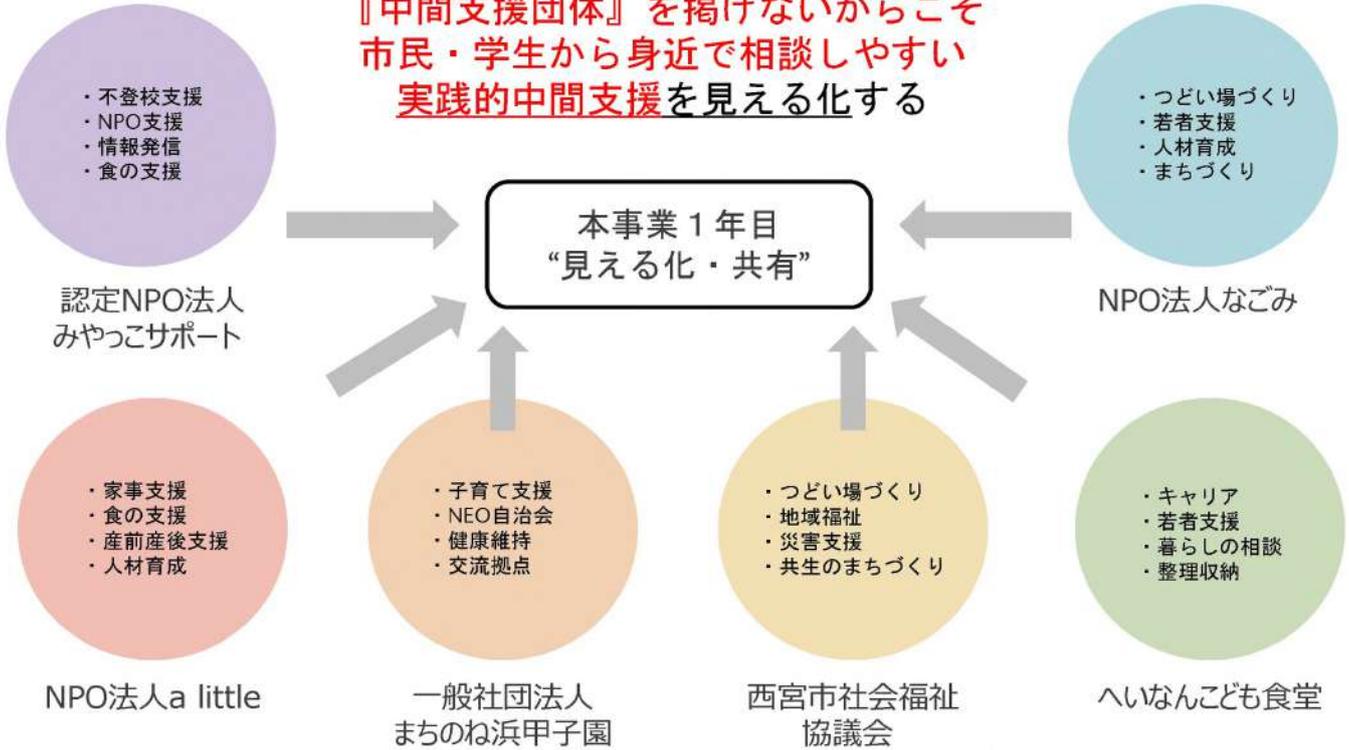


NPO法人なごみ

特定非営利活動法人なごみ

協働体制で構築する 新たな地域づくり中間支援事業

1つ1か所の「専門機関・集団」ではなく
『中間支援団体』を掲げないからこそ
市民・学生から身近で相談しやすい
実践的**中間支援**を見える化する



新たな機能や体制を整備するのではなく、**普段の活動・事業の中で行われている実践的**中間支援**を共有**する事で、各団体の負担を増やすことなく、それぞれの強みや専門性、傾向や住民ニーズを見える化する。

実施調査① 各活動先での「相談」対応案件の記録・共有

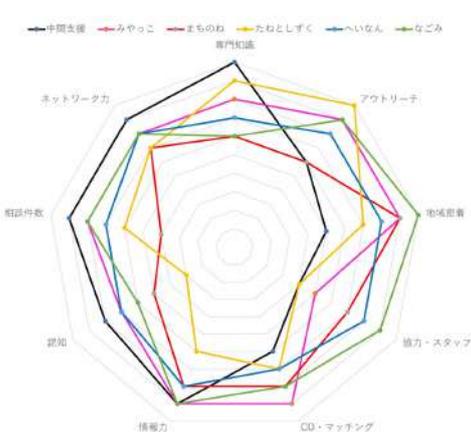
実施調査② 各団体へのヒアリング調査の実施

活動現場で拾い上げている「住民の声・ニーズ」は何があるのか？
どうしてその場所に集まるのか？工夫や仕掛けはあるのか？について調査した。

実施調査③ 自己団体評価／他団体評価



【制作物】拠点前表示



		中間支援・他	みやっこ	まちのね	たねとしずく	へいなん	なごみ
項目1 認知力	自己評価	5	4	5	5	3	2
	他団体評価	5	4	5	4	4	3
	相違点	5	4	5	4.5	3.5	3
項目2 アウトリーチ	自己評価	3	4	2	5	4	4
	他団体評価	3	5	4	5	4	5
	相違点	3	4.5	3	5	4	4.5
項目3 地域影響	自己評価	4	5	5	4	5	5
	他団体評価	3	4	4	3	3	5
	相違点	3	4.5	4.5	3.5	4	5
項目4 協力・スタッフ	自己評価	2	2	4	2	4	4.5
	他団体評価	2	3	3	2	4	5
	相違点	2	2.5	3.5	2	4	4.5
項目5 CO	自己評価	4	4	4	4	3	4
	他団体評価	3	5	4	3	4	4
	相違点	3.5	4.5	4	3.5	3.5	4
項目6 情報力	自己評価	4	4	4	3	4	4
	他団体評価	4	5	4	3	4	5
	相違点	4	4.5	4	3	4	4.5
項目7 相談	自己評価	3	4	2	1	4	3
	他団体評価	3	3	5	2	3	3
	相違点	3	3.5	2.5	1.5	3.5	3
項目8 連携	自己評価	4	4	2	3	4	4
	他団体評価	4	4	2	3	3	4
	相違点	4	4	2	3	3.5	4

中間支援や「相談業務」の看板を出さずとも「相談」が入る団体について、強みや特徴を見える化した。

※各団体から見た自己評価と、他団体からの評価を比較してズレも見える化することで、より客観的な視点での評価をポイント化。



住民や市民・活動団体にとって、どのような支援体制や仕組みが必要か？を検討した。

コロナ禍から考えるレジリエンス向上のためのプログラム開発事業

(地域づくり活動 NPO 助成事業：先導的・先駆的)

一般社団法人さんぴいす

「レジリエンス」とは・・・

回復力、しなやかさなどを意味する言葉。困難や脅威に直面している状況に対して、「うまく適応できる能力」「うまく適応していく過程」「適応した結果」などを指します。コロナ禍だけでなく、災害の多い日本に住む私たちは誰もが困難な場面に直面する可能性があります。そんなときも「レジリエンス」能力を向上させていけば立ち直りが早いだけでなく、新たな状況にうまく適応していけるのではないのでしょうか？

1 事業が目指すところ

レジリエンスチェックテストを開発することで地域の中で気軽に精神的な不安や孤立感の解消を目指す。

～コミュニティで見過ごされやすいメンタル問題～

今なお続くコロナ禍により対面での接触が極度に減少した地域コミュニティでは、個人のメンタル問題は見過ごされやすくなっています。そこで地域の NPO や自治会が連携して心の問題に注目し、**精神的な不安や孤立感の解消を地域の中で気軽に行えることとワークショップ開催による交流の場をつくること**を目指します。事業計画は3年で今年度は2年目です。初年度の調査に基づき、今年度はレジリエンスチェックテストのベータ版の完成とワークショップを開催します。

2 活動内容

◆令和4年5月～令和5年1月

実行委員会を結成して、レジリエンス指標を図るアンケートの開発に取り組みました。

◆令和4年6月～8月

昨年度の調査結果の振り返り分析を行いました

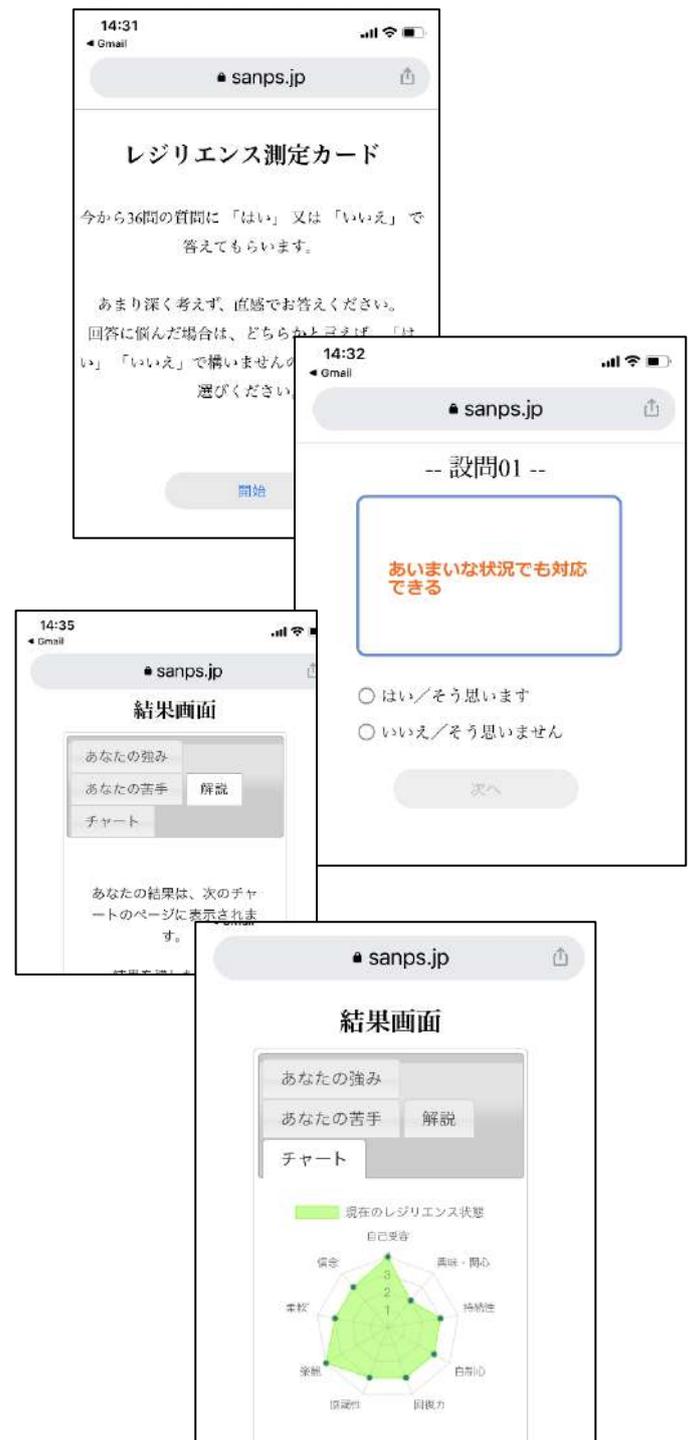
◆令和4年9月～11月

昨年度の調査結果を独自に分析したものを専門家を交えて分析、統計処理を行いました。

◆令和4年12月～令和5年1月

レジリエンスチェックテストベータ版の開発を行いました。現在チェックテストのWebページを作成中
また令和5年2月27日(月)に地域への報告会を兼ねたオンラインでのワークショップ開催。

今年度開発したレジリエンスチェックテストの一部。パソコンからはもちろんスマホから手軽にチェックできるのが特徴です。



中間支援活動助成事業

一般社団法人さんびいす

事業名：淡路市中間支援ネットワーク自立支援サポート事業

1. 事業が目指すもの

昨年度、市内の団体を中心とした中間支援ネットワークを設立させることが出来たので、3年後の自立を目指し、相談業務を担える団体や市民、プロボノ支援をしてくださる専門家などの発掘、行政や地域商工業者との協働、協働事業（講演会や人材育成事業の協働開催）の実施が出来るなど体制を整えると共に、淡路市中間支援ネットワークの認知度を上げていく。

2. 事業の概要

- ・定期的な無料相談会の開催（隔月偶数月に1回淡路市内で開催）
- ・淡路市中間支援ネットワークと協働し、人材育成・書類作成などの講座を開催（3回）
- ・淡路市中間支援ネットワークと協働し、人材発掘のための交流会を開催（3回）
- ・中間支援ネットワークの相談受入れ窓口として開設したWEBページの維持、管理
- ・淡路市で中間支援を担える新たな人材の発掘（随時）

3. 成果と課題

新たな参画団体や個人を探すことを目的とした交流会は、①子育て世代 ②地域の若手商店主 ③淡路市に移住・定住をしてきた人を対象とした交流会を企画開催し、ニーズの確認と今後の協力依頼を行った。また淡路市とも協働や連携に向けた話し合いを行い協力していきたいとの返事を頂くことが出来た。しかし相談窓口であるホームページの利用はまだ進んでいないので、認知度を高める活動が必要である。

4. 今後の展望、成果の活用

交流会に参加頂いた方を中心に、淡路市内で更なる人材ネットワークを広げると共に、行政との連携を深めることで、市民の認知度向上と安心の担保をおこない利用促進につなげたい。

淡路市のことは「淡路市」で！

淡路市や淡路府をもちょうと活動してほしい！ 淡路のいい所を発見したい！
淡路市で何かしようと思っても、市内で相談に乗って貰えなくて困るという方が
これほどでは、お悩みありませんか？

【淡路市中間支援ネットワーク】は
様々な専門知識とネットワークを持つ、NPOによる相談窓口です。

これほどでは、税金や専門知識まで相談に行かないと、相談に乗って貰えない
情報がどこにあるかわからない...

これからは、淡路市と協働をしている専門的なNPOが、皆さんの相談にお答えします！

無料（依頼料）の第2本巻目に無料の相談券を添付しています

「子育てはこれから」

※相談券の申請は必ず、無料相談券が有効です。

淡路市で子育てをしたい
働き方、山菜作り、育みたい子の性格などで
呼び声がかかるとも大変ではないか、そんな
子育てが出来るのか不安がいっぱい...

淡路市に移住・定住したい
移住から、淡路市に移住を考えているん
だけど、仕事の都合で子育ての準備が
出来ていない。誰か相談したい人が居る
かな...

淡路市で市民発掘をしたい
淡路市で市民発掘をしたいんだけど、希望
者も市民発掘もまだ少ない。誰か相談に乗って
くれる人が居るといいかな...

まずは、お気軽にご連絡ください。

相談したい人
資格更新したい、新規事業
立ち上げたい、子育て支援が欲しい、
など、様々な悩みや相談
が欲しい人は、気軽に相談
ください。

情報を探したい人
何かをするときに必要な
は、「誰か」の「力」を探
求したいというニーズで悩ま
す、ネットワークを構築して
欲しい人は...

活動資金が欲しい人
淡路市で活動したい、活動資金が
欲しい人は、活動資金の
提供や活動の促進、また
活動の継続が出来るように
活動の継続が出来るように
活動の継続が出来るように
活動の継続が出来るように

人の役に立ちたい人
ボランティア活動、専門知識
を活かして活動したい人は、
活動の促進が出来るように
活動の促進が出来るように
活動の促進が出来るように
活動の促進が出来るように



淡路市中間支援ネットワーク(TOP ページ)
<https://awajishi-shien-net.jimdofree.com/>

Just! do it 応援します。あなたの活動を夢から実現へ。

特定非営利活動法人あしやNPOセンター

■事業の背景と目的

「活動人口100%のまち」を目指した市民活動やCB(コミュニティ・ビジネス)を推進

地域課題解決に繋がる市民活動やCBを希望している個人・団体の、最初の一步を応援する仕組みをつくることで不安を解消し、プランの実現化が可能になることを活動者の声から学んだ。

→ 思いをカタチにしてい**く実践的な場づくり支援**が必要!

→ **「Just! do it」事業へ**

■支援の内容 (令和4年度「Just! Do it」事業支援先)

- ・活動のネットワークになっている場所・広報ツールの提供、助言などで活動を活性化させよう
- ・自立継続を目指せるようにしよう

ここちよい居場所づくり「ここぶれashiya」
／パレット・瀬名香織

発達に課題のある、
学校生活になじめない
子どもたちが安心して
自分らしくいられる
居場所づくりを目指す
プログラム



ここぶれの様子・問合せ・申込



みんなの映像編集室／神吉良輔

団体のPRと活動の活性化映像制作や編集についての相談、編集作業のアドバイス、編集システムを使っている編集作業を個人、団体に行うことで、活動の効果的な情報発信を行うことで地域活性化を図るプログラム



動画編集相談
申込フォーム



花と緑があふれる街Ashiyaプロジェクト
／中村真也

あなたの一鉢で参加できるような市民一人ひとりの力で花と緑のあふれた街にすることでコミュニケーション豊かに笑顔あふれる街づくりを目指すプロジェクト



プロジェクト参加
申込メール



コミュニティほけん室
／おしやべりカフェにち・定藤登紀子

学校に保健室があるように街にもほけん室をつくって、誰かとお茶やランチをしながら身体にちよっと詳しい先生がいて話を聞いてもらったりできるコミュニティほけん室を広げるプロジェクト



コミュニティほけん室
詳細



■成果や課題点

- ・ここぶれashiya …毎月2回開催、4月～20回開催 イベント(なつブレ)8月20回開催 参加者合計156名 (1月末時点)
- ・みんなの映像編集室 …毎月1回開催 4月～10回開催 参加者35名 (1月末時点)
- ・花と緑があふれる街Ashiya…10月～2回開催 参加者35名 (1月末時点)
- ・コミュニティほけん室…10月～相談・企画、2月実施

活動の支援として場所・広報ツールの提供、助言などを行っているが、活動の主体はあくまでも当事者であり、自立を目指して自主性を大切にしていることから、支援の関わり方が支援者やプログラムに合わせて柔軟に対応しなければいけないところが難しい点でもある。

■今後の展望、成果の活用

「Just! do it」事業の支援対象は、別事業で行ったCBブレゼンテーション大会の入賞者が主体となり、今後もブレゼン大会や日常の相談業務等で支援者を発掘していく。支援者との協働関係を保ちながら、自立に向けた支援体制を確立していくことで、本事業の認知度が上がると共に市民活動の広がりが期待できる。と共に、我々、中間支援組織としての求心力も向上させていく。

また、コロナ禍で稼働を見合わせていたあしや市民活動センターのキッチン設備を活用し、食や健康に関わるプログラムの支援も行っていきたい。



あしやNPOセンター
ホームページ →



あしやNPOセンター
facebookページ →

STOP! THE 介護離職

1. 事業が目指すところ

介護離職者数は、現在 10 万人超、コロナ禍や 2-25 年問題を抱える中、仕事を持ちながら介護をする人は孤立しがちで支援の情報を得にくい状況になっている。介護者と情報共有の場を提供し、後の人生にも大きな影響を与える介護離職をなくすことを目指し、地域や職場で支え合い、介護と仕事の両立と心のサポート、また介護に対する備えの大切さを伝えていく。

2. 活動内容

○ケアラーズカフェアイリスの RIBBONcafe

月 1 回開催 計 9 回 場所 フリースペース YAMAUCHI
 介護や仕事に悩む人とお話会
 介護川柳を通じて、高齢者の気持ちを理解する会
 アロマのお話...アロマストーン作りやアロマクリーム作りを
 しながら癒しの時間を持ちながらのお話会
 終活について話し合う会 等



リボンカフェの様子

なないろカード

○“想いを伝えるなないろカード”の普及活動

伊丹市の公募型協働事業として伊丹市地域高年福祉課と終活普及事業に取り組んだ。アイリスが製作した“想いを伝えるなないろカード”の書き方講座「もしもの時のエンディングノートづくり」を伊丹市各小学校区の民生委員研修会で計 9 回開催し延べ 300 人超の参加者があった。



○心トリートメントの日

随時開催 今年度は 2 回 場所 わたなべ鍼灸院

交流会になかなか参加できない人のために個別の相談会を開いた。今年度は昨年の相談者からの依頼でお話を個別に聞き相談にのった。コロナで外出や直接会うのを控える方には電話での相談も随時行った。

なないろカード書き方講座



3. 成果と課題

(成果)

リボンカフェは昨年度から定期的に開催して利用者も増えてきたが、場所を提供してくれていたなないろカフェが閉店し、場所探しに苦労したが、フリースペース YAMAUCHI さんの好意で場所を提供してもらい、月 1 回平日の開催ができた。アロマテラピーを取り入れることで癒しの時間を提供でき悩み事を話しやすい雰囲気づくりもできた。

今年度は、想いを伝えるなないろカード”の普及事業に一番力を入れた。伊丹市地域高年福祉課の企画により伊丹市民生委員児童委員対象の講座の参加者から近所の人へと広がり、役所で配布準備していたなないろカード 200 部の在庫がなくなり、現在 200 部を増刷して配布している。なないろカードを手にする事で、介護や終活について家族で話し合うきっかけとなる、気軽にこれからのことを考えてみようと思うなどのご意見をいただき介護への関心を深め、相談窓口の周知につながっている。

(課題)

- ① リボンカフェの場所の確保が難しく、平日に変更をしたことから有職で介護をしている人の参加者が減ってしまったため、本来の目的である介護離職をなくすためのカフェとしての目的を全て果たせなかったように思う。コロナ禍で人数制限や飲食を伴うことが公共施設では難しかった。
- ② “想いを伝えるなないろカード”の講座の企画を行政機関に頼ってしまったので、今後はアイリス独自でも企画して普及に努める。

4. 今後の展望

伊丹市オリジナルで新しい発想の“想いを伝えるなないろカード”を通じて介護の意識を高め情報提供していくために、引き続き伊丹市地域高年福祉課や市民まちづくりプラザなどの行政と連携しながら書き方講座の開催や広報をして、市民や企業に働きかけていく。また SNS 等でも発信し他地域にもなないろカードを広げていきたい。ケアラーズカフェも継続して開催し、情報提供や介護の精神的負担を減らして個々の課題解決にも取り組み仕事と介護の両立のサポートをしていく。

1. 事業が目指すところ

会員が中心となり、地域の健康生きがづくりへの啓発活動を行うとともに、その実践のための技術指導も行うことで地域における健康生きがづくりの推進を目指しています。また、高齢者から子供までと一緒に楽しめるニュースポーツであるディスコンの普及活動を通じて、地域の健康増進、世代間の交流の活性化を図ることを目指します。

2. 活動内容

高齢者を中心とする層に対する健康生きがづくりのための場の提供とその具体的実践のための指導ならびに活動実践に不可欠な健康チェックの提供。

- (1) 講座開催 毎月の「ふれあい広場」として講座を中心に神戸市婦人会館において開催している。
(5月、6月、7月、9月、11月、1月、2月、3月の第2土曜日の午後) 対象者は会員および兵庫健生の活動に賛同いただける一般の方を対象として開催案内を送付。参加者は毎回20名前後。
- (2) 高齢者の方の社会参加のハードルを下げる目的のための演芸大会を年1回12月に開催。
- (3) 健康チェックと認知症予防活動をセットにした大規模イベントを年1回10月に開催。
- (4) 高齢者の方の健康増進と世代を超えた交流の活発化を目指したディスコンの普及活動を毎月1回伊丹南小学校などで継続的に実施。兵庫健生としてチームを編成して全国大会にも出場している。

3. 成果や課題

- 5月：神戸女子大学名誉教授 平田 耕造氏による今年の熱中症対策の講演
- 6月：カラーセラピーの塚本尚美先生による色の基礎知識とその効果のセミナー
- 7月：嶋田会員による歌（レクレーション）と体操の実演と指導
- 9月：市来先生による中医学に基づく薬膳とツボによる体調管理
- 10月：健康チェックと認知症予防講座（宍ノヤと福田先生）&ディスコン体験
- 11月：西崎先生によるコミュニケーション能力アップ指導
- 12月：第2回演芸大会
- 1月：新年の抱負を語ろう（情報交換会）
- 2月：神戸女子大学名誉教授平田耕造先生による講演
- 4月～3月：ディスコン練習会（伊丹南小学校、婦人会館等）
- 11月：ディスコン全国大会出場（大阪府堺市の市立大浜体育館で開催）



4. 今後の展望、成果の活用

- (1) 昨年度まで毎月の「ふれあい広場」の参加者は15名前後であったが、今年度は20名前後にまで増えてきた。また、新たな参加者も増加し、その中から50代と60代の比較的若手の方3名が来年度から兵庫健生に入会して一緒に活動をしてくれることとなった。
- (2) ディスコンは全国大会に初めて参加したことで、これまで練習会だけであった一般の方にとっても新たな目標ができたことでより活動が活性化しつつあり、今後はさらに多くの方の参加を目指す方針である。

大人も子どもも楽しもう！

豊かなこころ作りを目的とした親子育成支援事業

NPO法人親子会エルフ

<現状>塾や習い事、公園で電子ゲーム、不登校、叱られてばかり、自分に自信がない、子育てに悩む母親の孤立、核家族化で季節行事がおろそか、地域に子供会がない、少子化

<目的>豊かなこころ作り、楽しく安心できる居場所作り、親睦を図り地域活性化への貢献

①親子会エルフ＝親子で季節行事を楽しむ会 全7回 延べ参加人数子ども176人 大人54人
内容 親も子どもも楽しめるプログラムを用意し、その中で交流親睦を図る。遊びを通して地域の交流を深める。不登校や発達障害の子ども達の居場所でもある。 お花見、いちご狩り、田植え、夏祭り、ハロウィンなど

お花見ハイキング

田植え

ハロウィン



<成果>親子で楽しい時間をすごしたり、たくさんの家族で親睦を図れた。地域の活性化につながった。

<課題点>参加費をワンコイン（¥500）で開催しているので赤字である。こちらの助成金も来年度までなので自治会協賛事業にするべく交渉する予定。

<展望>自治会と協力できたら資金面も安定する。公的な事業となれば多くの子ども達が参加できる。



②親子テニス 全4回 延べ人数子ども38人 大人39人が参加（2023.1月末時点）
内容：親も子どもも楽しめるテニスプログラムを用意し、その中で交流親睦を図る。テニスを通し親子で頑張り汗を流す。不登校や発達障害の子ども達の居場所に。

<成果>親子で共通のスポーツを楽しむことができた。運動不足解消になった。地域の中学校と連携をとって開催できた。

<課題点>参加者が減っている所以新たに勧誘する努力が必要となる。

<展望>今後とも地域の中学校と連携をとり開催する予定。単純にテニスを通し親子で楽しい時間をすごしてほしい。

③ きっずエルフ＝小学生遊び学ぶ教室 全58回 延べ人数677人が参加（2023年1月末時点）
季節の行事や工作、料理、野外活動、絵本、学習会など毎回様々なプログラムを通して親睦を図る。子ども相談会も行う。



工作



みずあそび



Cooking

<成果>楽しい時間をすごし、笑いほめられ、肯定される中で育つことができた。きっずエルフのあった日は、機嫌が良く兄弟姉妹にも優しいと保護者から報告があった。

<課題点>気を許せる場所なので礼儀などがおろそかになりがちであるが、少々のことはよし。

我が町の小学校は児童数が減る一方である。自治会協賛事業にするなど工夫する必要あり。

<展望>我が町とは真逆に隣町のきっずエルフ参加者は増加する一方である。きっずエルフの拠点は我が町から隣町の小学校区になっていくだろう。団体としては困らないが、我が町の少子化について考える機会がもたれるだろう。

事業名：高齢者向け生活に役立つスマホ操作技術普及事業

(特非) 健康・生きがい就労ラボ

1. 事業が目指すところ

行政、企業など社会全体がデジタル化を急速に進めている一方で、デジタル格差問題が拡大している。

高齢者がスマホ等の操作を習得し ICT を使った活動を支援する仕組みを作ることは、高齢者自身が地域課題解決に貢献すること可能性を広げ、心身の元気、健康を維持する道につながる。その実現のため、高齢者が高齢者にスマホを教えられるように「講師・チューター（サポーター）の養成」と「地域の高齢者が気軽にスマホ操作の相談ができる場（カフェ）づくり」を行う。

2. 活動内容

1) スマホ講座等の講師、チューター養成事業（研修会）

- * 既存講師、チューターに対する研修会（7月5日）
- * 新たなチューター養成の講座（9月15日、29日）
参加者は、10～2月までの当団体が実施する初心者向けスマホ講座の中で各自2回のチューター実習を行う。

2) スマホ相談カフェの開催（於：地域の集い場“ここおる”）

- * 5～2月の毎週2回、月曜と金曜の10～16時間で実施
- * そのほか些細な相談には随時対応

3. 成果や課題点

1) スマホ講座の講師、チューター（サポーター）の養成事業

- * 講師・チューター研修会
各自が抱える質問を外部講師が答える形式で実施して、レベルアップが図れた。
- * スマホチューター養成講座
22名が受講。2回の実習を経て順次正規チューターとして活躍し始めたが、教えるレベルに達しない方が数名おり、そのレベルアップが今後の課題である。

2) スマホ相談カフェの開催

30分以上の相談利用者が12月末までに延べ29名あったほか、立ち話などでの些細な相談への対応も相当数あった。（約50名）

4. 今後の展望、成果の活用

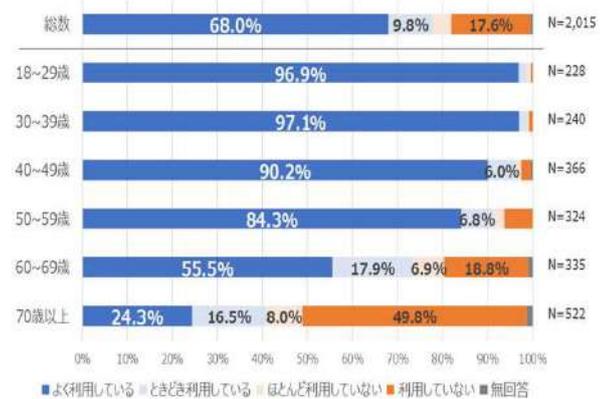
1) スマホ講座の講師、チューター（サポーター）の養成事業

- * 講師、チューター研修会
社会の技術変革や進歩が日々激しく、内容のアップデートや個人のレベルアップを適切にするため、今後とも内部研修会として定期的に学ぶ機会を設ける。
- * スマホチューター養成講座
今後もチューター養成は、スマホ講座受託可能な地域を拡大するためにも必要なため継続実施する。また、今回教えられるレベルに達しなかったチューター候補については、研修の工夫を行い、実習等の機会を多くしながらチューターとして独り立ちをめざす。
また、今後は講座受講と2回の実習経験だけでなく、受講者が自分に欠けているスキルを把握し、一定のレベルに達することを支援するチュータースキル評価システム（アプリ）を作る。

2) スマホ相談カフェの開催

気軽に立ち寄れるお店の特性を生かし、「この前教えてもらったが、新たにわからないことがあって困っている」等、いわゆる駆け込み寺的なニーズに積極的に対応していきたい。また今後は LINE 登録された方へワンポイントアドバイスのような情報発信をしてゆく。

図表1. スマートフォンやタブレットの利用状況（年齢別）



年齢別 スマホ利用状況（内閣府資料）



講師、チューター講習会（於：ここおる）



チューター養成講座
（於：宝塚市立男女共同参画センター・エル）



スマホ相談カフェ（於：ここおる）

事業名：高齢者の健康づくりに貢献する就労開発事業

1. 事業が目指すところ

生計就労を終えたシニアが社会の支え手になるため、生きがい就労で必要とされる知識・スキルを実装。自信を持って、生きがい就労についていただくための取り組みです。

人生 100 年時代の働き方・活躍のイメージを訴求し、情報発信・編集技術の基礎などを学んでいただきます。そのため、地域でさまざまな生きがい就労をしているシニアの働き方やモザイク就労などの実際を紹介。「働くことで健康になる」生きがい就労は、自分の健康のためだけでなく、若い世代を支え、社会に貢献できることを訴求し、生きがい就労への参加を促します。インフラ化しているスマホをはじめ、画像編集のポピュラーな編集のツールとなっている Canva、情報発信の SNS としてスタンダードな Instagram などの基礎を学んでいただき、シニアの学び直しを応援したいです。

2. 活動内容

講座 ボランティア基金事業採択後、阪神北エリアのシニア数十人にヒアリングを重ね、「著名講師による講演よりも身の丈にあった話が聴きたい」、「具体的なスキルアップを目指したい」との声が多いことから、1月12日から2月2日まで「今どきシニアの学び直し塾」を企画・実施。20名募集に定員を超える36名以上の応募があり、開催会場を拡大して受け入れ、アンケートでも好評を得ています。

就労先開拓支援 現在、北阪神エリアでどういった「生きがい就労先」があり、どういった活動をしているのかを紹介する「生きがい就労図鑑」を作成（2月末完成予定）します。

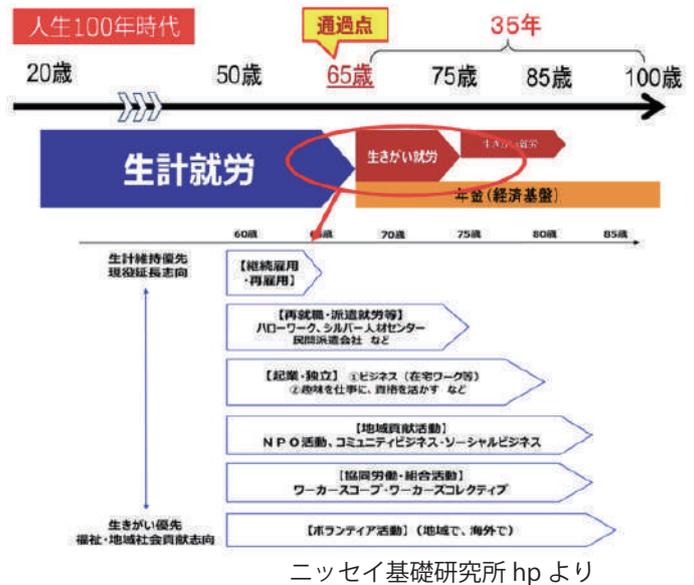
3. 成果や課題点

現在当 NPO の会員が就労している地域スタッフ、トライアル就労、チューターなど多彩なモザイク就労の仕方を紹介。そして、生きがい就労することで、健康増進、社会性向上、社会貢献など、自他への好影響を啓蒙できました。そして、最低限必要なスキルを習得してました。また、歳を重ねても働ける生きがい就労への理解を深めることができました。しかし、情報化社会の中で、常にリスキリングが必要であり、もっと多彩な生きがい就労先の開発が求められています。

4. 今後の展望、成果の活用

阪神北地域の生きがい就労先を取材した編集した「生きがい就労図鑑」を元に、生きがい就労の職種や生きがい就労先を開拓。より多くの方に、生きがい就労についていただけるよう広報面から支援。現在開発中の就労支援アプリ（プチ活）も活用し、多彩に生きがい就労について紹介していきたいと考えています。

図表1:人生 100 年時代の理想の働き方・活躍の仕方イメージ



ひょうごボランティア基金助成事業 無料

今どきシニアの学び直し塾

チューターって？ スマホを使いこなそう！

シニアこそ Life Sift に対応し、必要なものを知り、学ぼう！
私もアップデートしなくっちゃ！
Reskilling

働くために必要な知識は？

第1日目
1月12日
18:00-20:00

講演
働き方がマルチステージ化する時代
新しいシニアの働き方
プロボノ、フリーランス、チューター、プチ就労など新しい働き方

講師
NPO法人健康・生きがい就労ラボ 理事長
遠藤 俊明

第2日目
1月19日
18:00-20:00

実技講習
今こそ！スマホ講座！！
今さらではなく、今こそ学び直し！
LINE、zoomなどを使いこなそう

実技講習
地域からの情報発信！
今どきの発信方法を知り、身につける！
Instagram、Canvaなどで発信してみよう！

第3日目
1月22日
18:00-20:00

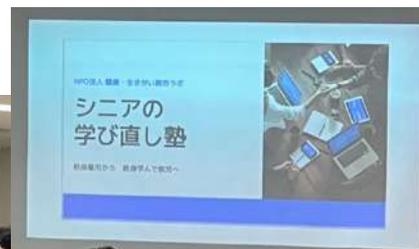
実技講習
地域からの情報発信！
今どきの発信方法を知り、身につける！
Instagram、Canvaなどで発信してみよう！

申し込み方法

- とき：1月12日(木)・1月19日(木)・2月2日(木) 18:00~20:00
- ところ：宝塚市男女参画センター(ソリオ2) 4F JR・阪急 宝塚駅直結
- 対象・定員：おおむね60歳以上の方 先着20名
- 申込方法：QRコード、メール、FAXにて、住所・氏名・連絡先・年齢をご記入の上、お申し込みください。
FAX 0120-81-0399 mail: lab-contact@lifespliceworks.com

実施団体：NPO 法人健康・生きがい就労ラボ 後援：宝塚市

第2日目講座風景



第1日目スライド

1. 事業が目指すところ

会計業務は全てのNPO法人において必須となっている仕事です。また、市民からの寄付により成り立つNPO法人は、財務諸表等の会計書類を公開する義務があります。しかし、未経験から会計担当者になったことで、NPOの会計や簿記のやり方が分からず困られている団体も少なくありません。そこで県内のNPO法人の会計相談に対応するとともに、会計担当者の実務力向上に役立つための支援を行いました。

2. 活動内容

●相談対応、情報提供等は随時実施

法人個相談対応、情報提供などを行いました。

●NPO会計に特化した簿記セミナーをオンライン配信にて実施

(1)「NPO法人のための簿記 入門・基礎編」

講師：今井 健至 氏（NPO事務支援研究所）

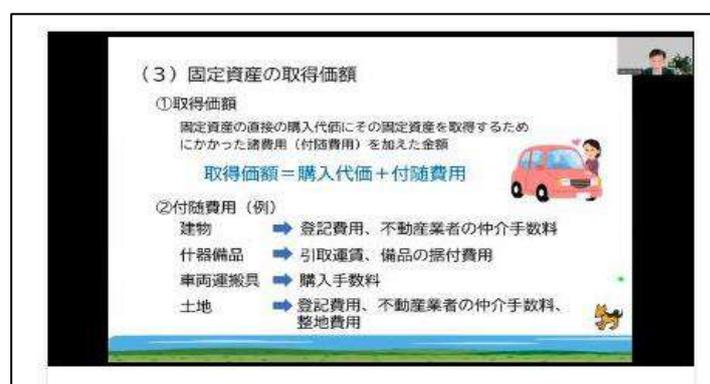
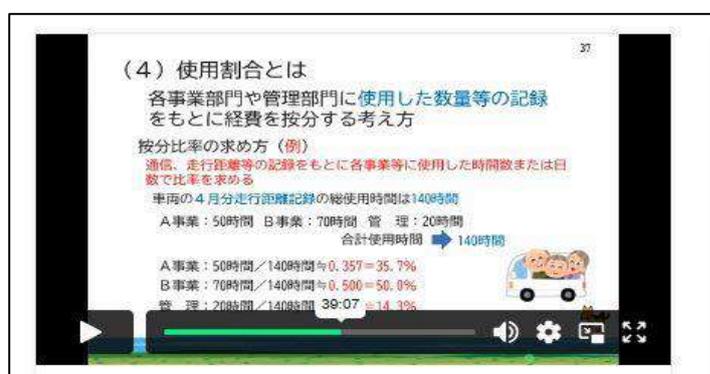
内容：簿記とはなに？から始まり、簿記の用語、全体像など、「仕訳」をするために必要な知識を段階的に解説しました。

(2)「NPO法人のための簿記 決算編」

講師：今井 健至 氏（NPO事務支援研究所）

内容：自力で決算ができることを目指しました。

決算作業の手順、やるべきこと、考え方を学び、確実に力をつけられます。



3. 成果や課題点

会計全般に対する相談対応、情報提供、セミナーの実施、書類作成援助を行いました。Webセミナーは、NPO法人会計基準に準じた会計処理を行うことを前提に、初心者でも一から簿記を学んでいける内容を目指しました。毎回演習問題を織り込む、受講者同士のコミュニティの場を設けるなど、受講意欲が継続するよう工夫しました。

4. 今後の展望、成果の活用

会計はあらゆる法人がやらなくてはならない仕事です。当センターは、少しでも多くの法人が会計面で自信を持って活動できるよう、今後も支援を継続していきます。今回の基本事業およびWebセミナーの実施は、その貴重な足掛かりとなりました。

NPO大学“マナビ塾”2022

特定非営利活動法人 市民事務局かわにし



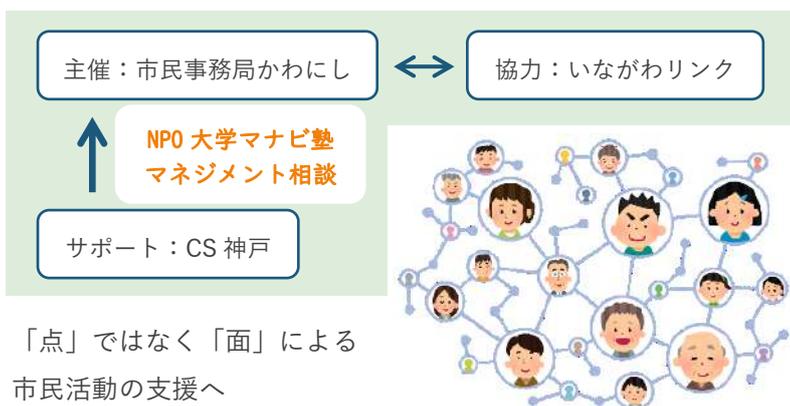
25年間の積み重ね

・「NPO 大学」事業は、1997年に神戸で産声を上げ、兵庫県内 NPO 法人の持続可能な運営を目的に「NPO マネジメントスクール」、「NPO 大学」、再び「NPO マネジメントスクール」、そして「NPO 大学“マナビ塾”」と呼称を変えながら 25 年間実施されてきました。

・長年の運営主体であった「認定 NPO 法人 CS 神戸」からバトンを引き継ぎ、2015 年度より「NPO 法人市民事務局かわにし」が実施しています。

成果

中間支援の相互エンパワメントと地域情報の交換



「点」ではなく「面」による
市民活動の支援へ

NPO 運営のエッセンスを 2 日にギュッと凝縮！

内 容	詳 細
はじめに	あいさつ・オリエンテーション・簡単な自己紹介
<講義>中村順子さん 「時代の変換期とNPOの役割」	ポストコロナを含め時代の大きな変換期にあって、NPOなど公益法人がめざす方向は…？具体的な事例から考える
<講義>富間克雄さん 「組織の『健康診断』ツール」を知る	組織の課題抽出のための「SWOT」分析をNPO向けにアレンジされた手法で学ぶ
休 憩	
<ワーク>アドバイザー:各講師 「SWOT」分析表を作成	個別にアドバイスを受けながら、自組織を「SWOT」で分析して課題を抽出する
休 憩	
<発表> 「SWOT」分析結果	自組織の課題を抽出した「SWOT」分析表を発表して共有する
おわりに	簡単なふりかえり・あいさつ・アンケート①

内 容	詳 細
はじめに	あいさつ・本日のメニュー説明・簡単なふりかえり
<講義>富間克雄さん 「組織の『羅針盤』ツール」を学ぶ	「SWOT」分析表を展開させて作成する「戦略マップ」や「BSC」(バランススコアカード)について学ぶ
休 憩	
<ワーク>アドバイスを受けながら 「戦略マップ」「BSC」を作成	個別にアドバイスを受けながら、「SWOT」分析表を使って「戦略マップ」「BSC」を作成し、次年度「事業計画」にもつなげる
休 憩	
<発表> 「BSC」作成結果	自組織の「BSC」を発表して共有する
<まとめ>各講師 「マナビ塾」を総括	各講師からの講評を聞く
おわりに	集合写真を撮る・あいさつ・事務連絡・アンケート②

実施報告

- ・日時：①2023年1月25日(水) 13:00-17:00
②2023年1月27日(金) 13:00-17:00
- ・会場：猪名川町日生公民館
- ・協力：NPO 法人いながわりリンク
- ・参加：① 6人(一般社団法人、任意団体など)
② 7人(一般社団法人、任意団体など)

<参加者の感想>

- ・思いばかりが走りがちですが、みえる化・文字化できたことに驚きました。
- ・他の方の発表・アイデアが参考になることもあり、声にする重要性を再認識できた。
- ・未来の予測はむずかしい。しかし具体化することで自分で作っていけるんだ、と勇気をいただきました。



北神地域での産後ケア事業の妊産婦への周知と利用の拡大 NPO 女性医学健康研究所

1 事業目的

育児文化の伝承が困難になっている今日、コロナ禍で産婦はより一層孤立感を深めている。育児支援の一環として産後ケアが2024年度まで努力目標に位置付けられたが、その取り組みや支援の内容に格差がある。実際産後ケアを利用した産婦は全体の1~2%にとどまっており、一般には周知されておらず利用されていない現状がある。産後ケアで出産まもない母に寄り添いケアすることで産後のトラブルや不安、疲労の回復、孤立を予防することで虐待防止や

産後うつ予防、少子化対策につながるといわれており、より多くの産婦が支援サービスを受けられるための認知、広報を図りサービス内容の充実を考え提言することを目的にしている。

2 活動内容

3月~10月三田市ジバヤンクラブにて産後ケアについてのお話や相談会と産婦の家族の依頼で乳房ケア実施

ジバヤンクラブ→



4月~三田市では訪問型の産後ケア支援がなく、三田市や神戸、丹波篠山市からの初回の依頼時の訪問ケア代金をマイナス2000円とし、産後ケアについてのホームページや記載されている内容の各自治体の産後ケアの取り組み比較表をみて自分の居住自治体と比較することを依頼し広報した。

6月~三田市と産後ケアの宿泊型および通所の委託契約の締結と産婦夫妻や母子の受け入れを行った

8月~11月ホームページ作成とチラシでの広報・配布。チラシは三田市が新たに作成配布されたため丹波篠山市のクリニックを中心に200部配布した。4月~2月1年間私たち産後ケア提供するもののレベルアップを図るため、妊産婦のメンタルヘルスケアや産後ケアについての最新の知識をテレワークや教材を購入した。

3 成果・課題点

産後ケアホームページ作成後、アクセスを増やすため訪問母乳育児相談などの際に

割引利用とホームページについてお知らせし13名の利用があった(1月10日現在) コロナ禍第7波で里帰りしていた方が乳腺炎で発熱された場合、近隣のクリニックでは診察してもらえない、

1泊2日宿泊型利用

或は発熱後10日立ってから来るように言われたとのことで、ホームページをみて当施設に依頼される方や知人の紹介、問い合わせが7~8月増加。6月に三田市と産後ケアの通所と宿泊の委託契約受け、三田市子育てすくすく課からの広報やチラシ配布も新たに加わり通所4組、宿泊4組(三田市と丹波篠山市)の依頼利用があった。

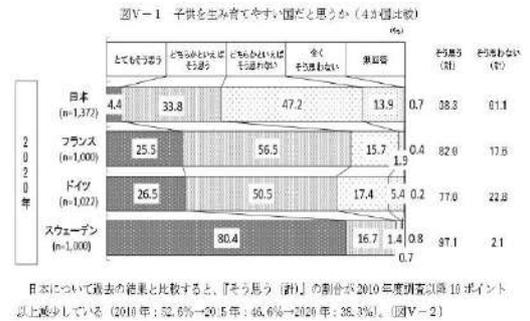
ZOOMとオンライン、教材購入など産後ケア事業の充実のための講習、研修を受け医学的な知識やメンタルヘルスケアについてまた産後ケアの課題や学びさらに事業の認知拡大についてのノウハウを学ぶことができた

4 今後の展望・成果の活用

異次元の少子化政策としてさらに充実される予定だが、引き続き地域格差や周知利用による拡大・助産施設としての学びから安全性・災害時などの在り方について検討する必要がある。

通所でのご利用ご夫婦

前年の利用時ご夫妻での利用において男性の育児休暇制度の取得での職場状況や認識の問題、女性の職場復帰での就労支援や保育所入所の問題、里帰り時の産後ケア制度の利用について子育て支援の充実が必要と感じた。また産後ケア事業にかかる補助金や適正な委託費の検討、ホームページのアクセスや認知拡大について、引き続き自治体、関連子育て支援や企業とも連携し活動し要望していく。



【事業名】 在住外国人の孤立を防ぎ、仲間づくりができる場づくりプロジェクト

【実施団体】 特定非営利活動法人場とつながりの研究センター（三田市）

●事業概要

《北神日本語教室》

毎週水曜日 18:30~20:00 @ 神戸市北神区文化センター会議室

《日本語ボランティアブラッシュアップ養成講座》

2022年11月30日(水)18:30~20:30

@ 神戸市北神区文化センター会議室

講師:土井 佳彦氏(NPO 法人多文化共生リソースセンター東海代表理事)

●事業目的

昨年はコロナ禍において、外国人県民が孤立化並びに情報弱者であることがわかることとなった。北神地域や西宮市北部地域は技能実習生などの増加により外国人県民が急激に増加しているが散在しているうえ、同胞の人と会える機会がないのも現状である。生活に必要な日本語を学ぶだけでなく、文化や習慣などを学ぶ場であるとともに、子育てや仕事での悩みなど相談を受ける場も目的とした活動と彼らに寄り添うボランティアの人材育成を目的とした。

●事業のねらい

在住外国人との日本語教室での出会い、交流を通して彼らが日本に暮らす背景や置かれる状況を理解する人を増やし、地域社会において多文化共生が特別なことでない状況を目指した。

また、兵庫県内の日本語教室で活動する日本語ボランティアの方に参加を呼びかけ、寄り添い人としてブラッシュアップしてもらうため、ボランティア同士で課題について学び、アドバイスし合い、そこから得たヒントを教室活動に活かすように働きかけた。(県内4つの日本語教室から参加があった)

【活動写真】



神戸大学院保健学科学生さんによる
健康相談会



北神日本語教室
活動中



日本語ボランティア
ブラッシュアップ講座開催時の様子

中間支援事業の現状と本助成金を受けての展開について

1. 今年度の相談支援体制

- (1)日 時 完全予約制。広報は、主にメールニュースと、ホームページ、フェイスブック、口コミで。
- (2)場 所 ほんまち事務所(三田市三田町 29-14 旧ヨネダ洋品店内)ほか、相談に応じて出張対応も
- (3)支援員 大島 一晃(理事・事務局長)、佐藤 等史(理事)、地域住民のプロボノによる支援(1名)
- (4)相談支援メニュー

- ・法人設立のアドバイス、認定 NPO 法人取得支援
- ・事業計画・報告書作成支援・実務支援(労務・登記・経理)
- ・「意欲する人」のゆるやかなネットワークづくり支援(交流研修会、子ども支援団体連絡会など)
- ・NPO 関連制度や事例、助成金情報、人材紹介等の情報提供および企画相談・広報の相談支援
- ・法人の継続的発展に向けた組織体制強化のための支援
- ・キャリアコンサルタント資格保有者による、NPO ではたらく人のキャリア支援
- ・地域の居場所づくり/地域の子どもの地域住民で支える仕組みづくりへの支援
- 居場所づくり・サードプレイス立ち上げ希望者への相談支援、
- 学習支援や子ども食堂の立ち上げを希望者への相談支援～裏六甲子どもの居場所ネットワーク

(5)相談料 1回 2000 円(約 1 時間。初回無料)→本事業助成金を活用し、相談料を 1000 円に

2. 講座

(1)NPO 事務力アップセミナーvol.5 「NPOで働く」の支え方③」を実施

テーマ	日時	場所	講師	参加者数
①2022 年の法律改正を、総ざらい!!	2022 年 7 月 7 日(木) 18:30-20:15	三田市まちづくり協働センター	三谷文夫さん (社会保険労務士) 大島一晃(事務局長)	5団体
②ハラスメント対策を通して「コンプライアンス」を今一度考えてみよう!	2022 年 7 月 14 日(木) 18:30-20:15	三田市まちづくり協働センター	三谷文夫さん (社会保険労務士)	5団体

中間支援活動助成(創設支援事業) 報告資料

NPO法人いながわリンク

1 事業が目指すところ(事業の目的、なぜこの事業を実施しようと思ったか、課題となる社会情勢など)

南北に長く伸びる町内では、山間といわれる北部と新興住宅地の多い南部で世代や世帯構成が大きく変わる。そのような中で、限られた構成でのコミュニケーションだけでなく、世代や地域のつながる取組を行い、行政や事業者との役割の整理や情報支援を行うことで、相互の力が本領発揮できたり、新たな活動・事業の可能性が見出せるように事業に取り組んでいきたい。

2 活動内容

①相談業務：商業施設の空テナントスペースやオンラインを利用しながら定期的開催。

*つながり～いな☆カフェ 5回開催(5月/7月/9月/11月/1月)

*つながり～いな☆カフェzoom 6回開催(4月/6月/8月/10月/12月/2月(予定))

*ちょこっと相談会(※③のリンクマルシェキャラバン内で同時開催)



▲交流・相談/つながり～いな☆カフェ

②情報提供・ネットワークの構築

メール/YouTube/ブログ/Facebook/Instagram/Twitter/ホームページ/公式LINE
(世代別に普段使っている様々な媒体に合わせられるよう工夫)

※HPのデータ容量が無料の限度を超えたため、有料サービスに変更。



▲活動チャレンジ/リンクマルシェ

③人材育成の取組

*イベント活動チャレンジ→「リンクマルシェキャラバン」

・イオンモール猪名川 (6回：4月/6月/7月/9月/10月/11月)・長伝寺(feat.歴史講座) (1回：5月)

*講師スタートアップ伴走型サポート

→「いきいき教室」コーディネート協力/猪名川町ゆうあいセンター(5月～7月：全6回)

*学生ボランティアのコーディネート→高校生2名、大学生1名



▲講師サポート/いきいき教室

④書類作成指導業務

・活動サポート(団体の設立、運営、解散など)→未(NPO大学/協力サポート)

・NPO法人の設立時や解散時の書類作成や流れなど→未(NPO大学/協力サポート)

・各種印刷物の企画や制作

⑤その他(NPOに係る調査研究など)

・地域の既存活動団体の取組調査→YouTube「いながわリンクAIR RADIO/のぞいてみるみる」取材、編集、配信

・地域の中での課題研究(アンケートなど)→「二十歳のつどい」式典参加者アンケート(2023年1月実施)

・地域で活動する人や団体の場の発掘、開拓→「あわてんぼうのクリスマス＊ナイト2022」(12月※内容変更)

→wacca◎wacca始動(9月/10月/11月/1月予定/2月予定)

・協働、連携

→「キャンドルナイト」(6月)/「大野山CLEANDAY」(8月)

/「いながわ星まつり」(10月)/「祝・二十歳のつどい」(1月)



▲地域活動インタビュー動画

3 成果や課題点

(1)成果

①NPO設立前からの継続事業ではあるものの、NPO設立後、認知度の高まりから新規参加者が増加傾向に。また、ここでの参加者が他のイベント事業などへの参加につながったりと事業の連動性、関係づくりの手応えも感じられた。

③→②で媒体を多く持つことにより広い世代の参画が実現できた。

③⑤目標値以上の地域でのつながりができた。

(2)事業の反省点

②事業の数が増えるとさらに業務負担が大きくなり、タイミングが遅れる。

③⑤取組む事業の数が多く、一つ一つの事業をもう少し丁寧に進められたら良かった。

④パソコン、プリンタなど個人の持ち物による負担が大きく、またWindowsでないと困る事が多い。



▲イベント参画する学生ボランティア

4 今後の展望、成果の活用

行政や他団体との協働の機会も増えて当団体の地域での認知度や興味が高まり、活動への参加者や相談件数なども増えた。一方で、必要な物や時間と共に運営スタッフの負担が増え、管理する場所や機材の明らかな不足が感じられた。これらをふまえ、運営のあり方を再度検討・工夫して、より充実した取組みに繋げていきたい。

【事業の目的】

明石市には児童館がなく、就学前の親子や小学生の放課後の居場所が少ない。さらに感染症による登校自粛や学習の遅れ、オンライン授業への不安、教育格差、遊び場難民（母子の孤立）など多くの問題がある。そこで、これらの受け皿となる居場所の充実を図る。小学生の放課後スクールや子育てセミナーの継続、世代間交流の場にもなるイベントの実施、ICT面でのサポート、動画での情報提供など、時代に合わせたサービスを実施し、地域の居場所を確保・充実させ、地域の子育て・子育てのサポートを目指す。

【活動内容】

放課後スクール

こどもたちが
新聞記者に变身！！



神戸新聞社
ことまどアプリ
(新聞制作ツール)

保護者との連絡
ツールとして
こどもたちの
様子を日々発信



おうちえんアプリ
(情報共有ツール)

学習のサポート
次世代育成の場にも！



次世代学習会

異世代交流しながら
伝承遊びや科学の
楽しさを共有



交流事業

地域住民や高齢者
(英会話クラブ、サイエンスあそび他)

道具の1つとして
ICT機器を活用し、
遊びの世界が豊かに



学生との
コラボイベント

地域の居場所 みっく
す



地域からなくなった
駄菓子屋を復活！
こどもたちの
買い物体験に



みっくす駄菓子屋
(高校生の店番、高齢者の昔話のきっかけ)

プロフェッショナル
から教わる
一流の学び



地元企業団体
(神戸新聞社、フエンテFC、
明石浦漁協 など)

ママたちの交流の場

- ・子育て世代のリラクスの場
- ・アンケート結果を受けて自習室に絵本を配備
- ・地域の子育て情報の発信



不安に思っていた
事もたくさんあり
ましたが、先生方
のお話を聞いて不
安が解消されまし
た。



広報活動



- ・HPで発信
- ・児童募集ポスター
- ・公式LINE
- ・紹介動画の作成（HPにて公開）
- ・ポイントカード制度

【成果】

遊び場難民となっている地域の子育て世代に、安心して過ごせる居場所を提供。また、ママたちが交流し、育児の不安や悩み、喜びを共有でき、家庭の孤立予防の一助に。ICTの有効活用によって保護者との連携を強化し、こどもたちの遊びにも新しい広がりが生まれた。交流事業は異年齢間の大切なコミュニケーションの場となり、イベントや駄菓子屋でのやりとりなどの活動を通してコミュニケーション能力の向上や、学生の地域貢献意識の向上、地域のつながりの強化、次世代育成の場にもなり、地域の活力アップにつながった。



だれでも、どんなときも、気軽に立ち寄れる
大久保町の第二の我が家「みっくす」





本気のこどもクッキング 目指せキッズシェフ! ～食から育てる 子どもの自立心～

NPO法人おーえんくらぶ

1 事業がめざすところ

食は、親から子へ伝えていきたい大切なものだが、核家族化が進んだ今、日本の食文化を各家庭で伝えることが難しくなっている。またインスタント食品・ファストフード、コンビニ等の普及によって、子どもたちの食生活は大きく変化している。しかし、子どもたちの体は食べたもので出来ていることは変わらない。体に優しい食生活を送ることは成長期の子どもたちに必要であることを、この事業を通して参加者やその保護者に伝える。

【この事業の目的】

- ①自分で体にいいものを選び、調理できるようになる。
- ②食事作りを通じて、子どもたちの自立心・協調性を育む。
- ③兵庫の特産品や季節の食材を使った献立を調理。地域を知り、地域を愛する機会にする。



▲毎回、満席御礼！！

2 活動内容

8月～2月にかけて、8回実施

- ①8月28日 一汁三菜のご飯を作ろう！
- ②9月4日 //
- ③10月30日 お魚をさばこう！【明石浦漁協組合と連携】
- ④11月27日 おせち料理を作ってみよう！
- ⑤12月4日 //
- ⑥⑦1月22日 デコ巻きずしに挑戦！（午前・午後の二回開催）
- ⑧2月5日 防災クッキング【神戸学院大学防災女子と連携】



▲他校・他学年のお友達と協力♪

3 成果や課題点

【成果】

- ・募集開始3分～40分で満席になるほどの人気講座となった。
- ・子どもたちが自ら自宅で調理する機会が増えた、嫌いな食材に挑戦できたという嬉しい報告をたくさんいただいた。
- ・地域で食に関わっている方に講師をお願いし、兵庫の食材を活用、特産品への理解も深まった。

【課題点】

- ・メンバー選定の手間をなくすために先着順にしたところ、初めての方は数名となり、毎回参加する常連メンバー数名が固定されてしまった。
- ・一から講師と講座を作り上げる場合、打ち合わせや準備に非常に時間をとられてしまった。



▲明石ならではの食材も♪

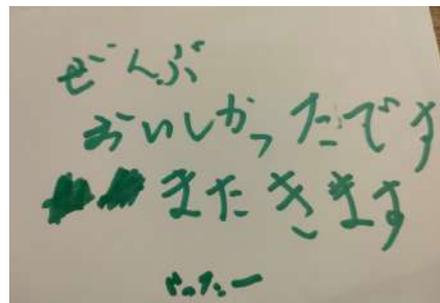
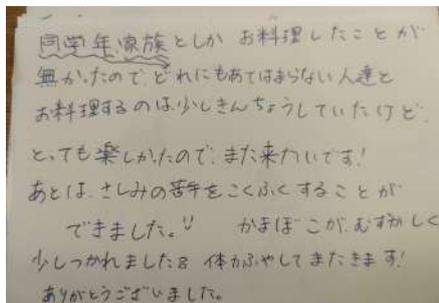
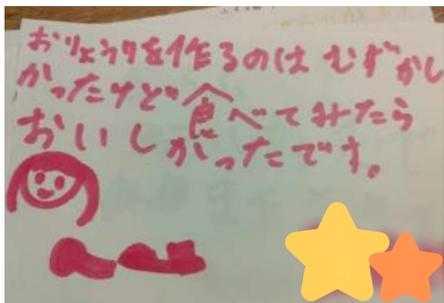
4 今後の展望

- ・単発イベントではなく3回連続企画にしたり、習い事のような毎月受講できる形にしていくことも検討したい。
- ・今年度お願いした講師に継続してお願いすることで、講座内容をブラッシュアップしていく。



▲鱈も内臓も、自分で処理！

子どもたちからの メッセージ



事業名：合言葉は「地域での繋がり」

特定非営利活動法人TEAM・あげあげ

1 事業が目指すところ

現在兵庫県の東播磨地域で問題となっている4つの項目（地域の高齢化・地域の共生・地域防災・地域コミュニティの再生）について包括的な活動を行うことで「安心して暮らせる地域づくり」を目的とする。

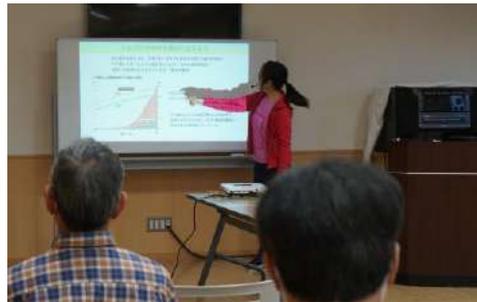
令和元年（2019年）東播磨地域ビジョン委員会の「心地いい街分科会」で発足した自主活動グループのコンセプトであった「地域で繋がる」を3月末に発足したNPOの行動によって具体化することで昨今の少子高齢化、地域コミュニティの衰退による「地域力の減退」からの回復を目指してグループとしてできることから取り組んでいく。

2 活動内容

(1)地域コミュニティ再生のためのイベント・講演会。



5月15日(日)「笑顔の輪を広げよう」



11月13日(日)講演会「人生100年を豊かに生きる」

(2)学生による自主防災グループの活動のサポート



8月2日(火)高砂・加古川地区2校合同ミーティング



11月22日(土)「ぼうさいこくたい」に出展

3 事業の成果及び課題

昨年度までの2年間新型コロナウイルス感染拡大による影響が大きく、これまでに取り組んできた地域での活動を復活させることに終始した。特に高齢者施設への訪問などがいまだ制約を受けている状況下で予定していたイベントの一部が実施できなかった。しかし、そのような状況でも法人メンバーの新たな企画も実行できた。また、今年度法人の新たな取り組みとして若い世代の育成の一環としてこれまで地域防災に自主的に取り組んでいた学生グループの支援を開始。今年神戸市で行われた内閣府主催の防災活動の全国大会「防災推進国民大会（ぼうさいこくたい）」出展に採用された。これらは当法人の今年度の大きな前進と言える。

一方でこの事業の掲げる「地域での繋がり」が東播磨地域に浸透するまでの道のりの遠さを感じた。どのように押し広げていくべきかを考え試行することが次の課題となっている。

4 今後の展望

今回の事業に係る今後の活動については以下の点が挙げられる。

- (1)4項目（地域の高齢化・地域の共生・地域防災・地域コミュニティの再生）を包括的に取り込んだイベントの実施。
- (2)今年度の主な活動地域（明石市・高砂市）から東播磨3市2町に広げていくための活動。
- (3)他団体との連携により会員それぞれの持つ強みを発揮できるような新しい企画。

これまでグループが事業として実施したのは2019年と今年度の2年である。しかも新型コロナウイルス感染拡大によって一部実施できたものを除けば2年間の空白期間があった。当法人の活動はまだ始まったばかりに等しい。今年度新たに開始してそれなりの実績を残せたものについては上記の3点を次年度の目標としてさらに発展させていきたい。

「自主防災組織活性化事業」

団体名：(特非)One by one

1 事業が目指すところ

- (1)自主防災能力を高めて継続を図る。
- (2)民自立の実効性ある避難支援体制づくり。
- (3)避難行動要支援者の個別避難計画作成促進。

2 事業内容

7月「防災ワークショップ」

避難所HUG

場所：加古川市総合福祉会館大ホール



避難所HUG

8月「防災学習」

総合防災マップを活用した防災学習

場所：加古川市総合福祉会館大ホール



総合防災マップを活用した防災学習

9月「防災学習」

災害発生時に自分達が支援できること

場所：加古川市総合福祉会館大ホール



災害発生時に自分達が支援できること

9月「防災ワークショップ」

避難所HUG

場所：加古川市土山公会堂

11月「精神障害者への防災学習」

南海トラフ地震・震災関連死

場所：加古川市別府公民館大ホール

3 事業成果、反省点や課題

事業成果

- (1)共助への参加行動の促進と地域防災活動の認知度を高めることができた。
- (2)避難行動要支援者への個別支援計画策定の有効性を伝えることができた。

反省点や課題

- (1)学生の参加しやすい7月、8月、9月に開催したが学生の参加者は少なかった。
- (2)事業名で、自主防災組織のみを対象とした学習会と誤解された。

4 今後の展望

- (1)防災学習や防災訓練を実施しやすい環境を整えて個別支援計画策定を促進したい。
- (2)防災の取り組みの発表と最新の防災情報提供の場「防災セミナー」開催を目指したい。

「山をまるごと遊ぼうこのゆびとまれプロジェクト」

(特非) Co-creation このゆびとまれ

1 事業の目指すところ

(事業の目的、なぜこの事業を実施しようと思ったか、

現在、日本で、そして世界で、大規模な土砂災害や風水害、地震災害が多発しています。

それは、人類による過度な開発や環境破壊が原因の一つだと言われています。

日本では、少子高齢化により、空き家が増加し、山林や神社までも、放置される状況にあります。

そこで、多種多様な世代に対して、山の保全や空き家対策等に関する事業を行い、さまざまな環境問題、青少年の健全育成、こどもの居場所づくり、防災意識の向上などに寄与することを目的とした事業を実施しています。



2 活動内容

4月5日 筍取り 親子や、大学生、近所の人など
合計延べ63人が来山

7月から10月、山の保全や物置設置、スズメバチ除去など

11月3日 イラストレータと絵を描く会 23名参加

11月27日 森の音楽会 9名参加であったが、
のちに当日撮影の動画をホームページやSNSで配信

12月12日 シーグラスと竹細工 12名

12月25日 門松作成

その他、ほぼ毎週日曜日、整備や保全



3 成果や課題

(1) 成果

多数の方や親子づれだけでなく学生や近所の方も訪れるようになった。現地にも、物置やポータブル電源ができ、森の音楽会でも、マイクで音楽を流すことができた。

また、法人のホームページ「以下 (HP) という。」もできた。QRコード参照➡

(2) 課題としては、まだ従来からの SNS 等で来てくれているリピータが多く、

ホームページからの新たな集客が十分でなく、ひょうごボランタリープラザの HP の活動報告やイベント告知等も活用して参加者やボランティアを増やしたい。



4 今後の展望、成果の活用

かねてより、コラボをしたいと考えていた近くの古民家を改修した天王茶屋さんにチラシを配布してもらい、イベントを告知してもらうことができた。また、近くの湊山温泉の店長さんが、来られて、炭焼き窯の上屋を作成するのを手伝ってもらい、今後、不要な竹や空き家の廃材を燃やして燃料にして温泉を沸かすという取り組みを進める。また、拠点となる地域交流施設の確保や事例発表の場の設定などを行い参加者の増加など活動を広げたい。

チャレンジしにくい町のチャレンジショップ作り

特定非営利活動法人ニュー☆ハリマ

1. 事業が目指すところ

私たちは「播磨町をもう少しだけ楽しみたい」をコンセプトに、これまでに地域情報誌ニュー☆ハリマの発行や、地域の人や情報が集まる場としての一箱本棚オーナー制度の私設図書館「ニュー☆ハリマ図書室」の運営など、活動地域を播磨町に限定して活動を行っている。それらを通して、播磨町の中にも優れた知識や技能を持った人がたくさんいる事を知るとともに、そうした人達の多くが、店舗を構えて開業する事をリスクであると捉え趣味の範囲でしか活動していないことが分かった。

そこで、ニュー☆ハリマ図書室の一角に低料金で利用可能な貸店舗スペースを設け、コミュニティビジネスを始めるきっかけ作りの場としていくことを目指す。

2. 活動内容

- ① 本棚オーナーミーティング（計 10 回）を行い、チャレンジショップへのニーズを確認。
- ② チャレンジショップ設営にあたっての具体的な計画や運営について検討。
- ③ 講師を招き、町民などの協力を得ながらチャレンジショップを設営。
- ④ 連携団体 Harima Public Life よりチャレンジしたい人材の情報を得て、テスト利用を 9 月より開始。毎週木曜日にコーヒースタンド出店。
- ⑤ 10 月より本格的に活用開始。Instagram やニュー☆ハリマ図書室内にてチャレンジショップ利用者募集の広報開始。申し込みフォームを公開。引き続き毎週木曜日にコーヒースタンド出店。



写真左から、①本棚オーナーミーティング、③チャレンジショップ設営、④テスト利用開始。

3. 成果や課題・反省点

9 月から翌年 2 月まで、チャレンジショップの利用は 1 件のみであったが、固定曜日にショップを開くことで利用者のショップの認知度は上がり、新しい客層へのアプローチも可能となった。

広報開始後の問い合わせは、Instagram にて 4 件、見学にて 3 件、うち申込数は 1 件であった。飲食物提供やアロマを使った体験ショップなどを検討していた。

課題として、飲食物提供の場合、各自で営業許可を取得する必要があるため、興味はあるものの利用に至るまではハードルの高さがある様子だった。また、利用者募集を Instagram やニュー☆ハリマ図書室での広報のみとしていたため、情報を得られる層が限られてしまっていた。

4. 今後の展望・成果の活用

引き続きチャレンジショップの活用を続け、多くの人に関わるきっかけ作りを進める。また、広報手段を増やし、ターゲットであるチャレンジしたい人により届くように工夫する。営業許可に必要な手続きに関するアドバイス、先輩チャレンジショップとの情報交換機会提供などのコーディネートにも取り組む。

共同養育を促進する赤ちゃん先生クラスの開催事業 一産後パパ育休制度の改正をふまえて

ママの働き方応援隊 北播磨校

1. 事業の目的

子育てを母親だけでなくパートナーや地域が担う「共同養育」の重要性について、「赤ちゃん先生クラス」やイベントの開催を通して理解を深める。さらに研修会を実施し、本団体メンバーの知識向上を図る。

2. 活動内容

①赤ちゃん先生クラス：5高校にて8回実施、受講生徒80人

学校名	開催学年	生徒人数	開催日
兵庫県立三田西陵高等学校	3年	17人	2022/10/25
兵庫県立柏原高等学校	3年	5人	2022/10/27
			2023/1/11
兵庫県立篠山鳳鳴高等学校	3年	11人	2022/11/2
			2023/1/11
兵庫県立北条高等学校	3年	7人	2022/11/15
			2022/11/29
兵庫県立社高等学校	3年	40人	2022/12/16

②アウトドアイベント

日時：2022年11月6日(日)10:30～15:30
場所：やしろの森公園キャンプ場
参加人数：26人（大人10人、子ども16人）

③オンライン研修会（2月22日(水)実施予定）

テーマ：イエナプランからみた赤ちゃん先生（仮）
講師：末永静さん（日本イエナプラン教育協会所属）

④赤ちゃん先生クラスアンケート集計(実施中)



◀赤ちゃん先生クラス開催の様子



◀アウトドアイベントの様子



3. 事業の成果

○従来から実施している「赤ちゃん先生クラス」は、共同養育の観点を取り入れることで、パートナーとの役割分担や周りの手助けの重要性をお伝えし、生徒さんたちが将来へのイメージを描けるようになっただけでなく、現在の自分にできることにも気づいてもらえた。

○アウトドアイベントでは、ファミリーでの参加や、母と子の参加など、様々な形の参加があったが、クッキングをみんなですること、火起こし、調理、子どもの見守りなど、役割分担が自然発生的に行われた。小さな子どもがいる家庭では一家族だけでは大人の手が足りないが、多くの協力があるととてもスムーズに物事を運営できると体感した。社高校生もボランティア参加いただけ、大変盛り上がったイベントとなった。

4. 今後の展望

本年度でボランティアプラザからの助成は終了するため、今後はスポンサー獲得やその他の助成金を活用し、赤ちゃん先生クラスを軸とした事業をこれからも継続していきたい。

不登校や登校しぶりのある子どもと親のサポート事業

特定非営利活動法人 みらぽて

1. 事業がめざすところ

不登校などの悩みを抱えている家庭は、学校や周囲とのかかわりを敬遠しがちになり情報なども受け取りにくく孤立しやすくなるため、その保護者同士が居場所を通じ出会い情報交換など交流するようになることで孤立を防ぎ、子どもとの関わりの中で抱く疲れやしんどさなどの悩みを吐き出し共有することで、気持ちが軽くなることを目指す。

また、小野市には不登校や学校へ行きづらい子どもと親の居場所やサポートをする団体がない。当事者の親であるスタッフが経験を活かし、気持ちに寄り添った声かけや安心できる居場所を作る。

2. 活動内容

みらぽてラボ（子どもの居場所）毎週月曜 10:00～16:00

ほっとカフェ（親の会）毎月第4土曜 10:00～12:00

ほっとカフェ夜（親の会）毎月第3金曜 19:00～21:00※9月から

宿題やつつけ隊（夏休み限定）7/27、8/3、10、17、24 水曜

お芋掘り&野菜収穫体験

講演会（一人一人の学び方）12/17 土曜



3. 成果や課題点

（1） 成果

徐々に認知され、利用者が増えてきた。

講演会では、教育機会確保法など法律を交えて行い勉強になり良かったとの感想が多かった。

ラインや親の会等で気持ちを吐き出せるようになった。

各子どもに専用ノートを作りコミュニケーションが増えた。

スタッフみんなで意見を出し合うようになった。

（2） 反省点

講演会での時間配分、参加者が発言できる時間を増やす。

親子に必要な情報共有や連携をしていきたい。

消極的な子どもでも参加してみようかなと思える取り組みを増やしていく。

4. 今後の展望、成果の活用

教育機会確保法など教育、子育てに関する啓発活動をしながら、より多くの人に不登校や教育の在り方について知ってもらおう。学校、行政、地域と連携し、必要な情報やサービスが届くようにする。悩んでいる親子を孤独にさせず、気楽に相談でき、参加できる居場所になるようにする。

企画立案事業

北播磨ソーシャルコネクト事業 ～多様な主体がつながる場づくり～

» 事業の目的 -----

地域課題やニーズが多様化してきており、分野を横断した取り組みの必要性を感じている。また、北播磨地域のような中山間地域では、特に少子高齢化が進んでおり、将来において多くのつながりが必要になると考えられる。本事業ではNPOセクターを中心とし、多様な分野の個人や団体がつながりをつくる機会の創出に取り組み、互いが連携し、新しい取り組みの推進につながることを目的とする。

» 活動内容 -----

■ 北はりまソーシャルトーク (MEET UP!)

北播磨地域で社会貢献活動を行うNPOが、地域課題や活動、将来の地域社会についてトークセッションを行う。また、MEET UP! では、テーマに沿った座談会で交流を深めた。

▶ 開催実績

開催日	テーマ	スピーカー (講師)
1 10/1	マッピングパーティ in ONO 「ごちゃマップ」をつくるかー!	Code For Harima オールフリーの会
2 11/24	事例から考えるクラウドファンディング MEET UP!	てとて広場 東野由美子 さん
3 12/21	誰もが安心して暮らせる地域ごちゃませケア	NPO法人和はは 理事長 小林あすか さん
4 1/8	非営利団体のSNS活用を事例から考えよう MEET UP!	NPO法人ほっぺ 事務局長 豊田美由紀 さん
5 2/16	「あしたあさって」手の届く未来が幸せでありますように。一緒に歩む仲間づくり。	NPO法人あしたあさって 代表理事 高橋章子 さん
6 2/21	北はりまソーシャルトーク“大交流会”	—



開催時の様子

北はりまソーシャルトーク：チラシ

» 事業の成果・今後の展望 -----

3年目となる本事業は、地域に定着し、NPOを中心に市民の交流の場となった。また、この場でできたつながりによる連携事業も生まれるなど、事業の目的を果たすことができた。今後は、このコミュニティを継続し、北播磨地域のNPO・市民活動を行う団体、人の交流の場として自立した事業として継続していきたい。

基本事業

NPO等のICT利活用の推進と実務支援事業

» 事業の目的 -----

NPOセクターにおいてもICT技術を取り入れた活動や組織運営が必要な時代になってきている。しかし、非都市部では活動者の多くがシニア世代であることやICTに関する知識を持つ人材が不足している。また、人材不足は実務面においても課題となっており、実務担当者が不在の団体があるなど、組織運営における課題となっている。本事業では、総合的な運営支援を行うとともに、ICTの利活用と実務のスキルアップを図ることで組織運営における課題を解決へと導くことを目的とする。

» 活動内容 -----

■ NPO設立・運営相談

団体の立ち上げから運営まで、幅広い分野の相談に対応する

▶ 相談窓口

NPO・市民活動団体を包括的にサポート。

相談件数 66件（面談・訪問・電話・メール・オンライン）※1月末時点

▶ 情報発信

メーリングリストでセミナーや助成金情報等を毎月2回発信

▶ 個別相談会の実施

相談日を設けることで相談のしやすさ、団体に寄り添ったサポートを行う。



相談窓口：小野市うるおい交流館エクラ

■ 勉強会・セミナーの開催

▶ ICTカフェ

NPO向けのICT情報を提供することと、ICTを実際に体験してもらうことで自団体への導入に向けたサポートを行う。

開催回数 3回（1/17・2/1・2/15）

▶ NPO法人のための実務セミナー

NPO法人が行う事業年度終了後の手続きや定款変更、役員変更等の実務について理解し、実務の基礎知識の定着を目指す。

開催回数 2回（2/17・2/22）

- 内容
- ①事業年度終了後の手続き（報告、公告など）
 - ②役員変更、定款変更の手続き



事業チラシ

» 事業の成果・今後の展望 -----

NPO・設立運営相談では、2団体のNPO法人設立をサポートした。また、北播磨地域のNPO法人を中心とする団体に分野に限らない相談に対応することができた。また、助成金情報などを定期的にメーリングリストで配信することによって、地域の団体等にあわせた情報を提供することができた。また、勉強会やセミナーの開催により、組織運営や実務面での負担を軽減させることに寄与した。

地域人材のネットワークを生かした中間支援事業

事業の目的

加西市を含めた北播磨地方の魅力である「ユニークな人材」を最大限活用し地域の魅力を高めるために、

- ・ハード面(空き家や補助金の紹介など)だけでなく、ソフト面（特異な人材とのつながり、コミュニティの紹介、地域の人材の掘り起こしと紹介）を行い、人材同士の横のつながりをつくっていくこと
- ・そのネットワークを利用し、都会からの移住希望者や、地方や都市部のなにかはじめたいと考えている人々に対して、私たちのコミュニティを通して、北播磨の地域資源である多種多様な人材を含めた人と人をつなぐ中間支援を行うこと
- ・新しい価値をつくり出す協創型コミュニティの醸成を目指し、関わる人々がそれぞれの個を活かしたまま、ゆるやかにつながれる仕組みをつくること

を目的として活動している。

活動内容

●オンライン交流会（オンラインなにはじcafé）

：2022年上期毎月開催、下期12月、3月（予定）

毎回、市内外から10～20名ほどの参加者で実施。公開インタビュー

や、移住希望者の情報交換、加西市で実施しているビジネスプランコンテストについて意見交換など、テーマは多岐に渡る。

●地域人材の取材：10件（予定）

地域で現在活躍している事業者や、社会問題に取り組む方、先輩移住者などへのインタビューを実施。

●HPの改修

イベントや相談会のお知らせ、実施報告を見やすく表示。取材記事も随時アップできるように改修。



成果・課題点

（成果）

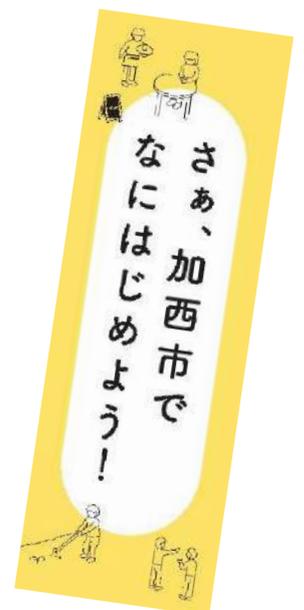
- ・加西の人材取材を通して、人材とのコラボによる移住定住イベントの開催を計画できた

（課題点）

- ・人材を取材して繋がるだけで終わらない仕組みづくり
→これからも継続して当団体に関わってもらえるような機会(イベントや交流会など)の構築。
- ・今年実施できた交流機会が少ない→移住・定住希望の方々とリアルで会える機会を増やす。
- ・SNS等を活用できていない→更に積極的にすることでの認知度のアップ

今後の展望・成果の活用

- ・今後も継続して取材や支援を実施する。
- ・当団体の運営に関わってもらえる、共感してくれる人材を発掘する。
- ・北播磨広域での人材のネットワークづくり→加西以外での他地域の人材のハブとなっているような方々とつながる。
- ・人材同士の繋がりをできるだけ可視化し、当団体を介して気軽に繋がれるようにする。
- ・これからはじめようとしている団体や法人の設立支援のサポートを行っていく。



親子のココロをつなぐ森じかん
MORINOWA
子どもたちの「はじめて」と
ママのための「きづき」が詰まった、森じかん

孤独な子育て「孤育て」は、妊娠・出産・子育てをする多くのママたちが直面しています。コロナ禍で、ますます人と関わらず、家庭の中だけで子どもと向き合う子育てを強いられ、閉塞感や孤独感を抱えながら子育てをしているママもいます。

本事業では、自然の中での「つどい」「まなび」「かたり」あうことで、親自身も一人の人間として自分自身を大切にしながら、日々の子育てを楽しむことができるような「居場所」を提供しました。また、サポートする人たちに対して、子育てや発達をテーマにした学習会を行いました。



実施状況

親のココロをつなぐ森じかん MORINOWA

- 7月22日（金）てくてく森歩きと水あそび
- 8月19日（金）べたべた森のお絵かきと水あそび
- 9月16日（金）どきどき森のフォトレッスン
- 10月28日（金）わくわく森のハロウィンパンづくり
- 11月18日（金）ほくほく森のおいもパーティー
- 12月 3日（土）ぴかぴか森のクリスマス（日時変更）
- 2月 4日（土）ほかほか森の焚き火会（日時変更/予定）
- 2月17日（金）ほくほく森のポリ袋クッキング（予定）

学習会

- 12月26日（月）「どーして？どーする？子どもたちのアレルギー」
- 2月19日（日）「どーして？どーする？」
（予定） 発達がゆっくりな子どもたちへのかかわり方



これまでと、これから。

- シングルマザーの参加が多かった。会が終わってからも、ママ講師と長い時間、話（相談）をする姿が見られた。
自身のこれからのキャリアや子育て環境についてなど…
→若年離婚の増加？若いママたちへの支援が必要！
- 二人目、三人目のお子さんとの参加が多かった。（上の子は保育園など）それはそれでよかったけれど…
→長子親子には、情報が届いていない？初めてでも得やすい子育て情報を集約した手軽なポータルサイトが必要！
- リアル実施の研修で、互いの情報交換もでき、学び合いが深まった。
→定期的な学ぶ場での情報のアップデートは大切！

〈企画立案事業〉

1.事業が目指すところ

世界文化遺産姫路城は、日本を代表する観光資源として、毎年多くの観光客が訪れる。

コロナ禍の要因は別として、海外からの観光客も増え、そのための外国語観光マップや観光施設の対応も改善され、国際的な観光として姫路市も発展している。しかし、「誰もが楽しめる観光のまち」としての視点として、障がいのある方に対する観光おもてなしを考えると、その対応は、観光と福祉分野の隙間の取り組みでもあるため、ほとんどできていないのが現実である。

車椅子利用の観光客も増えつつあり、また、超高齢化社会を迎えて、さらに、これからの利用者増も予測される。当法人は、車椅子の方でも観光しやすい街づくりに取り組んでいるが、姫路市の玄関道路ともいえる大手前通りをモデルとして、ユニバーサルなマップづくりに取り組みたいと考えている。

2.活動内容

◎会議

日時	場所	参加人数	内容
6月20日(月)	ZOOM(web会議)	3名	調査内容検討
7月19日(火)	コムサロン21	9名	調査内容検討、調査日決定等
9月6日(火)	ZOOM(web会議)	7名	マップ内容検討、次回調査日決定等
10月21日(金)	コムサロン21	5名	マップ内容検討、次回調査日決定等
12月13日(火)	コムサロン21	4名	マップ原稿の確認、掲載内容チェック等



◎調査活動

日時	場所	参加人数	内容
8月30日(火)	大手前通り	15名	車いすの視点から各施設を調査
9月26日(火)	大手前通り	7名	車いすの視点から各施設を調査
9月29日(木)	大手前通り	4名	車いすの視点から各施設を調査
10月4日(火)	大手前通り	4名	車いすの視点から各施設を調査
11月16日(火)	大手前通り	2名	車いすの視点から各施設を調査
12月24日(土)	大手前通り	6名	協力可能な施設の調査

◎マップづくり

調査結果を踏まえて、デザイナーと協力して作成中。

今年度中に完成及び本法人ホームページでの公開と各種施設での配布を目標とする。

(右写真は検討中の試案)



3. 成果や課題点

車椅子当事者の参加により、具体性のある調査をすることができた。

マップの作成も進みつつあり、今後はマップの周知が課題になると考えている。

4. 今後の展望、成果の活用

マップ作成の過程で、多くの人や団体と、姫路のユニバーサル的な観点の課題を共有することができた。今後は課題を解決できる取り組みや働きかけを行っていきたい。

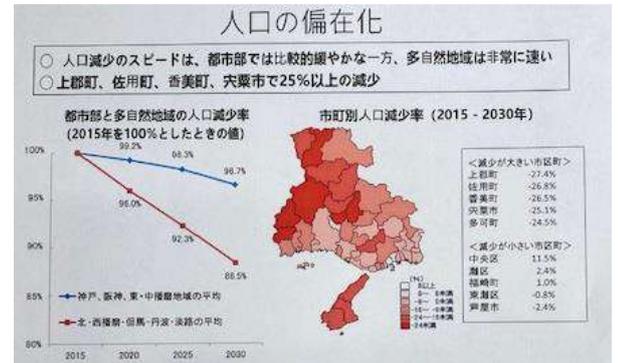
また、姫路を兵庫県西部地域のユニバーサルな旅行の中心地として位置づけ、全国から様々な人が旅行に来ていただけるようにしていきたい。

With コロナの出会いの場づくり

特定非営利活動法人コムサロン 2 1

1 事業が目指すところ

近年のコロナ禍により、若い人同士が交流をする場が減少し、結婚を希望しているが新たな出会いがない為、独身のままという男女が増えています。その結果少子化傾向を増長しているため、コロナ対策をしっかりとした上で、出会いの場をつくり、播磨地域（姫路市や、周辺の市町）の独身の男女を募集し、現状解決策とし、婚活バスツアーを開催しました。参加者同士が交流を深め、結婚相手を見つけていただき、その先の、人口減少をくいとめていくことを目的とします。



出典 国立社会保障・人口問題研究所
「日本の地域別将来推計人口」(2018)を基にビジョン課作成
兵庫県の2015年～2030年の市町別人口減少率

2 活動内容

- 9月 7日 チラシ作成、集客に関する会議。
 - 10月 5日 イベント当日スケジュールと打ち合わせ。
 - 10月 24日 開催場所の下見、打ち合わせ。(西山牧場)
 - 11月 11日 参加メンバーの決定、準備、オンライン会議
 - 11月 13日 PIZZAづくりでGETYOU 婚活バスツアー開催
実施スタッフ4名、参加者19名
- ・会場は屋外で、雨天でも開催可能な西山牧場に設定しました。



打ち合わせ会議の様子



小野観光バス 乗車の様子

3 成果や課題点

男性 25 名、女性 15 名の応募があり、その中から男女 20 名を抽選しました。女性 1 名のキャンセルがありましたが、2 組のカップルと、帰りのバスの中で 1 組のカップルが成立しました。良かったところは、前もって簡単な選択型のアンケートをとり、プロフィールカードを作成し配ったので、双方の会話の糸口となりました。グループに分かれてのピザ作りは、皆さんとても楽しまれて、顔もほころんでいました。また 1 対 1 の会話の時間を 2 回設けた事で、お互いの顔と名前を認識でき、相手を選ぶことに、あまり迷いがなかったように思います。課題点は、応募者の男性の年齢層が高く、女性との兼ね合いもあるので、ある程度年齢の制限をした方がよかったかもしれません。



ピザ作りの説明を聞いている様子

4 今後の展望、成果の活用

今もまだ続くコロナ禍で開催時期や、会場に制限がありますが、感染リスクを十分に配慮し、開催時期や、会場選び、運営方法等を考えていきたいと思っています。体温チェックや、アルコール消毒は勿論、個人に健康チェックカードもお配りしておりましたので、今後も緩めることなく、感染対策を徹底した上でのイベントを考えていきたいと思っています。



班ごとに作ったピザをいただきました

播磨 NPO 中間支援センター(運営総合支援事業)

認定特定非営利活動法人コムサロン 21

〈基本事業〉

1. 事業が目指すところ

NPO活動を行う団体や個人が事業を実施するにあたって、コロナ禍後の多様な社会の中で、新たに抱える様々な運営に関する悩みや問題を解決するため、中間支援組織であるコムサロン21が持つ多様なノウハウやネットワークを活用して課題を持つ団体等のサポートを行う「播磨NPO中間支援センター」事業を継続し、地域のNPO等の活動を具体的に解決できる拠点として、総合的な運営支援を行う。

2. 活動内容

◎NPO 団体設立運営相談会

時	相談者名	相談内容	担当
令和4年4月11日(月)	NPO 法人赤穂市スポーツ施設管理運営協会	役員報酬の変更について	前川
令和4年4月22日(金)	NPO 法人兵庫楽市フクロウの会	主催しているイベントの運営について。	前川
令和4年4月28日(木)	はまなすの会	事業拡大とNPO法人化について。	前川
令和4年5月18日(水)	NPO 法人陽だまりの会	運営協力しているイベントの運営について。	前川
令和4年5月18日(水)	個人	NPO 法人の設立方法、運営全般について。	前川
令和4年5月18日(水)	就労移行支援事業所マイドリーム	施設利用者の募集について。	前川
令和4年5月23日(月)	NPO 法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会	主催するイベントの運営について	前川
令和4年6月2日(木)	個人	運営協力しているイベントについて。	前川
令和4年6月2日(木)	障がい者支援事業所菜の花	運営中の就労支援事業所の運営方法について。	前川
令和4年6月10日(金)	姫路食物アレルギーの会オリーブ	事業拡大について。	前川
令和4年6月14日(火)	個人	起業とNPO法人との連携について。	前川
令和4年6月24日(金)	個人	一般社団法人の設立について。	前川
令和4年7月4日(月)	姫千之丞 千之丞一座	事業拡大について。	前川
令和4年8月22日(月)	NPO 法人赤穂緞通を伝承する会 花工房	組織改編について。	前川
令和4年9月1日(水)	三木総合防災公園事務所	企画について。	前川
令和4年9月13日(火)	西脇市役所 地域再生アドバイザー	NPO 法人の設立方法について。	前川
令和4年12月8日(木)	ヘアーサロン ETTO 他3団体	企画について。	前川
令和4年12月27日(火)	株式会社ソラリンクス 他1団体	NPO 法人の設立方法について。	前川
令和5年1月16日(月)	NPO 法人タウンマネジメント協会	事業拡大について。	前川



◎NPO 団体専門家相談会

時	相談者名	相談内容	担当
令和4年10月11日(火)	障がい者支援事業所菜の花	後見人申請と民事受託について。	加藤

◎情報提供・ネットワーク

日時	場所	参加団体数	参加人数	内容
令和4年5月10日(火)	姫路市市民会館	6 団体	8 名	助成金・補助金説明会 情報交換会
令和4年7月12日(火)	姫路市市民会館	10 団体	15 名	デジタル化・DX 勉強会 情報交換会
令和4年9月13日(火)	姫路市市民会館	9 団体	13 名	インボイス制度勉強会 情報交換会
令和4年11月15日(火)	姫路市市民会館	11 団体	17 名	災害ボランティア勉強会 情報交換会
令和5年1月10日(火)	姫路市市民会館	13 団体	16 名	阪神淡路大震災勉強会 情報交換会



◎若者 NPO ボランティア体験

日時	実施内容	人数
令和4年8月30日(火)	大手前通りユニバーサルツーリズムマップ作製調査	4名
令和4年9月26日(月)	大手前通りユニバーサルツーリズムマップ作製調査	2名

上記のほか、毎月第2日曜日に開催している、お城のそうじ会にスタッフとして毎月4名程度、ボランティアには1月現在合計10名程度参加していただいている。

3. 成果や課題点

相談会には姫路市内だけでなく、周辺市町からも相談に来ていただくことができた。
情報提供、ネットワークは参加団体の関係深化に役に立っているが、一方で参加団体が定着・固定化の傾向にあり、新しい団体への広報方法の模索が課題となっている。

4. 今後の展望、成果の活用

広報方法については従来の方法に加えて、SNS を活用していく。
相談に来ていただいた団体・個人に対しては、今後も情報を発信してネットワークを強化して

はりまのくにビズトープ事業

1. ムカシミライ学校まちづくり講演会(講演+パネルディスカッション+交流会)

【第1回ムカシミライ学校まちづくり勉強会】

- ・日 時:2022年11月27日(日)14~16時
- ・場 所:みの劇場 ・参加者数:19名
- ・内 容:

- ①講義「地域に密着したこれからの事業創生とは」(越知昌賜先生)
- ②老舗「コレクション(有限会社小林商事) 小林實さん」による活動紹介

- ③新店「律心調躰極楽庵庵主 竹内一博さん」による活動紹介
- ④クロストーク
- ⑤交流会



【第2回ムカシミライ学校まちづくり勉強会】

- ・日 時:2022年12月15日(木)18時30分~20時30分
- ・場 所:みの劇場 ・参加者数:26名(オンライン参加含む)
- ・内 容:

- ①講義「これからのまちづくりにおける飲食店の可能性」(越知昌賜先生)
- ②老舗「エデンの東 丸尾功二さん」による活動紹介

- ③新店「菓子と珈琲「朔」 吉田元幸さん」による活動紹介
- ④クロストーク
- ⑤交流会



【第3回ムカシミライ学校まちづくり勉強会】

- ・日 時:2023年2月3日(金)19時~21時
- ・場 所:みの劇場 ・参加者数:19名
- ・内 容:

- ①講義「これからのまちづくりと暮らし」(越知昌賜先生)
- ②各ゲスト活動紹介
- ③クロストーク
- ④交流会

【第4回ムカシミライ学校まちづくり勉強会】

- ・日 時:2023年2月17日(金)19時~21時
- ・内 容:

- ①ひょうごフィールドパビリオンの取組紹介~地域の価値創造に向けて~(兵庫県地域創生戦略会議座長 田林信哉さん)
- ②講演「地域における小商いの可能性」(一般社団法人エリア・イノベーション・アライアンス代表理事 木下斉さん)

開催予定!

2. ムカシミライ学校まちづくり交流会

【まちづくり交流会】(ひょうご市民活動協議会はりまチーム・相生(おお)の港町を持続させる会と連携開催)

- ・日 時:2022年12月10日(土) 第1部 14時~16時30分
第2部 17時~20時
- ・場 所:相生市相生地区&コミュニティカフェ「相生ベース」 ・参加者数:16名
- ・内 容:

- ①第1部 まち歩き&意見交換会
- ②第2部 交流会



空き家問題を前進させるためのアップサイクルプロジェクト

特定非営利活動法人Goodstock

事業が目指すところ

たつの市内の空き家に残された家具、解体空き家から出る古材・廃材をリユース/アップサイクル(元々の形状や特徴を活かしつつ、古くなったもの・不要だと思ふものを捨てずに新しいアイデアを加えて別のものに生まれ変わらせること)して、地域で役に立つプロダクトを作る試みである。例えば、現在開発を続けているアップサイクル家具や屋外ベンチの製作過程にタッチポイントを増やして地域住民を巻き込めるものにし、シルバー世代や若者に仕事を作る・スモールビジネスの芽になる仕組み作りを検討する。

活動内容

1. 拠点づくり・拠点活用実験 → 町の有休資産であった蔵を活動拠点とし、前年度から引き続き整備と活用実験を行う。
2. ベンチを使った活用実験 → 前々年度から設置済のアップサイクルベンチを活用したアクティビティの創出。
3. アップサイクル系プロダクト開発 → すでにあるものの創造的転用・「次の使い方」を模索し、開発する。

成果や課題点

【成果】

・古い家具についての相談が増え、思わぬ地域資源と遭遇

龍野地区で大正から昭和まで小児科医をしていた女医「横山醇」の医院跡を改修するため、建築士からGoodstockへ片づけの相談が舞い込む
→片づけ作業の中で医院跡から当時のガラス製薬瓶を大量に見つけ
後述するフリマで販売と同時に、地域の偉人に再び光を当てるイベントを企画。

・アップサイクル拠点の活用

空き家から出てきた食器や地域の方からの寄付による古食器のフリマを開催。
地域のおばあちゃんに店番をしてもらう。
先述の薬瓶の販売会場は横山醇を紹介するパネルを展示し、
まちの記憶と一緒に薬瓶を手にとってもらう場所とした。
薬瓶を花入れに転用する提案として、花屋とコラボしワークショップも行なった。
年度内に「一箱古本市」も開催予定。

・ベンチを使った活用実験

龍野城下町エリアに13台設置したベンチを使って、まちを歩き俳句をひねる
「俳句部」を創立。俳句の先生は地域のおばあちゃん(高浜虚子の弟子筋)。

・アップサイクル系プロダクト開発

誰もが借りられて返せる「まちなか本棚(仮)」を廃材で試作中。
贈答用の素麺箱を本棚へ転用。城下町エリアの店舗や住民が本棚を製作・設置し、
本がゆっくり読めるまちへ。本を読みに・借りに・返しに来るのが、まちを訪れる
きっかけになるのではという仮説を立てている。

【反省点】

地域住民等さまざまな年代の方と協力して企画を実施することはできたが、Covid-19の影響により大学生との連携や協力が当初期待していたようには進まなかった。食器市の開催頻度についてもCovid-19の影響を受けた。

今後の展望 成果の活用

アップサイクル拠点を引き続き活用。古食器市、古本市など、空き家に限らず使わなくなったものを「次の人へ」渡す取組を定着化させていきたい。また、古材の転用などは龍野地区を超えて別エリアへ展開したい。





1. 事業が目指すところ

まちの新たな自治のカタチを検討し、地域全体でさまざまな課題を解決していけるような核になる組織を作り出す事業を行う。それにより、自治会組織を補完しながら、より効率的なコミュニティ活動を展開し、情報の伝達・共有をスムーズにできるような環境を整えていく。まちの様々な組織や団体との間でネットワークを構築しながら、『未来を創る』活動につなげていきたい。また、町内において議論されている小学校の統廃合や小中一貫校、廃校の跡地利用などの未来を考える議題に対しても幅広いつながりを活かした話し合いや取り組みの方法を模索していける組織づくりを目指す。

☆自治会長や役員の仕事が多く、機能不全・疲弊

☆これって一番の地域課題では？

☆自治会って？自治会に代わる組織は？

☆まちづくり協議会や

小規模多機能自治の存在を知る

『しんぐう☆みらい研究室』設立！

まちの未来を研究・調査するために設立！！

市内や近隣地域の協議会などに、設立の経緯や現状・課題や今後の夢などインタビュー調査を実施した。(令和3年度)

2. 活動内容

令和元年に『みらい会議』令和2年に『NextSeedsプロジェクト』と、まちの地域課題を洗い出し、少しずつ議論を進めながら新たな『種』づくりを行ってきた。昨年度は、その中枢部分でもある【協働・共創】をテーマに『しんぐう☆みらい研究室』として、新たなまちのカタチを考える研究をしてきました。そこで拾い上げた事例や知識を新宮地区で応用しながら、まずはまちを構成するあらゆる団体や組織と共に、多様性のある組織を作っていく事を目指す。その後あらゆる分野での取り組みを連鎖的に発展させていくことで【種】を『ふたば』に成長させていく事業を行う。



『しんぐう☆みらいサロン』

住民アンケート調査の実施

『しんぐう☆みらいサロン』の開催

協議会準備委員会の開催

市民活動交流会の開催

地域課題の把握や住民の方の想いを理解する為のアンケートを実施。7/6配布。8/31日締め切りで実施。
548/1680戸(約32.6%)

アンケート結果を活用して、9/25に新宮ふれあい福祉会館で【これこれトーク】と題して、WSを開催。新宮のコレマデとコレカラを語る。

アンケートやWSの結果をまとめ、地域課題を整理し、過疎対策計画を市に提案。その後、準備委員会の設立。組織のビジョン策定。

2月下旬
市民活動団体を集めた勉強会・交流会を開催予定。

3. 成果や課題点

この事業では、新宮地区連合自治会の方々に本当に多くの協力を賜り、アンケート調査やその後の組織作り、来年度に向けての計画づくりなど多岐にわたって支援をしていただきました。また、今後の取り組みに向けて、協力者や興味を持って頂けた方との新たな出会いが生まれたことも大きな成果となりました。

課題としては、まだまだ、住民の理解を十分に得ていないことや、「何をやってもまちは変わらない」(アンケート調査の結果内容から)という人が少数ですがいらっしゃる事です。活動の幅を増やしていきながら、情報発信や報告を丁寧に行うことで、少しずつ認知度を上げ、活動に理解してもらえようように努めていきたいと考えています。

また、若い世代の協力をもっと増やしていけるように、若者の意見を聞いたり、声掛けや活動参加の敷居を低くする取り組みなどを施しながら、共感や期待をより得られるような事業にしていきたい。

4. 今後の展望、成果の活用

今年度作り上げたチームを強化しながら、それぞれの地域課題について具体的な対策や計画を立て、実施していきたい。また、2月下旬に(仮)『市民活動地域協議会ネットワーク交流会』を開催予定ですが、これも継続していきながらネットワーク内での協力や連携を生み出していき、市民協働のまちづくりの推進を図っていきたい。

『しんぐう☆まちあそび2022』

【Next☆マイスター発掘プログラム】

しんぐうNext



HP



FB



1.事業が目指すところ

過疎化、少子高齢化、若者の町外流出など新宮町の地域課題を解決するべく、若い世代を中心としたにぎわい創出事業に取り組んでいる中、この『まちあそび事業』では、子どもや親子向けの学びや体験などを集め、「学校では教わらないことを地域が担い、伝える！」を目標に活動している。

新型コロナウイルスの影響や、今後の学校教育の現場においても自然体験をはじめとする体験活動の制約が予想され、学びの機会が失われる、そんな危機感漂う社会情勢ではあるが、子ども達の教育において、自然・職業体験などの学びの場は必要不可欠なものであり、その体験が将来の夢や新たな興味、関心につながり、子ども達の未来にとって大変貴重な経験になると考える。また、同時に教える側の学びや生きがいにもなり、参加者と協力者のマッチングやそれぞれのシビックプライドの醸成につながると期待している。

今後も地域の方々のいきがいや発見を生む機会、そしてみんながこの地域を楽しめる居場所を積極的に作っていききたい。

2.活動内容

新宮町内の自然や人などの地域資源を活かした親子・子ども向けのワークショップや体験プログラムを実施する活動を行う。その中で、新宮に遊びに来てもらい『新宮町の魅力発見』や『新宮で楽しむ！』をテーマに地域住民をはじめ市内外の人々の交流を促進し、活気ある「まちづくり」「賑わいづくり」を創出する事業を行う。

☆実施事業☆『しんぐう☆まちあそび2022』【()内は開催場所・参加者人数】

- 5/15(日) しんぐう☆こども王国(新宮総合支所・約300名)
- 7/4~10 しんぐう☆七夕まつり(新宮総合支所/新宮こども園・約100名)
- 7/30(土) しんぐう☆ナイト (新宮総合支所・約300名)
- 10/23(日) しんぐう☆農家体験【稲刈り】(けんたろう農園・6組20名)
- 10/30(日) しんぐう☆農家体験【サツマイモ掘り】(右田農園・10組34名)
- 12/4(日) しんぐう☆農家体験【里芋&菊芋ほり】(まんまる農園・4組12名)
- 12/11(日) しんぐう☆農家体験【餅つき体験】(けんたろう農園・8組27名)
- 12/18(日) しんぐう☆謎解きミステリー(新宮総合支所・20組69名)
- 12/18(日) しんぐう☆ファンタジーナイト(新宮総合支所・約300名)
- 2月下旬 まちあそび事業報告&マイスター募集チラシ作成予定。

新宮町全戸配布及び行政施設等配布予定(6000部)。



「段ボールガチャガチャ作り」



「昆虫大好き！」



「七夕まつり」



「農家体験」



「段ボール迷路」



「謎解きミステリー」



「ファンタジーナイト」

3.成果や課題点

今年度のイベントでは、本当にたくさんの方に参加していただき嬉しい限りです。それに加え、多方面から様々な反響をいただき、おかげさまで良い事業が出来たと実感しています。特に今年度は、子ども達に得意なことを教えて下さる方や体験を提供していただける方、また運営と一緒に協力してくれる人などを増やしていきたいと活動してきましたが、予想を超えるほどの新たなご縁や多くの協力者を得ることが出来ました。(学生、20代、外国人、市民劇団員、農家グループ等)

今後の課題としては、この事業を継続して実施できるようにする方法(参加費を有料にする、ボランティアを有償にする等)を考えていく必要がある。多くの方に関心を持っていただいたり、関わって頂く為、循環する仕組みやボランティアと収益事業とのバランスなどを今後の課題と見据えながら、地域内での関わりをさらに増やし、より多くの交流の場を生み出すような機会をこの事業で作り出していきたい。

4.今後の展望、成果の活用

今年度つながったご縁を大切にしながら、年齢や立場に関わらず、さらに『しんぐう☆マイスター』を増やしていきたい。新たな出会いで新たな企画も生まれています。ジャンルやテーマを整理し年間を通じて【季節】や【過程】【成長】などを学べるものも作っていききたい。

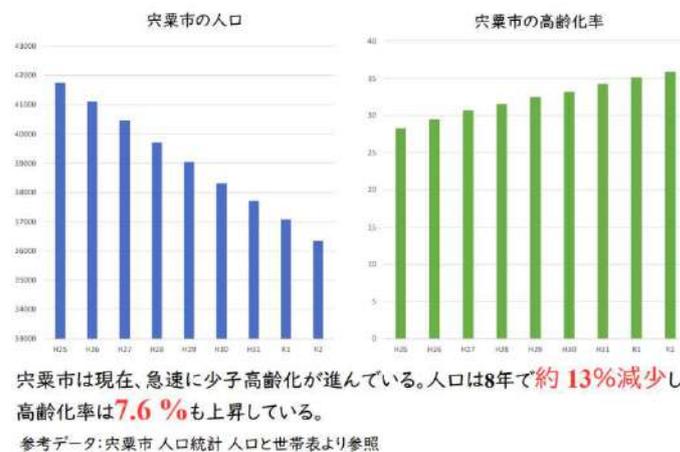
この輪をさらに広げていきながら、『自分たちで面白いまちにしていける！』そんな実感を生む仲間づくりをしていきたい。

「住み慣れた家で安心して暮らせる地域を目指して」

(特非) 地域を元気にする会

1 本事業が目指すところ

兵庫県西部に位置する宍粟市は現在、急激な少子高齢化が進んでいます。このままでは、社会制度や地域コミュニティが崩壊する可能性が高いです。特に独居高齢者の方が増加し、孤独死や災害時の避難などで大きな問題となることが考えられます。そこで当事業は、地域自治会様と連携しながらIT技術を活用した高齢者の見守り支援体制を構築することで、少子高齢化が進んでも、住み慣れた家で安心して暮らせる地域が作れるよう目指しました。



2 活動事業

8月・1月 地域住民講習会

地域住民の方に対して、活動内容や見守りの方法などを説明させて頂きました。

12月 地域全体の防災訓練

災害が起きた場合、避難の方法や応急措置の方法を地域住民の方（参加約65人）と確認しました。

4月～ 高齢の方に対する見守り

孤独死などのリスクのある方に対して、地域の方と連携しながら見守りを行っています。



3 成果・課題

地域にどんな病気やリスクを抱えている方が住んでいるのか判明し、孤独死などを防ぐためにどう見守りをしていけば良いか分かりました。事業の反省点は、多種多様な考え方を持たれた方が住んでおられるので、活動にいかんにか賛同してもらえるか、しっかりと説明が必要だと感じました。



4 今後の展望・成果の活用

今後も引き続き、孤独死のリスクのある方に対して見守り支援をしていきます。現在は限られた地区だけですが、様々な団体様と連携しながら宍粟市全体に活動の輪を広げていきたいと思っております。

基本事業：おくはりま持続可能な地域づくり相談室

1 事業が目指すところ

中山間地域である奥播磨において、地域の活動組織づくりの課題解決のための相談室を開設、人材育成や先進事例などの情報提供を行い、地域全体がボトムアップすることにより持続可能な地域づくりをめざす。

昨年度に引き続き、令和4年度は、奥播磨のNPOネットワークづくりのほか、奥播磨と共通する地域課題を抱えた中山間地域との広域ネットワークづくりを強化、①効果的に交流を深めながら ②複層的な関係性を創り出し、共存できるよう中山間地域の持続可能性を探っていく。

2 活動内容

(1) 相談室の運営

面談・Web・電話・メールなどで対応
相談件数11件・回数41回 地域づくり団体など対象

(2) 情報提供、ネットワーク・WS運営サポート

①地域作り団体などへの情報提供 10件
②ネットワーク・WS運営サポート 回数5回・延べ数69人

今までにネットワークを組んでいるエリアと、新規エリアがさらに広域にネットワークが広がって行くよう働きかけた
(奥播磨・宍粟市団体1団体×京都・宇治市団体1団体)
(但馬・豊岡市団体2団体×因幡・鳥取市団体3団体)

(3) 人材育成

講演会「持続可能な里山づくり講演会—里山づくりの実践」
対象者：里山保全活動団体・地域づくり団体・行政関係者
日時：1月15日① 場所：宍粟市山崎文化会館
講師：県立大学名誉教授 服部保氏
聴講者数：50人(西播磨・中播磨・北播磨・東播磨・神戸市)

(4) 書類作成指導 広報印刷物やその他の資料作成サポート 8件

(5) その他

- 地域情報便「おくはりまNEXT2022」B5冊子500部
テーマ：持続可能な仕組みづくり・ネットワークづくり
- 京都府宇治市で活動する団体の研修受入れ 延べ人数34人
テーマ：宍粟市の環境事業取組みについて・後継者育成と世代交代の実践について
- 県が推進する地域づくりリーダー養成「ふるさとひょうご創生塾」のチーム活動へのアドバイザーの依頼を受けた。その延長線上で、「創生フェス」パネリストとして参画。
テーマ：人と人をつなぐネットワークづくりについて
- 「おくはりま相談室」名入りA4サイズバッグ200部作成 情報提供やWS時資料の配布用に活用し、中間支援活動の取組みをPRしている

※ 全国規模で活動しているNPOからの協力依頼を受けて、2022年度末に出版が予定されているまちづくり関連の書籍に「広域ネットワークづくり」の1事例として、当NPOが進める中間支援的な取組みの実践内容について執筆した(約6000字)



地域資源を活用したワークショップ(6月4日)



広域ネットワークづくりのワークショップ(10月22日)



団体間ネットワークづくりワークショップ(11月7日)



「創生フェス」でコミュニティづくりの提言を行う(11月26日)



持続可能な里山づくり講演会(1月15日)



3 成果や課題点

(1) 成果

- 持続可能な森里山づくりをテーマとした講演会を県立大学名誉教授服部保氏を招いて開催、西播磨だけでなく、中播磨、北播磨、東播磨、神戸市からの幅広い世代の聴講者が参集された。
- 社会活動の制限がなくなる中、地域資源を活用したワークショップを年間を通じて開催することが出来た。京都府からの研修受入れ、創生塾からの依頼など、多岐多様な申し入れがあり、新たな実績となった。
- 講演会やWSサポートの現場に、NPO若手メンバーを配置し、スタッフの役割を担わせた。
- 全国組織を持つNPOなどへの情報提供を行っているが、関西圏以外の地域で活動する団体や首都圏の大学と協働し、当NPOが展開している広域ネットワークの事例を出版物に寄稿した(2023年3月末出版予定)。

(2) 課題点

コロナ禍で停滞・減少していた交流関係人口をどうリカバリーさせていくか、新しい社会の流れの中で、多世代多様な人材をどのように確保し、中山間地域のリーダーに育てていくかが直面している課題である。

4 今後の展望、成果の活用

多彩な講師陣を招いた講座の開設や当NPO独自のワークショップの定期的な企画、地域資源を活用した企画を実施したい団体のサポート、多様な人材交流の場を提供により、直面している課題解決につなげて行く。

今後も地域特性に応じた中間支援を継続し、ネットワークを活用して持続可能な中山間地域づくりをめざす。

『体験教室などを通じ、社会教育の推進を図る事業』

特定非営利活動法人 上郡ひがし蔵 net

1 事業が目指すところ

教室事業は、一般的に地域公民館において実施されているものもありますが、最近では高齢化による講師の不足や、公の教室のため限定性があり、中々気軽に参加出来ないと言う声を聞いておりました。ひがし蔵ではそういう課題を克服するため、前身の任意団体の頃より習熟度の高い一般の方を講師としてワークショップ方式で事業を展開し、気軽に利用できる体験教室としての下地を築いて参りました。

この2年間はコロナ過の影響により公民館の一般使用禁止など、中高年齢層の交流の場も奪われサークル活動の衰退に拍車がかかっているように思えます。私どもは民間として、人数制限を行うなど可能な限りの継続を行いこの問題を解決するよう活動を継続して参りました。

この事業をきっかけに、地元の公民館や街づくり協議会での教室開催など課題となっていた講師の育成に関与する事と各種ワークショップを通じて様々な文化や伝統に触れて頂く事を目的と致しております。

2 活動内容(ワークショップの事業展開)

- ・デコパージュ体験(隔月第二木曜・金曜日実施)
- ・大人の塗り絵体験(隔月第一水曜日実施)
- ・ちよこつと織物体験(毎月第一土曜・第三水曜日実施)
- ・お習字の集い(毎月第三木曜日実施)
- ・栄養講座(不定期/令和4年4~7月、9~11月 各1回)
※7月は子ども対象の講座を展開。
- ・花*花プロジェクト(令和4年度は4~5月実施)
- ・スタッフ会議(令和4年7月/令和5年1月)



◆子ども栄養講座の様子(7月実施)

講師とスタッフを交えた意見交換会を開催。課題や悩み、今後の展開などをざっくばらんに話し合った。

3 成果や課題点

(1) 成果

コロナ過の中ではありましたが、参加者や講師の方にご理解を頂き感染対策を取りながら継続して事業を展開する事が出来ました。元々ひがし蔵は地域を限定する公民館とは違い町内外各所よりご来場の方が多いため、事業展開をする中で参加者同士の親睦と交流を生み出す事が出来ました。また目的としていた講師の育成も、一般の参加者であった方が地域公民館やコミュニティスペースなどで指導的な役割を行ったり、ワークショップ講師としてひがし蔵で教えて頂いた方も他の施設で講師として指導を行うなど一定の成果を見る事が出来ました。

(2) 課題と反省点

実施にあたっての成果は見出すことが出来ましたが、事業を支えるひがし蔵スタッフの人的不足が浮き堀になってきており、募集から準備・実施・片付けまでの作業までの負担がボランティアの限度を超えていると感じています。また事業の反省点としてはある時点から参加者が定着している事で、興味はあるものの「参加しづらい」と言う印象を持たれる懸念があり、今後の告知と募集方法に工夫が必要と思われます。

4 今後の展望、成果の活用

ひがし蔵ワークショップは当法人の活動事業の核でもあります。参加者、講師、スタッフの意見を参考に今年度の実績を踏まえ、他のコミュニティとの連携も視野に入れ来年以降も継続実施して参ります。またこの事業を実施した事で習熟度が増した参加者を新しく講師としてお招きし、将来に渡る活動を目指して参りたいと思います。

【中間支援活動助成事業(基本事業)】 法人名:NPO法人プラッツ

【NPO 講座 1】『知っておきたい！パワハラ防止法』

開催日:2022年7月4日(月)13:30~15:30

内 容: 通称「パワハラ防止法」についての解説。

講 師: ㈱リライエ 石田 隆利 氏



【NPO 講座 2】『知っておきたい！まちづくりのいろは』

開催日:2022年10月28日(金)13:30~15:30

内 容: 地域で豊かに暮らすためにどのような手法で取り組むかを学ぶ。

講 師: NPO 法人市民事務局かわにし 理事長 三井 ハルコ 氏



【NPO 講座 3】『知っておきたい！実践会計』

開催日:2022年12月9日(木)13:30~15:30

内 容: 会計業務に携わる方に実践的な会計を学んでもらう。

講 師: 公認会計士・税理士 作花 良祐 氏



『但馬コミュニティ協創会議』～社会活動×地域ポテンシャル～

開催日:2022年8月19日(土)13:30~16:00

内 容: 様々な方が出会い、つながり、一緒にできることを考える場。

ファシリテーター: NPO 法人シミズシーズ 小笹 雄一郎 氏

参加者: 19 名

参加者の所属: 地域おこし協力隊・NPO 法人職員・社会福祉協議会職員・日本政策金融公庫・豊岡市職員など

◎参加者が手を挙げた企画が協働により実際に動き出し、「ブッククラブ」としてこれまでに 3 回開催されている。



『但馬コミュニティ協創会議第 2 回』～対話からつながる但馬の未来～

開催日:2023年1月28日(土)13:30~16:00

内 容: より多くの方が出会い、つながり、何かが始まる場。

ファシリテーター: NPO 法人シミズシーズ 小笹 雄一郎 氏



参加者: 27 名

参加者の所属: 地域おこし協力隊・NPO 法人職員・一般市民・高校生・豊岡市職員・社労士・地域活動団体など

◎多様な参加者が集まり、その中で 6 名がテーマを起案し、それについてグループで対話を深めた。グループチャットがスタートした。



1, 事業が目指すところ

ひきこもり者は全国で100万人以上といわれ年々増加の傾向です。その年齢も高齢化が進んでおり、またコロナ禍生活の影響から不登校生も非常に増加しています。ひきこもりや不登校は社会の問題であり、当事者や家族としっかり向き合う支援体制が不可欠です。朝来どんぐりの会は当事者・家族が社会の中で孤立することなく社会と繋がって生活されること、また誰もがその人らしく生き生きとした生活を送られることを願い当事者・家族に寄り添いながら支援を行います。

2, 活動内容

(1)相談活動

毎週5日(月・火・木・金・土)11時から15時まで居場所での相談が基本ですが、時間外の訪問や電話相談も行っています。朝来どんぐりの会では丁寧な傾聴、課題の設定、対応方法の検討を行います。必要であれば専門機関にも繋がります。相談は当事者より家族からの相談が多いです。当事者に会うことが困難なケースが大半ですが焦ることなく家族との面談を重ねながら関わり方や課題を一緒に考え、親と子の良好な関係構築を目指しています。



11/19、本年度2回目の「親の会」

(2)居場所活動

居場所「どんぐりの家」はくつろぐ場所、交流場所、自立に向けた体験活動(料理、外出、パソコン等)の場所です。納涼会やクリスマス会の行事なども参加者と一緒に計画し楽しんでいて利用者が徐々に増えています。



12/17、楽しかった「クリスマス会」

(3)朝来どんぐり親の会(講演会と交流会)

研修と交流を目的に年2回開催しています。6月は「親の歩みと子の歩み」11月は「自分でできることを見つけよう！」「障害年金について学ぼう！」という2つのテーマで実施しました。研修後家族から「子供への見方が変わった。」「話を聞きほっとした。」などの感想をいただいています。また講演会の実施は市民にひきこもり問題をアピールする良い機会にもなっています。

3, 活動の成果

- ①朝来市よりひきこもり訪問支援事業委託を受け訪問活動が活発になり支援が進展してきた。
- ②会報やSNSでの発信等により周知され相談者や居場所利用者が増えてきた。
- ③地域民生委員や他団体との連携が出来てきた。

4, 今後の課題と展望

- ①研修を充実させスタッフの相談技術や知識を高め、それぞれの力を発揮しながら協力して支援活動を展開していく。
- ②当事者個々の特性を知り長所や特技をさらに伸ばしていける支援を目指す。
- ③年2回開催している朝来どんぐり親の会を充実させていく。
- ④地域の関係機関(行政、民生委員、他の福祉団体等)との連携を進め、地域に広く浸透し必要とされる組織となる。



農村課題解決と地域活性化に貢献する関係人口創出・拡大事業（2年目）

1 本事業が目指すところ

本団体は、人口減少・高齢化による担い手不足に悩む農村を支援するため、地域内外の多様な人材とともに地域の獣害対策をすることで参加者には愛着が芽生え、地域が活性化するという「**獣がい対策**」を推進するべく様々な活動を行ってきた。

本事業では、特に地域外から農作業や地域活動に関心のある人（**関係人口**）を募集し、農作業ボランティアや農作物を活用したイベントを実施。丹波篠山市内の複数の自治体で活動を行うことで参加者・地域双方の課題解決・満足度の向上を目指す。なお事業の助成金の用途は農作業・イベント資材、獣害柵設置費用、イベント運営に当たる人件費・謝礼等である。

2 活動内容

本事業では主に3つの活動を実施した。1つ目は**黒豆ボランティア**（丹波篠山市安口西集落）、2つ目は**丹波栗栽培支援ボランティア**（丹波篠山市矢代集落）、3つ目は**耕作放棄地でそば栽培・蕎麦打ちイベント**（丹波篠山市藤坂集落）である。またそれ以外にも、参加者とコミュニケーションを図るため「**公式LINE**」の運用を4月より開始、年間を通して活用した。



黒枝豆の収穫作業の様子



丹波栗の選別作業の様子

黒豆ボランティア
（丹波篠山市安口西集落）
4月～12月
全28回実施
（1～2週間に1度開催）

丹波栗栽培ボランティア
（丹波篠山市矢代集落）
10月～11月
全6回実施

耕作放棄地でそば栽培
（丹波篠山市藤坂集落）
7月～11月
全4回実施



そば畑の様子（丹波新聞に掲載）



蕎麦打ちイベントの様子

育てたそばで蕎麦打ち体験
1月22日・28日、
2月23日実施（予定）

実際のさともん公式LINE



さともん公式LINEの運用
年間通じて

3-1 成果

2022年度は**507名**（2月終了時には**531名予定**）（延べ）が地域外から様々な活動に参加した。

昨年度取り組んでいた「黒豆ボランティア」の集客・運営ノウハウを生かし、丹波篠山市内の複数の集落の課題解決のためのプログラム（栗栽培・そば）を立ち上げ、収穫や試食の体験を実施、さらに来年度以降の活動も見据えた関係性作りがなされている。

また公式LINEアカウントの運用も開始し、**113名**（2023年1月現在）が登録。活動毎の告知や報告に活用し週に1回程度配信を行っており、特に若年層などとのコミュニケーションが円滑になった。

3-2 課題点

活動の幅が大きく広がったが、参加者がどの地域にも同じ人が参加しているということも見られた。

また栗栽培のボランティアについては、ほとんどが収穫作業・選別作業でのボランティア実施になり、その前後の栽培の大変さや面白さが分かるタイミングでの活動が叶わなかった。

また公式LINEの活用については、まだ頻度・配信の仕方ともに改善の余地がある。

↓ボランティア参加者数（大人・子ども合わせて・地域外のみ・延べ人数）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	計
黒豆ボランティア	26	28	28	66	49	17	63	58	29			364
丹波栗栽培ボランティア							29	28				57
そば栽培・蕎麦打ち体験				6	18			17		45	(24)	86 (110)
合計	26	28	28	72	67	46	91	75	29	45	(24)	507 (531)

4.今後の展開や成果の活用

本年度行った3地域での活動は来年度以降も継続し、地域へのファンをさらに増やしていく。また栗栽培やそば栽培については、地域・関係者と相談をしながら、収穫・試食以外のイベントの参加者をより増やしていけるように企画・広報を行い、新規ボランティアの獲得を図る。

参加者獲得のためにも、公式LINEはより投稿頻度・投稿の質の向上をする。また活動を通じて収穫した農産物を、参加者や地域外の人が購入して地域を応援し、さらに活動が活性化するという「**応援消費**」のサイクルがおこることを目指し、市役所や地域内外の多様な人材と関わりながら展開を上げていく。

実施概要と成果・課題

丹波「社会的つながり」プロジェクト（第2期）

～コロナ禍に負けない市民発アプローチで地域の支え合いを生み出すために～

基本的に昨年度立ち上げた本プロジェクトの目的・趣旨（以下）を継続

コロナ禍が長期化する中、社会的孤立、地域の疲弊は進行している。丹波市域では、これまでも社会的孤立を防ぐ・解消するための、地域で支え合う活動が生み出され、取り組まれているが、その価値や内容はあまり共有化されず埋もれたままになっている。感染症対策や医療的対策の進展を前提としつつ、孤立する人々を含む市民が支え合うための「社会的つながり」を地域に生み出していくことを目指す。

第2期（2022年度）の重点的な取り組みの視点

昨年度から収集してきている取組情報等の可視化・PRを発展・充実
交流会の定期開催・充実＝交流するだけでなく、新たな取組や連携した取組の創出につなげること

主催・呼びかけ：NPO法人丹波ひとまち支援機構（たんえん）

連携・協力：（社福）丹波市社会福祉協議会 / （株）ご近所 /

丹波市市民活動支援センター・人権啓発センター・男女共同参画センター

プロジェクト全体像（取り組んできたこと）



各項目での成果と課題→今後の展望

- ①交流 交流会には平均30人程度が集まり、毎回のテーマに応じて、多様な主体（市民活動、行政、企業、自治会、議員等）が集う場に広がってきている。今年度はプラットフォーム（取組主体の連携を促す場を企画している主体）間の連携の場や、活動現場（芦田集学校）での開催など、質・量ともに交流と連携の場が広がってきた。この場を定期的・継続的に開いていくことが参加者からも求められている（来年度以降は他のプラットフォームが主に開催できるよう、支援していく形を想定している）
- ③連携 今年度期待して取り組んでいた、連携した新たな事業の実現は現時点でまだ確認できていない。ただし、たんばローカルグッドネットワークはまころ（企業ネットワーク）の創設など、本プロジェクトをきっかけに連携の機会が広がっている。来年度以降はより具体的に事業創出にむけたプログラムへと発展させていく予定（本プロジェクトは一旦発展的解消）
- ②収集 今年度重点的に調査するとして、自治協議会が把握している取組の調査を実施しているところであるが、把握量が少ないと推察され、地域運営組織としての別の課題が明らかになっている。新聞記事（4紙）掲載情報の追加調査を行っている（2022年3月～2023年2月中旬）
- ④発信 ポータルサイト<http://tamba-tsunagari.net/>を引き続き運用、事例調査等をふまえて、重点的に取り組むとしていた活動の見える化の充実を図る予定。ラジオ番組での放送も継続（6番組）
- ⑤報告 2/25に今後の展開を見据え、つながりを生み出すために必要な活動主体間の連携をテーマとした講演会を開催。今後は主体関連系の質の向上、また連携した課題解決に向けた具体的な事業を生み出すためのプログラムへ発展していくことを表明予定。

「学校を核とした地域づくり」を応援する まなびの里プロジェクト

～ 子どもも大人も、学び合い、育ち合う地域を目指して ～

プロジェクトの目的

丹波市では、2017年からコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を導入し、「地域とともにある学校」づくりに取り組んでいます。

本プロジェクトでは、これまでの取り組みを踏まえながら、**子どもも大人も、学び合い、育ち合う「学校を核とした地域づくり」**（地域学校協働活動）を実現するために、2回の交流会と3回の講座を通して、地域、学校、保護者、行政、市民、市民活動団体などの様々な主体が交流しながら学び、考えてきました。

主催：特定非営利活動法人丹波ひとまち支援機構（たんえん）

連携・協力：丹波市立南小学校・学校運営協議会／南小コミスクぬぬぎびと／丹波市市民活動支援センター
丹波市まちづくり部／丹波市教育委員会教育部／丹波市社会教育委員
丹波市立南小学校地域学校協働活動推進員／丹波市立西小学校地域学校協働活動推進員

プロジェクトで取り組んできたこと

（開催レポートはQRコードからアクセス）

①交流 「交流会」（7/24 参加者：26人）

テーマ：「**地域と学校の連携・協働のこれまでとこれから**
～南小学校の実践から～」

発表者： 藪内大介氏（丹波市立南小学校 校長）
打田哲夫氏（南小学校 学校運営協議会会長）
松本佳則氏（南小学校 地域学校協働活動推進員）



②学び 「学校を核とした地域づくり講座」

第1回（9/10 参加者：27人）

テーマ 「**地域と学校の連携・協働によりもたらされる効果**」

講師： 岸裕司氏（秋津コミュニティ顧問／CSマイスター）



第2回（10/15 参加者：22人）

テーマ 「**人づくり、地域づくりのための地域と学校の協働**」

講師： 福田範史氏（鳥取県南部町教育長／CSマイスター）



第3回（11/15 参加者：23人）

テーマ 「**“楽しく” 連携・協働していくためのコツ**」

講師： 西川正氏（NPO法人ハンスオン埼玉理事／真庭市立中央図書館館長）



※参加者数には発表者・講師・スタッフを含む

③連携 「ふりかえり交流会」（2/19予定 申込者：30名 1/28現在）

テーマ：「**子どもも大人も、学び合い、育ち合う地域になるために**」

地域と学校の協働に取り組む学校、地域、市民、行政、NPOの実践者の報告から学び、テーマを決めて取組主体の交流・情報交換等の内容を予定している。これまでの取り組みから、**地域学校協働活動を担う人材の育成や配置、行政のリーダーシップや部署間連携が課題として見えてきた。**そのため、今回は行政から学校教育、社会教育、生涯学習・地域づくりを担当する3つの部署の実務担当者が、行政の取り組み、今後の展望や課題を報告する。

発表者：（学校・地域） 南小学校教員・地域学校協働活動推進員／西小学校地域学校協働活動推進員
（市民） 社会教育委員
（行政） 丹波市教育委員会 学校教育課（コミュニティ・スクール担当課）
社会教育・文化財課（地域学校協働活動担当課）
丹波市まちづくり部 市民活動課（生涯学習・地域づくり担当課）
（NPO） 特定非営利活動法人丹波ひとまち支援機構（たんえん） 社会教育士



プロジェクトの成果

1. 地域と学校の連携・協働に取り組む主体が増加（南小コミスクぬぬぎびとの活動メンバーの増加）
2. たんえんと行政、行政各部署間の連携が強化（実務担当者の交流会・講座への参加・勉強会の開催）
3. 市の委員会等で「地域学校協働活動」が主要なテーマに（社会教育委員・まなびの里づくり協議会）
4. 社会教育を担う人材育成の必要性の共有（社会教育士の育成や推進員の配置の強化に向けて）

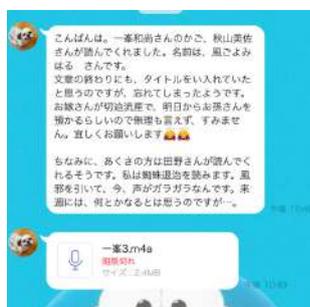
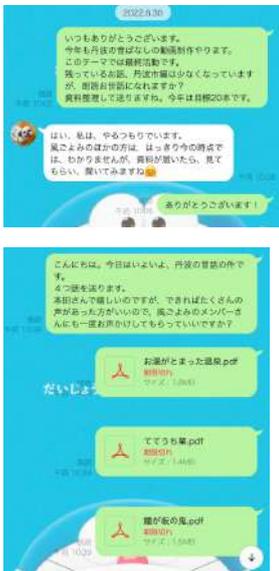
あなたの声で地域の物語を届けよう

～シニア×オンライン最終章(3年目)

生涯学習応援隊so-so.39

- 3年計画事業の最終年、コロナ禍は収まらず、当地域では逆に感染が拡大して、学校関係、施設関係などの連携が難しくなりました。事業を実施しているメンバーにも感染者が出、日程が変更になったりと、少し苦労しましたが、なんとか目標のむかしばなし動画20本は達成できました。(1月末で81本)
- 音声だけの朗読は(ポッドキャストラジオ)、最終編集に向かっています。

動画制作の様子



オンラインの場合はLINEを活用。原稿PDFや朗読音源もやりとりできるのでとても便利。



もらった朗読音源を確認・編集。



書籍の挿絵、音声を動画に編集。



対面の場合は、公民館等で録音機材を持ち込んで収録(この日は会場使用量は要りませんでした)

活動の効果



コンテンツ	平均視聴時間	視聴回数
1 南井城ものがたり (2020/1/20)	1:27 (39.9%)	3,147
2 南井城の宿の定 (2020/4/6)	1:00 (10.9%)	2,991
3 水上刀渡(ひかみとあ) (2020/6/20)	0:24 (8.9%)	3,348
4 丹波の書誌「伝説の夜響」 (2020/6/24)	0:43 (12.8%)	3,894

ぜひご覧ください



YouTubeに動画を公開。お話によって再生回数にばらつきがありますが、それぞれの読み手の広報活動の差。家族、友人にアプローチしてくださっている方はありがたい。

- 3年間継続してシニア世代に協力してもらうことは、家庭状況の変化などでなかなか難しかった。ただ、オンライン活動で外出が少ないのは歓迎された。
- 学校関係は授業時間の確保が難しく、地域との連携も小さな市民団体とは厳しかった。当地域は、特産品作りや古民家や森林再生など、中山間部の課題解決に関する活動と連携する学校が多い。しかも放送部の活動が少ないので児童・生徒の参加は実現しなかった
- 当グループが動画制作をしていることを知ってくれた行政関係者からの依頼で、介護福祉関係のDVDを制作した。



朗読体験講座を開催し。その後、本講座へ。新しい読み手が増えた。月2回の講座は継続中。助成事業が終了して、YouTube公開の継続や朗読会の実施などの発表を通じて、朗読人口を増やしていきたい。

むかしばなしの動画
80本は目標達成!

地域で地域を支える — 「見守る力」を育て、ネットワークを創る —

特定非営利活動法人兵庫SPO支援センター

1. 事業が目指すところ

(課題となる地域情勢)

洲本市の6歳未満の子どもがいる世帯で、80.5%が核家族。核家族化の進行により地縁から生じる地域社会の支え合い機能が弱まっている。誰にも気づかれず、自殺や事件ではじめて孤立が進んでいることを知る。

(目的)

「治療型」から「予防型」への転換が必要。地域で子どもを見守り・支えていくしくみを作る。

2. 活動内容

① 気付いて、つなぐゲートキーパーづくり。

●11月「悩みの聴き方講座」

「地域で気づき、つなげる」セミナー（学生対象）
県立洲本高校生を対象にNPO法人ゲートキーパー支援センターの竹内志津香氏による「悩みの聴き方講座」開催。



●2月「悩んでいるあなたへ」

「地域で気づき、つなげる」セミナー（一般市民対象）

不登校など悩みを抱える人の近くにいる人を対象にNPO法人ゲートキーパー支援センターの竹内志津香氏による講座と質疑応答

② 地域の親子が参加するイベント開催

●2月「LIFE IS YOURS — 人生は君のものだ —」

増田薫氏講演 + フューチャーセッション（淡路島・高校生とのトークセッション）

「生ききっていく原点の日にする」を目的にインパクトのあるイベントを市内高校生、社協等と一緒に作り開催した。



3. 成果・課題

市内の高校生や社会福祉協議会、洲本市教育委員会が共催するかたちで、セミナーやイベントを開催。イベントには市民に広く参加いただき、地域で子どもを支えていく意識の向上とゲートキーパー講座を通して具体的な手法を提示できた。

4. 今後の展望 成果の活用

「子ども第三の居場所」設置へ向けて、地域で子どもを見守り・支えていくネットワークを形成できた。

「働いている人・遠隔地の人のためのNPO等支援窓口」

特定非営利活動法人兵庫SPO支援センター

1. 事業が目指すところ

(課題となる地域情勢)

兵庫県下の中間支援窓口は都市部に集中し、少子高齢化等の課題を抱えている地域には不十分な状況。

中間支援の重要性を実感する一方、全行政区の身近なところに地域がつながり、地域課題解決へとアプローチする中間支援機能を持たせるには無理がある。

(目的)

相談者の事情に合わせて相談に対応。

地域の身近なところで人がつながり、地域課題解決へ向けてサポートできるプラットフォームを創る。

2. 活動内容

① 淡路島等の遠隔地への出張相談。相談者に合わせた日時での相談対応。

② 中・長期的な視点から、県下各地域の身近なところで中間支援的な役割を果たす「図書館」との連携を進める。

②-1 まちづくりネットワーク交流会 同じ地域でまちづくり等、活躍している方をゲストに迎え、参加者の気づきと交流を兼ねたパネルディスカッションを行っている。

●10月 第3回 まちづくりネットワーク交流会

ゲスト：森のようちえん 中井香緒里氏

藍 LAND プロジェクト 根岸誠一氏

●1月 第4回 まちづくりネットワーク交流会

ゲスト：元北淡町役場職員等有志会会長 浜野展好氏

「ひらけ！オフグリッド」著者 サトウ チカ氏



②-2 パネルディスカッション「図書館×まちづくり ～あれから これから～」

●2月 まちと深く結びついている「図書館」の可能性を含めて、3市（西脇市・明石市・淡路市）図書館長及び図書館ボランティア、全国の図書館を見てきた識者、まちづくりを専門とする学者によるパネルディスカッションを実施した。

3. 成果・課題 人口減少が進む地域の中間支援の今と未来に道筋を示した。

中間支援のノウハウを持った当団体と図書館が連携しながら、地域に根差し、地域に即した継続的な中間支援のかたちが現実となった。

4. 今後の展望 成果の活用 中間支援と図書館の連携で未来を拓く

来年度、淡路島に定着した中間支援窓口の設置を目指し、淡路島3市の図書館と連携した取り組みを開始する。



1 事業が目指すところ

島内の課題の中から①人口減少・それに伴う福祉や暮らしの実態を知り、絆づくりや支え合いの仕組みの再構築を目指す。(南あわじ市灘地区) ②移住者と地域とのより良き関係をつむぎ、双方が節度を持ち、長く付き合い、定住し、暮らしていける日常を構築する、(淡路市生穂地区) 当該地域の生活環境、取り組み、生業、思いを話し合い、共有し、更に暮らし易くする工夫や組織の連携や協働で、地域づくりの観点から方策を考える。愛する故郷の永続、愛着のある地域づくりを共に考え、共有し、暮らしていく方策を考える。

2 活動内容

① 11月15日(火) 南あわじ市灘公民館

「きずな・見まもり・支え合い談義
in 灘 Part II」

共催：NPO 法人灘水仙の丘

協力：南あわじ市社会福祉協議会ほか



きずな・見まもり・支え合い談義 in 灘 part II

② 2月10日(金) 生穂会館(公民館)

「しまびと交流 in 生穂」

協力：NPO 法人島暮らし淡路

2月10日(金) 実施予定
淡路市生穂・生穂会館
実施終了次第 添付

2月10日(金) 実施予定
淡路市生穂・生穂会館
実施終了次第 添付

しまびと交流 in 生穂

3 成果と課題・問題点

- ① 何とかしなければならぬと思いつつもどうしたら良いか分からない。思いはあるが前例に捉われて踏み出せない。それでも人口減少と地域の疲弊は目の前に迫っている。そんな地域に住む方々の前途や課題は、その地域だけの問題に留まらない。(生活実態調査から考えた。)
- ② 事業実施後、追記します。(準備段階の課題) 移住者に対して、地域の祭りや行事に参加して欲しいとしっかり要請する必要がある。気を遣い過ぎず、思いを伝え、何らかの関わりを模索することが大事だ。双方が交流の場を増やし、顔馴染になれば相手が知り得、距離感が判る。距離感を保つため、地域作りの場に引き出し、参画させることから始めたい。

4 今後の展望、成果の活用

- ① 昨年、実施した生活実態調査から地域の実態が見えてきた。その中で常に何らかの不便や十分なサービスが受けられていないと感じている。行政や福祉団体だけに頼れず、NPO 法人の取り組みも紹介されたが、本質的な解決の方向には向いていない。高齢者は買い物に行けない状況、食事の栄養の偏りも見られ、栄養管理された配食がコープこうべから提案された。注文と安否確認を兼ねたアプリの開発も提案された。今後は生活を支える団体に委ね、見届けたい。
- ② 移住者と居住者を区別することはない円熟した関係が地域内で構築されつつある。移住者には無理のない役割割りを用意され、受け入れ体制ができていて、地区の行事にも加わってもらい、また子どもを通じた仲間として交流が進められる。祭りのしきたりにも拘らず、氏子と同じ待遇で要請している。節度ある距離を保ち、地域への貢献と責任を持たせている。双方の懐の深さが為せる所、移住者の地域愛が為せることだろう。そんな地域を応援し、発信していく。



地域づくり活動 NPO 事業

第 1 回島の未来・SDGs を学ぼう！2022 年 7 月 9 日

わたしの中にある探究の“タネ”を見つけよう

OLEGO を使ったワークショップ

「SDGs の視点で見えてくるこれからの私」

いま世界中で新たな社会の目標として、SDGs が関心を持たれていますが、その意味するところは何か、それが指し示す社会の姿はどんなものかを探ってみました。

○話題提供

「淡路島の未来… ～淡路島ビジョンに学ぶ～」

ゲストスピーカー：大橋 雅史さん

(淡路県民局交流渦潮室交流渦潮課班長)

第 2 回島の先輩と話そう！ 2022 年 8 月 8 日

わたしの中にある探究の“タネ”を育てよう

第 1 部「島の先輩」のお話

淡路島には、今、自分たちの夢を形にしようとがんばっている人がたくさんいます。そんな島の先輩たちから、島の魅力や取り組んでいることをお話をもらいました。

ゲストスピーカー：北坂 勝さん(北坂養鶏場代表) 他

第 2 部「あなたの探究テーマと地元の先輩をマッチング」

○ワークショップ

ファシリテーター：浜田 啓久 (SODA コーディネーター)

ゲストスピーカー：小林 広英先生 (京都大学大学院地球環境学 教授)

第 3 回島をデータで見てみよう！2022 年 8 月 27 日

わたしの中にある探究の“タネ”を育てていこう

第 1 部「データから見た淡路島の姿」

ゲストスピーカー：芦谷 恒憲先生

(兵庫県企画部統計課統計分析官、兵庫県立大学産学連携・研究推進機構特任教授)

「まちづくりの統計学」共著者)

第 2 部「高校生ができるデータの集め方・見方・使い方」

ナビゲーター：芦谷 恒憲先生

○ワークショップ



2月18日 S-BRICK にて
高校生のための
SDGs フォーラム
を開催。一年の成果を
発表します。



中間支援(基本)事業



◆事業がめざすところ：地域の人材育成と仲間づくりのために用意したセミナー

第 1 回地域づくり応援セミナーの実施 (2023 年 1 月 14 日) 参加人数：110 人

第 1 部 演題「激動の世界とこれからの日本」

講師：(公財) ひょうご震災記念 21 世紀研究機構理事長 五百旗頭 真 先生

第 2 部 トークセッション「五百旗頭先生と語ろう ～どうなる？これからの日本～」

コーディネーター：神戸新聞論説委員長 勝沼 直子 様

◇事業がめざすところ：兵庫県が目指す「参画と協働」の理念に基づき当団体の活動の柱である「市民社会の実現」に向けた NPO と行政の協働会議「これからの島の暮らしを考える市役所」を開催

第 14 回これからの島の暮らしを考える市役所実践編の実施 (2022 年 11 月 24 日、12 月 18 日)

タイトル「福良魅力発見！まち歩き」参加人数：37 人

第 15 回これからの島の暮らしを考える市役所実践編の実施 (2023 年 1 月 20 日)

演題「これからの観光って ～ウエルネスツーリズムと観光防災～」参加人数：18 人

講師：流通科学大学人間社会学部観光学科 教授 西村 典芳先生



「AMAアイティラボ 阿万ICT推進研究所」

特定非営利活動法人 コミュニティスペースエモラボ

①事業の目指すところ

当地域は淡路島の南端にある南あわじ市の阿万地区で住民の高齢化が進んでいる地域です。今問題となっている

「高齢者の情報格差」の問題は地域にとっても大きな課題となりつつあります。又、使いたくても過疎地で教えてもらえる場所も少ないなど地理的な問題も抱えています。

この状態が続くとIT活用が飛躍的に進んでくる世の中から取り残されてしまう人が多く発生してしまうのではないかと「高齢者のIT利用促進」を進める為にこの事業を実施しました。

②活動内容

10月15日(土)・22日(土) 動画の作り方教室

9月21日(水)より毎週水曜日18:30~20:00

パソコン・スマホ相談窓口開設

開設日数17日間開設

※12/28・1/4は窓口を休みました。

12月29日 阿万地区吹上地区自治会への自治会

ホームページの説明会実施。

(予定)2月下旬 セミナー「フェイクニュースに

気をつけよう」

約2時間程度のセミナー実施予定。



③成果や課題点

成果としては、正直成果は上げられていない状態に現状は終わりそうです。ただ今の課題点がこの期間に洗い出せたと考えています。今回の事業を進める中で高齢者のIT利用については、まず挫折するポイントして2つポイントが存在する事でIT利用をあきらめてしまう。

結果今使える最低限の利用だけ又は使うことさえも諦めてしまう現状を知る事ができました。

- ・知識がないからネットは怖いもの
- ・頑張っても途中で知らない言葉が出てきて諦めてしまう
- ・メッセージの意味が分からない

- ・聞くところが身近に無い、家族に聞くと何度も聞いているとケンカとなる

本事業では「高齢者のIT利用促進」として使いたい思いが大きいと見て計画をしていましたが、現状ではすでにIT活用を諦めてしまう高齢者が多数を占めておりスマホ教室やパソコン教室を募集しても反応もなく(周辺でコロナが発生した事も一因あります)計画していた教室を断念し毎週決まった曜日時間にスマホやパソコンなどの無料なんでも相談室に切り替え対応を行い現状についての聞き取りなどを行い事業の新たな課題の洗い出しを行いました。

課題点としては、計画した事業としての「高齢者のIT利用促進」については、今その段階ではなくIT化が進む中で一番これから取り残されてはいけない高齢者をどうサポートするかが今の課題点として対策が必要だとわかりました。

④今後の展望、成果の活用

これから加速していく情報化社会の中で特に過疎地の高齢者がこのITを利用して様々な恩恵を受けられるメリットは大きい。しかし、今の現状では使えない事から生まれる情報格差は益々広がり悪循環を生んでしまう。今年度の事業計画での「高齢者のIT利用促進」の前に押さえてくべき課題として「誰も取り残されない地域づくり」を進め今後はこの取り組みに重点をおいて取り組む必要であり進めていきます。

又、この活動を通じデジタル庁が任命したデジタル推進委員アンバダサーの牧壮氏(牧アイティ研究所代表)とのつながりが生まれ今後は実体験やアドバイスを受け「誰も取り残されない地域づくり」に取り組んでいきます。

「一時預かり保育担い手確保の為に、アクティブシニア発掘 第2弾」

(特非) 淡路島ファミリーサポートセンターまあるく

1. 「シニアの為にデジタルミニ講座 With 親子」と題して、多世代交流イベントを実施、根底には継続してテーマとしている“一時預かり保育担い手の発掘”を思慮に入れながら交流事業を行い、子育て世代に地元の知り合いを増やし、少しでも子育てのストレスを軽減する時間を増やしたいという目的がありました。

①7月15日 10時30分～11時30分

参加者：シニア4名、ボランティア2名、スタッフ3名

②9月12日 10時30分～11時30分

参加者：シニア7名、ボランティア3名（内学生1名）、
スタッフ3名

③10月13日 10時30分～11時30分

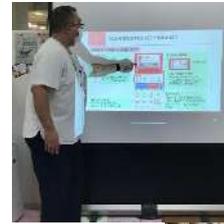
参加者：シニア5名、ボランティア2名、スタッフ4名

④12月13日 10時30分～11時30分

参加者：シニア1名、ボランティア3名（内学生1名）、子育て世代2組、
見学参加2名、スタッフ3名

⑤1月20日 10時30分～11時30分

参加者：シニア5名、親子1組、ボランティア2名、スタッフ3名



2. 感想、問題点

成果 12月の会以外の講師のいる会については、各回テーマを決めて募集、各会とも参加者はテーマごとの収穫を得られ、満足いく内容だったとの感想を頂いた。講師の方のわかりやすく丁寧な説明にどの参加者も真剣に耳を傾け、積極的に質問などもされていました。12月はこの事業の根底「淡路市型の子育て支援を一緒に考えよう」をテーマに、淡路市子育て応援課の担当者や淡路市社会福祉協議会の子育ても担当している方にもご参加頂き、シニアや子育て世代がリアルに感じている事を付箋に書出し、大きな模造紙にみんなの思いを貼出して、交流会後も「おむすび交流の場」に来所する利用者の方々目に触れるように掲示した。ただ、その思いを具体的に形にするという所までは至らずである点が問題点だと思っている。

3. 事業の反省点 計画では、シニア世代から保育の担い手として声をあげていただきたい思いがあったが、このテーマを根底に3年間訴え続けたが、一時預かり保育担い手に結びついたのは1人という結果になった。デジタルミニ講座として、講師依頼しご登壇いただいたが、募集をする際に興味をそそるような発信の仕方がどうしても口伝えでなければ伝わりにくく、直接の働きかけがないと予約にまで至らなかったのが反省点である。

4. 今後の展望、成果の利用

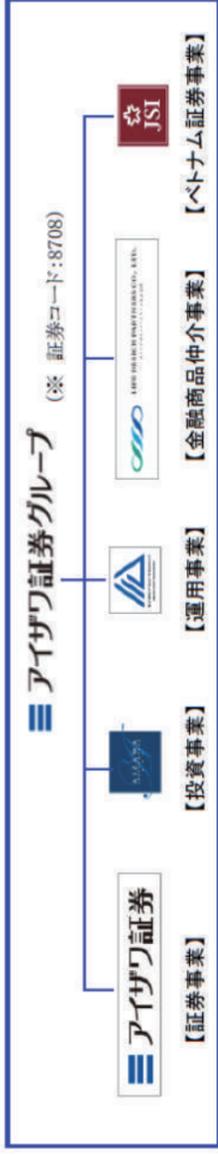
この度、交流会に初参加のシニア世代や親子も増え、3年間同じテーマを根底に実施しているので、行政や子育てに関わる活動者に対しても、「淡路市型の子育て」についてみんなで話し合い新たな仕組み作りに一役かっもらえるようなネットワークを広げることが出来つつあると思う。その理由として、淡路市子育て応援課や淡路市社会福祉協議会の担当者、子育て一段落の世代のママ活動者を巻き込むことができた。また交流会での参加者からの声を、「おむすび交流の場」に掲示する事により、参加しなかった子育て世代にも、この思いを共有する事ができ、子育て世代が子育てをしていく中で、普段感じているジレンマやストレスを自分だけではなく、色々な世代が一緒になって考えてくれるんだと認識してもらっている。また子育てにおいて地域の力を底上げする為に、別事業で弊団体が、「放課後見守りや子ども食堂」また、「ワンコインでの一時預かり保育事業」を実施し始めているが、3年間一貫したテーマでこの事業を実施したことによる成果の現れだと感じている。また市内にも1カ所企業内保育を実施する施設がオープンするなど、3年前と比べて、少しずつ子育てを取り巻く環境も良い方向へと変わってきているので、さらにネットワークを強化し、他事業者との情報共有等に努めて、子育ての支援を充実させていきたいと思っている。

アイザワ証券 芦屋支店のご紹介

会社概要

■ 概要 (注)店舗/従業員はグループ合算

商号	アイザワ証券株式会社
代表取締役社長	藍澤 卓弥
本店	東京都港区東新橋1-9-1 東京汐留ビルディング
創業日	創業104年 1918(大正7)年7月7日
資本金	30億円
国内店舗数	48店舗
従業員数	841名 (2022年3月末日現在)
預り資産	14,289億円 (2022年3月末日現在)
上場証券取引所	東京証券取引所/プライム市場 (※グループ)
経営理念	より多くの人に証券投資を通じより豊かな生活を提供する
目指すビジョン	Hope Courier(希望の宅配人)となる 「豊かな生活=将来への希望」を具体的な形とし、お客様に希望を届ける
ミッション	資産形成を通じて、中間層(資産形成層)の方々を生活の不安から解放し、希望にあふれるこの国の未来を彼らが創造するための後押しをする



アイザワ証券の取り組み

当支店は地域密着型の対面証券として、
①教育機関②金融機関③市民団体
 と提携を組み、証券会社の垣根を超えた活動を行っております。

その功績を認められ、証券会社初の
大臣表彰をいただくことができました。



芦屋支店 × 地域社会

地域密着の証券会社を目指して...

アイザワ証券 ×

当社は芦屋市と**地域連携協定**を結んでいます。

協定締結の様子



左から吉谷藍澤証券株式会社支店長・山中市町 ※芦屋市HPより引用

活動の概要

①教育機関との連携

西宮市、芦屋市、神戸市との連携
 公立中学校での金融教育授業実施、職業体験として生徒受け入れ
 証券会社として唯一メルカリ教室の開催
 金融リテラシー向上、高齢者支援の活動

②金融機関との連携

第一生命保険株式会社芦屋営業オフィスとの連携
 より多くのお客様のニーズに応えるためそれぞれの得意分野に関するセミナーを定期的に実施

③市民団体との連携

芦屋市の市民団体ポイエシスとの連携
 公園や自治体の集会所等でのマルシェ参加、芦屋オーブンガーデンへの参加
 地域活性化のための活動

活動写真

・芦屋市の学校での金融授業実施(教育機関連携)



活動のきっかけ

1. 当社の問題認識

政府の「貯蓄から資産形成(投資)へ」が進めらるる事由

- ①: 「お客様の抱える課題・悩みの解決」
⇒ お客様から必要とされる証券会社へ
- ②: 「地域から必要とされる証券会社」へ
⇒ 証券会社のレピュテーション向上
- ③: 「金融・証券リテラシーの向上」
⇒ 証券会社としての使命

- ・低経済成長
- ・低金利
- ・年金問題
- ・認知症問題 etc.



2. 当社の処方箋

- (1) 垣根を超えて地域金融機関や教育機関との提携/連携を軸(レピュテーション高)に、
- (2) 先方が提供出来ない、業務範囲や県境、交流範囲を超えたサービス
「クロスボーダーソリューション」(特許庁商標登録第5978805号)をご提供し、
提携/連携先との相互補完を実現しながらお客様、地域社会に貢献していく

「クロスボーダーソリューション」(ロゴ付)を商標登録(特許庁)
(特許庁商標登録第5978805号)



・メルカリ教室も証券会社で唯一開催中(月二回程度)

・第一生命芦屋営業オフィスにてセミナー実施(金融機関連携)



・NISA、iDeCoについて説明

・ポイエシス主催のマルシェへの参加(市民団体連携)



・いとうまい芦屋市長にもお金のクイズにご参加いただきました

これらの活動の根底には、

「余裕ができれば、地域創生支援を行うというのはしっくりこない。
地域創生への取り組みは営業させて載っていることへのいわば
配当だ。配当できない利益水準であるならその営業自体に価値
がない、というふうに考えている。」

という前社長の言葉があります。



活動の成果

- ・当初は芦屋市内の中学校のみの金融教育活動であったが、回数を重ねていくことで西宮市の中学校からも依頼を受け、2022年は**計6校**から中学生を受け入れることに。神戸市の中学校からも声をかけていただいており、今年から神戸市の中学生も受け入れ予定。
- ・当社の知名度はまだまだ低い。しかしポイエシスマルシェや芦屋オープンガーデン、メルカリ教室の実施等により、以前よりも確実に**知名度は向上**。
- ・芦屋市長にも当社の取り組みについて認知、激励いただき、市を巻き込んだ活動になりつつある。
- ・第一生命芦屋営業オフィスとの連携で、保険と証券についての知識共有、より多くのお客様のニーズに応えることが可能に。

ウィルのCSR



私たちは、介助犬を応援しています。



デモンストレーションを行うPR犬(2022年)



入社式・契約募金贈呈式にて、介助犬と新入社員と関係者(2022年)



介助犬使用者の会会長の挨拶(2022年)



寄付金を贈呈(2022年)

ご契約募金 ※2010年に開始

当社でお住まいを購入していただくことで、介助犬の育成・普及支援のための寄付ができる仕組みです。一年分の寄付金を、当社の入社式と同時に行う契約募金贈呈式にて、介助犬協会等に贈呈すると共に、介助犬の仕事のデモンストレーションを行い、全社員の介助犬に対する理解促進を図っています。社会貢献は一部署の担当というのではなく、全社員が自社のCSR活動を語り伝えることを大切にしています。



介助犬支援自動販売機設置



全拠点に募金箱を設置



チャリティフリーマーケット開催(写真は、2019年開催時の様子)

当社は、2003年に介助犬の育成・普及の支援を始めました。以来、営業拠点に補助犬入店許可ステッカーを貼付、募金箱設置、チャリティフリーマーケットの開催、シンポジウムへの協賛やマス媒体への掲載などを行って参りました。2010年からは、**不動産のご契約一件につき1,000円または10,000円を寄付する「契約募金」**を開始。積み上げた寄付金は、毎年、4月に介助犬協会などに贈呈しています。

2021年(2021年1月~12月契約分)のご契約募金総額は、お陰様で1,613,000円となりました。今後も、「ささやかを続けよう!」を合言葉に、介助犬支援に限らず、私たちにできることを続けていこうと考えています。



介助犬は、手や足に障がいのある方の日常生活の手助けをするために特別な訓練を積んだ犬です。

Daigasグループの 社会貢献活動

2015年9月、国連サミットで採択された「持続可能な開発目標 (SDGs)」に対して、企業の積極的な取り組みが求められています。Daigasグループでは、1981年(国際障害者年)に、「“小さな灯”運動」がグループ従業員の企業ボランティア活動としてスタートし、現在も従業員一人ひとりは、「良き企業市民」としての一層の自覚と行動が求められていると考えて活動しています。今後も、“小さな灯”運動をはじめ、活力あるまちづくりやNPO・団体との協働など、社会とのコミュニケーションを通じて、持続可能な地域社会の発展を目指すとともに、社会価値の創造に努めていきます。

地域の皆さまと共に“よりよい未来”を目指して

Daigasグループは、従業員による“小さな灯”運動を起点として、「地域社会と共に」「歴史・文化・まち」「スポーツ・健康」「安心・安全」「食」の5つの分野を中心に、地域の価値創造(地域共創)活動に取り組んでいます。



Daigasグループ 企業行動憲章 社会とのコミュニケーションと社会貢献

Daigasグループは、自らの企業活動を世の中に正しく理解していただくため、情報を積極的に公開し、経営の透明性を高めます。そして、幅広いステークホルダーとの建設的な対話を通じ共創を推進します。また、良き企業市民として、地域社会に貢献するよう努めます。



Daigasグループの社会貢献活動を通じたSDGsへの貢献



「持続可能な開発目標 (SDGs)」には17の目標が掲げられており、そのうち「7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「11. 住み続けられるまちづくりを」「17. パートナリーシップで目標を達成しよう」は、憲章Ⅲに関連するゴールです。今後もSDGsの達成に向けてグループを挙げて取り組んでいきます。

持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals (SDGs)とは

持続可能な開発目標 (SDGs)は、2015年9月に国連本部で開かれた国連持続可能な開発サミットにおいて採択された「私たちの世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」で掲げられた目標です。ミレニアム開発目標 (MDGs)に続く目標として、途上国だけでなく先進国も念頭におかれた17の目標と169のターゲットで構成されています。



活動目的

心のつながいを忘れない

- ・現地で子どもたちや復興に携わっている方々との継続した交流を通して、つながりを深める。
- ・手作りのおもちゃやカードの制作を継続し、“忘れない”という思いを伝える。

活動成果

復興への歩みと現状

- ・継続した交流が現地の方々の心の支えになっていることを感じられた。
- ・未だに支援が行き届いていない面があることや復興へ向けた新たな課題が明らかになった。

■事前学習

- ・手作りプレゼント作成
- ・「南海トラフで津波から生き延びる方法『津波避難の三大原則』～釜石の奇跡から学ぶ～」視聴
- ・「釜石の“奇跡”～いのちを守る特別授業～」視聴

■事後学習

- ・お礼状作成
- ・メッセージカード作成
- ・報告書作成
- ・部内での報告会
- ・来年度への引継ぎ

訪問施設

幼稚園・保育園

- ・泉第2チェリーこども園
- ・ろりぼっぴ保育園

児童館・他

- ・東四郎丸児童館
- ・那智が丘児童センター
- ・榴岡児童館
- ・新田児童館
- ・海岸公園冒険広場

子育て支援センター

- ・のびすく仙台
- ・のびすく若林

第1回 オンライン交流会
2021年8月23日(月)

毎年、8月と3月に東北に出向き、ボランティア活動を続けて来ました。

しかしながら、コロナの影響で2020年度から現地に出向いてのボランティア活動がストップしたままになっていました。

そこで、オンラインによる交流会を実施することになりました。

第1回は、東北ボランティア活動開始当初から交流のある仙台の冒険あそび場の高橋さん、根本さん、岩渕さんと、ユネスコクラブの学生10名、大学の教職員3名で交流会を行いました。

- 自然には勝てない！！
- 遊びから、防災につながっている。
- 「ひろがる桜プロジェクト」がコミュニティ広場に。
- 厄介なのは、情報の信ぴょう性…。どの情報が正しいのかわからない。
- ボランティア活動は、自分がしたいことをやる。強制されてやるものではない。
- 私たちは、子どもに関係することをしたい。それが、高齢者にも通じることを知った…。



第2回 オンライン交流会
2021年12月19日(日)

今回は、ユネスコクラブと特定非営利活動法人 ファミリーサポートネットワーク理事の 三浦 三恵子 様、特定非営利活動法人 にじいろクレヨン代表の 柴田 滋紀 様とユネスコクラブの学生21名による交流会を行いました。

震災を経験して、人とのつながりの大切さや被災者の言動を受け入れることなど熱心な意見交換が行われました。

話し合いを通じて、自分自身の防災意識の高まり、将来子どもたちへの適切な防災教育につなげられるようにして行きたいと考えています。

今後も、定期的に継続して学びを深めて行く予定です。



コープこうべの各地区でひろがるホットな地域との連携事例を定期的にお伝えしていきます♪

大阪北地区本部・コープ茨木白川・協同購入センター高槻

地域と協働した「つどい場づくり」にチャレンジ ～地域の方のリアルな声を聴くことからスタート～

コープこうべの事業所を活用した「つどい場づくり」の取り組みがすすんでいます。

コープ茨木白川では、店内のスペースを「つどい場」として活用すること、協同購入センター高槻では、組合員集會室を地域に開かれた活動の場とすることにチャレンジ。隣接する両事業所が連携して取り組みをすすめています。

10月、地域課題を「知る」ことを目的に、「地域をつなGO! ～ハロウィンイベント～」を開催。コープこうべの「地域つながるミーティング(※1)」で、多様な地域団体・活動者と話し合い、イベントを企画しました。イベント当日は、協働団体による、「血管年齢測定」や「地域の相談窓口」などのブースに加え、来場者に対してのアンケート「皆さまがお住いの地域の課題を教えてください」を実施。計124件の意見が寄せられ、「独居高齢者の増加」や「つながりの希薄化」など様々な地域課題が見えてきました。

今後は、各地域課題共通のキーワードである「健康」に着目した取り組みの推進や、対象者を明確にした小規模イベントの定期開催を計画し、協働団体とともに地域を盛り上げていきます。

【協働団体一覧(順不同)】

- いきいきネット相談支援センターエルダー
- 社会福祉法人茨木市社会福祉協議会
- 明治安田生命保険相互会社
- 茨木市東保健福祉センター
- 東・白川 地域包括支援センター
- 高槻市三箇牧地域包括支援センター
- 白川民生委員
- 新堂民生委員
- 白寿会
- 茨木白川コープ委員会



言葉は「地域をつなGO!」♪



「お住まいの地域の課題を教えてください」

第7地区本部・コープ奈良豊岡

「つどい場」での活動を再開 ～コロナ禍での活動制限を糧に～

コープ奈良豊岡では、コロナ禍でやむなく閉鎖していた「つどい場」での活動を再開し、店内に誰もが立ち寄りやすい居場所をつくりを行っています。つどい場再開は、「子どもを遊ばせる場所に困っている」、「キッズスペースの再開を待っている」という組合員の声がかっけでした。地域の子育て家族をサポートしたい思いから、キッズスペースを再開。福祉作業所をはじめ地域の協力による絵本の本棚設置や、但馬薬剤師会による子ども向けの調剤体験イベントの開催など、地域の方々と一緒に「つどい場」を盛り上げています。まずは「誰もがらっと立ち寄れて一息つける場」、「個人や団体の自己実現の場」として、つながりを強化しながら、つどい場関係者の輪を広げていきます。



子ども向け調剤体験イベントの様子♪



地域の協力のもと絵本の本棚を作りました♪

第7地区本部・コープ上郡

イザ!カエルキャラバン in コープ上郡 ～防災活動をきっかけとした、つながりづくり～



イベント当日の参加人数
■来場者 : 約400人
■運営スタッフ : 約120人 計 約520人



「毛布で架梁タイムトライアル」のようす♪



大賑わいの「かえっこコープジョン」♪

11月27日、コープ上郡で体験型防災イベント「イザ!カエルキャラバン(※2)in コープ上郡」が開催されました。多くの親子連れが、プログラムに参加し、楽しみながら防災を学んでいました。集めたポイントでおもちゃを獲得する「かえっこコープジョン」では、子どもたちの元気な声が会場に響き渡っていました。運営には、平和・防災企画委員会を含む15の地域諸団体が携わり、上郡地域の団結力が一層深まりました。

第7地区本部では、今回のイベントで出来たつながりを活かし、上郡地域の困り事解決に向けた話し合いの場を設定。地域の助け合いの仕組みづくりを視野に、活動を広げていきます。

第6地区本部・コープ大蔵谷

地域つながるミーティング発「高齢者向けスマホ教室」を計画 ～デジタルをきっかけとした、つながりづくり～

第6地区本部では、「地域つながるミーティング(※1)」発の地域協働の取り組みが生まれてきています。参加者の意見を具体化するために、発表内容を可視化するなど、ミーティングの進行方法にも工夫を行っています。(下記表参照)

コープ大蔵谷では、「幸せな高齢者ライフ」を送るための「つながりづくり」を目的に、「高齢者向けスマホ教室」の開催を計画しています。地域つながるミーティングに参画する協働団体のネットワークから、地元の見守り専門学生の参画も決定。「つながり」から「つながり」が生まれています。スマホ教室以外にも、学生による「健康相談」や「好きなコープ商品を語り合う」場を設定するなど、参加者同士の交流が深まるきっかけとなることを目指します。

【ミーティング進行の工夫(例)】



みんなが意見を話し合っています♪

※1 「地域つながるミーティング」

コープこうべが主催する地域ミーティングのこと。同じ地域で活動する地域の団体・個人などが集まり、地域の課題や多様なテーマに沿って協働に向けた話し合いを行う。

※2 「イザ!カエルキャラバン!」

おもちゃの物々交換(かえっこ)と、楽しくアレンジした防災プログラムを組み合わせた防災イベント。

第一生命の地域貢献活動

ホームページより抜粋

一生涯のパートナー
第一生命
 Dai-ichi Life Group

For Women

安心して働けるために

For Seniors

もしものときのために

For Health

健やかな暮らしのために

For the Earth

地球環境のために

全国4万5千名の生涯設計デザイナーを
 通じて、**地域の課題解決**に
 取り組んでいます。



MESSAGE



第一生命保険株式会社
 代表取締役社長

二精坦坦

地域の皆さまと共に持続可能な社会の実現を目指します。

第一生命は、1902年の創業以来、社会保険制度の一翼を担う生命保険会社として、その時代に応じた社会課題の解決に努めてまいりました。

人生100年時代を迎え、一人ひとりの価値観が多様化する今、地域に根差す企業として、これまで提供してきた万一の「保障」を磨き続けるだけでなく、「資産形成・承継」、「健康・医療」、さらには人と人、人と地域や社会との新しい「つながり・絆」を通じて、お客さまのQOL (Quality of Life) の向上*や地域の課題解決に貢献してまいります。

日々、全国4万5千名の生涯設計デザイナーがお客さまにお会いし、確かな安心と充実した健康サポートをお届けしているように、地域の皆さまとのつながりが、第一生命の強みです。こうした強みを活かして、地域の皆さま、お客さまに、真っ直ぐに向き合い、持続可能な社会の実現を目指していきたいと考えています。

*QOLの向上とは、その人の望む人生や、こう生きたいという生活・生き方を実現することを指す。

保障 保険普及等による生活の安定

資産形成・承継 人生100年時代の安心な老後

健康・医療 あらゆる人々の健康の増進

つながり・絆 安心安全で住みやすい地域づくり



第一生命は
 全国に広がるネットワークを活用し
地域の課題解決に
 取り組んでいます。

47都道府県にとどまらず、
 全国の市区町村も含めた
自治体との連携を広げています。



地域のネットワークと連携して課題解決へ！

第一生命

- 全国各地に広がるネットワーク
 生涯設計デザイナー 約**4万5千名**
 支社・営業オフィス 約**1,350**拠点
 (2022年1月時点)
- 丁寧なお客さまフォローによる安心

連携

地域のネットワーク

- 地域密着の強み
 - 自治体 (都道府県・市区町村等)
 - 警察
- 情報やノウハウの共有
 - 専門医療機関
 - パートナー企業

今までも、これからも、 地域のみなさまの健康づくりを応援しています。

第一生命の健康増進に関する歩み

- 1902年 第一生命保険相互会社創業
- 1913年 創業者の矢野恒太、北里柴三郎を助けるべく日本結核予防協会理事就任
- 1935年 結核の予防・治療を目的として財団法人「保生会」設立
- 1939年 長期療養所「保生館」(後の保生園、現・新山手病院)開園
第1回保健文化賞贈呈式
- 1950年 保健衛生の向上を目的として「保健文化賞」創設
- 1959年 財団法人「循環血管研究所」設立
- 1988年 健康・医療をはじめ人生設計について調査する「兼ライフデザイン研究所」(現・兼第一生命経済研究所)設立
- 1998年 医療・介護分野の調査・研究を目的として「兼第一生命ウェルライフサポート」(現・兼第一生命経済研究所)設立
- 2000年 健康・医療・介護等のサービスを充実する目的で契約者向けポイントサービス「ドリムキングダム」開始
- 2008年 契約者ポイントサービス「ウィズパートナー」を開始
全契約者に健康・介護等のサービスを展開
- 2012年 国立がん研究センターと連携開始(がん情報)
- 健康・医療・介護等の電話相談を契約者などから受け付ける「メディカルサポートサービス」開始
- 2013年 公益財団法人がん研究会と連携開始(がん情報)
- 2014年 国立循環器病研究センターと連携開始(循環器病情報)
- 2015年 国立長寿医療研究センターと連携開始(認知症その他の長寿医療情報)
- 市民マラソンへの協賛を柱とした「Run with You」プロジェクト開始
- 2016年 国立成育医療研究センターと連携開始(成育医療(小児・周産期)情報)
- 2017年 健康づくりをサポートする健康応援アプリ「健康第一」を公開
- 国立国際医療研究センターと連携開始(感染症および糖尿病・肝炎などの疾患情報)
- 2018年 国立精神・神経医療研究センターと連携開始(精神・神経・筋疾患などの疾患情報)

1 1935年当時の課題

【結核対策】

- 1935年の死因
- 1位 結核
- 2位 肺炎・気管炎
- 3位 胃腸炎

第一生命創業者の矢野恒太が「保生会」を設立

2 1959年当時の課題

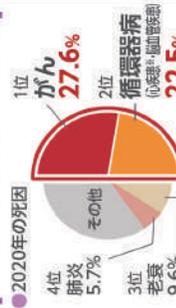
【循環器病対策】

- 1959年の死因
- 1位 脳血管疾患
- 2位 がん
- 3位 心疾患

専門研究・医療機関として「心臓血管研究所」を設立

3 現在の課題

【死因上位疾患への対策】



【認知症対策】



国内最高峰の専門医療機関と連携

1935年・1959年の死因：厚生労働省「我が国の人口動態」(2017)
2020年の死因：厚生労働省「人口動態統計」(2020)
認知症の高齢者：厚生労働省「認知症施策推進ロードマップ」(平成29年7月5日)

健康増進 For Health

地域に根ざした健康増進活動に取り組む

すべてのナショナルセンターと連携し、正しい情報の提供や予防啓発に取り組んでいます。

国立循環器病研究センター

リーフレットやポスター、メールの料理カードを通じて、循環器病の予防・啓発情報をお届けしています。

国立がん研究センター

リーフレットの発行やセミナーの開催などを通じて、がんの正しい知識をお伝えしています。

国立精神・神経医療研究センター

精神・神経・筋疾患などに関する正確かつ最新の健康・医療情報をお届けしています。

国立国際医療研究センター

感染症や糖尿病、肝炎などに関する正確かつ最新の健康・医療情報をお届けしています。

一生運のパートナー

第一生命

Dai-ichi Life Group

国立長寿医療研究センター

認知症予防やその他の長寿医療に関する知識について情報提供を行っています。

国立成育医療研究センター

成育医療に関する基礎知識や予防・治療について幅広く情報提供し、健全な次世代の育成をサポートします。

健康応援アプリ「健康第一」を提供し、一人ひとりの健康づくりをサポートします。

健康診断結果で **今の健康状態** と **将来のリスク** がその場でわかる!

あなたの健康年齢が1と健康タイプは?

健康診断結果をスマホで読み取るだけ! さらに改善のためのアドバイスも。

同年齢・性別と比較したあなたの疾病リスク^{※1}は?

健康状態や生活習慣からカンタンチェック

がん 脳卒中 糖尿病 心臓病 肺病

※1 「健康年齢」は(株)JMDCの登録商標です。
※2 各疾病のチェック対象年齢
がん: 45~74歳
脳卒中: 脳梗塞: 40~69歳
糖尿病: 30~83歳

社会貢献活動に関する包括連携を結び、地域社会の活性化および発展に取り組んでいます。

主な取組内容

- 子どもの育成および子育て支援
- 健康増進
- スポーツ振興
- 地域社会の活性化

2017年9月 株式会社LDH JAPAN 株式会社LDH JAPAN 株式会社LDH JAPAN
LDH JAPAN 株式会社LDH JAPAN 株式会社LDH JAPAN
LDH JAPAN 株式会社LDH JAPAN 株式会社LDH JAPAN

2018年2月 公益社団法人日本プロゴルフ協会
公益社団法人日本プロゴルフ協会 公益社団法人日本プロゴルフ協会
公益社団法人日本プロゴルフ協会 公益社団法人日本プロゴルフ協会

環境取組 For the Earth

地域に根ざした環境取組

地球環境保護への取組みの一環として、各地での清掃活動をはじめ、食品ロス削減に向けたフードドライブ活動、資源の再利用に向けた古着リサイクル活動等に取り組んでいます。

機関投資家としての環境取組

秋田県の再生可能エネルギー導入の拡大と産業振興が期待できる洋上風力発電事業向けのプロジェクトファイナンス等に投資しています。

当社の責任投資活動の詳細は右記の2次元コードからご覧ください。

女性の活躍推進
For Women

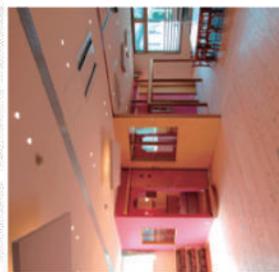
地域の女性の活躍推進を応援する

- 働きやすい職場づくり



▲女性活躍推進セミナー(北海道)
地域企業の経営者や人事担当者をお招きし、「女性の活躍推進」や「ワーク・ライフ・バランス」をテーマにしたセミナーを開催しています。

- 保有不動産への保育所・学童保育誘致



▲新橋第一生命ビル(ちゅうぞう保育園がまくら)
社会課題となっている待機児童対策の一環として、自社保有不動産に保育所や学童保育を誘致するなど、子育てしやすい社会の実現に貢献しています。

高齢者支援
For Seniors

地域に密着した活動を通じて高齢者をやさしく見守りたい

- 高齢者見守り活動



▲認知症サポーター養成講座(長崎県)
認知症を正しく理解してもらい、認知症の方や家族を温かく見守る認知症サポーターの養成をはじめ、高齢者が安心して暮らせる見守り活動を実施しています。

- コグニサイズ



▲認知症予防体操「コグニサイズ」
国立長寿医療研究センターが開発した「頭」と「身体」を同時に使うことで脳とからだの機能を効果的に向上させる運動プログラム(コグニサイズ)、音楽付き認知症予防体操「コグニサイズ」のDVD提供等を通じて認知症予防啓発を行っています。

地域活性化
For Society

ニーズをとらえ地域の強みを引き出す

- 経営者向けのセミナー



▲経済セミナー(三重県)
第一生命経済研究所のエコノミストをはじめ、さまざまな分野の専門家によるセミナーを開催し、ビジネスや経営に役立つ情報をお届けしています。

- 地元サラ川



▲ジモサラ(地元サラ川)
長年「サラリーマン川柳コンクール」を開催してきたノウハウを活かし、地域課題への関心や共感をいただくことで、自治体の課題解決に向けたお手伝いをしています。

子ども教育
For Kids

未来への一歩を心強くサポート

- 黄色いワッペン贈呈事業



毎年、全国の小学校の入学一年生に交通事故被害保険付きの「黄色いワッペン」を贈呈しています。

- 金融保険・消費者教育



ライフイベントや消費者被害事例等について、さまざまな形式で楽しみながら学習でき、お金の大切さや将来に備えることの重要性を体感いただける「ライフイベントゲーム」を全国の学校へ提供し、当社社員による出張授業も行っています。

安全・防災
For Safety

いざというときの安心のために

- 犯罪・災害に関する注意呼びかけ活動



▲家内・近所防犯・防犯や防災、交通安全に関する注意呼びかけ、不審な点を発見した際の連絡などの活動を行っています。

- こども110番の家



▲こども110番の家(大阪府)
いざというときに子どもたちが避難できるように、地域の営業拠点をこども110番の家にする取組みが広がっています。

スポーツ振興
For Sports

健康サポート活動として

- Run with You



市民マランソン大会への協賛やランニング教室の開催など、ランナーの皆さまを応援するプロジェクト「Run with You」を全国で展開しています。

- 第一生命全国小学生テニス選手権大会



「世界に通用する選手育成のためにはジュニアからの強化が重要である」という公財(財)日本テニス協会の趣旨に賛同し、1983年の第1回大会より特別協賛するとともに、当社所有のコート(東京・仙川)を大会会場として提供している(公財)日本テニス協会の趣旨に賛同し、1983年の第1回大会より特別協賛するとともに、当社所有のコート(東京・仙川)を大会会場として提供しています。これまでに、錦織圭選手、奈良くるみ選手ら、国際的に活躍する選手を多数輩出しています。

第一生命の社会貢献活動の歴史

結核対策のために「保生会」設立

明治末期の日本国内では結核が猛威を振っていた。医者であり第一生命創業者でもある矢野恒太は結核亡国を憂い、北里柴三郎博士を助けながら、その予防と撲滅を説いて歩きました。1913年には日本結核予防協会を設立、北里柴三郎が理事長、矢野恒太が理事に就任しました。また、小冊子「通俗・結核予防の心得」(矢野恒太著・北里柴三郎編)を作って無料配布したり、講演や執筆にも奔走します。

1935年、生命を保つという意味から財団法人「保生会」を設立、この取り組みが第一生命の社会貢献活動の先駆けともなりました。1939年には長期療養所である「保生館(後の保生園)」を東京の東村山に開設するとともに、全施設を結核予防会に寄付しました。

なお「保生館(保生園)」は、現在「新山手病院」となっており、その裏山が「八国山」といわれることから「八国山病院」の愛称でも知られています。

●保生会



やの つねた
矢野 恒太

保生会社に専断のち農商務省に勤務し、保険業法を起草する。また同省工務保険課の初代課長に就任。1902年わが国最初の相互会社第一生命を創立。以後専務取締役、社長、会長を歴任した。また「日本国防図会」を刊行し、統計知識を国民に普及することに尽力した。



きたさと しほぶろう
北里 柴三郎

医学博士で伝染病研究所(現在の東京大学医学部研究所)の初代所長。第1回ノーベル医学・生理学賞の候補者にも挙げられ、立北里研究所(現在の学校法人北里研究所)創立者兼初代所長並びに北里大学学祖となる。日本医師会設立者兼初代会長。

写真提供: 学校法人北里研究所

●保生館



●保生園



●新山手病院



写真提供: 公益財団法人結核予防会

保健衛生向上のために「保健文化賞」創設

保健文化賞は、戦後の衛生環境が悪化していた中、わが国の保健衛生の向上に取り組む団体・個人に感謝と敬意を捧げる賞として1950年に創設されました。厚生労働省などの後援を得て毎年実施しており、最も長い歴史を持つ第一生命主催の社会貢献事業です。受賞者は天皇・皇后陛下下の拜謁をお受けいただいています。

●第71回保健文化賞贈呈式



環境の保全

第一生命の 社会貢献 活動



「都市の緑を彩る」緑の環境プラン大賞、緑の都市賞、屋上・壁面緑化技術コンクール)への支援を通じ、都市環境の保全や再生、地域コミュニティの形成、生活の質の向上」に資する緑化の取組みに貢献しています。

×セナ(文化芸術の振興)文化や芸術を支える活動に取り組んでいます

●認定NPO法人 トリトピア・ネットワーク



●VOCA(ヴォーカ)展・第一生命ギャラリー



●モーツァルトイベント開催



第一生命ホール(晴海)を拠点に公演事業と学校や福祉施設などに音楽をお届けするアウトリーチ活動を行っています。

モーツァルトの住家修復支援以降、友好関係を築いた国際モーツァルト財団とのコラボレーション・コンサートを行っています。

社員による地域・社会貢献活動

●全国各地の社員によるボランティア活動



●社内AED講習



左より、災害ボランティア活動、清掃活動、チャリティウォークへの参加

定期的に開催し、救命措置の大切さを伝えていきます。

お届けたのは...

引受保険会社

第一生命保険株式会社

〒100-8411 東京都千代田区有楽町1-13-1

電話 (03) 3216-1211 (大代表)

ご加入の生命保険に関するお手続き・お問い合わせ
第一生命コンタクトセンター ☎0120-157-157
受付時間 月～金 9:00～18:00 土・日9:00～17:00 (祝日・年末年始を除く)

ホームページ <https://www.dai-ichi-life.co.jp/>

●周りの誰かに喜ばれる人生は輝いている

●そのための役割を持つ余白がない社会

●私たちの取り組みは

多世代で“喜ばれたい”と“喜ぶ”をつなぐご近所基盤
「ためまっぷ」でのウェルビーイング追求です

※「ためまっぷ」の由来は、あなたのため、わたしのため、地域のための「間(ま)」の地図(マップ)です。

国連でも日本で唯一認められた、まちづくりツールを
全国各地に構築実装する仲間になりませんか？

10年前、代表自身の子育て期の地域内での孤立の原体験をきっかけに、神戸市民や職員、芦屋NPOC、コブ関係者や全国の官民協働で、多世代で人と人がつながる社会になるためのサービスをつくりつづけ、昨年欧米の幸福度トップクラスの国々から世界先端の評価を得られるようになりました。

HPやSNS、LINEで得られなかったこども食堂への新規参加があり、育児世代の母親や児童委員さんからのお礼、シニアのつながりも復活したという声をいただくようになり、総利用者数は64万人、25地域団体を越えました。

地域活動は、時間と元気があれば声かけだけなど、誰でもできます。そして質が担保された活動は地域の中に必ずありますが、その情報が埋もれてしまうのは、知りたい人、参加したい人のことが考えられていないからです。

このサービスは、地域で活動する人が自身で地図上にリアルタイムな情報を簡単に投稿できます。それを行政施策で安全に実施し、簡単に見つけやすくすることで1次情報化され、参加する人の信頼と自分ごとになります。

人がつながるための役割の余白、助け合える安心と、喜びとともに暮らしていくための情報インフラの構築は、今まさにアウトリーチしない社会や、災害や国際紛争など様々な不安を抱える社会に必要とされていると考えています。

- ① 検索できない現在地周辺の情報がすぐ手に入る
- ② 今からでも参加できる安心安全なイベント情報が得られる
- ③ シンプルな操作で多世代が利用中



廿日市市阿品台コミュニティ説明会



人吉市 職員説明会



芦屋NPOセンター 社協市職員説明会



東京都町会連合会会長 説明会
中野区 職員説明会



神戸市中央区 みそらこども食堂



UNOPS、兵庫県、神戸市共催
SDGs Challenge



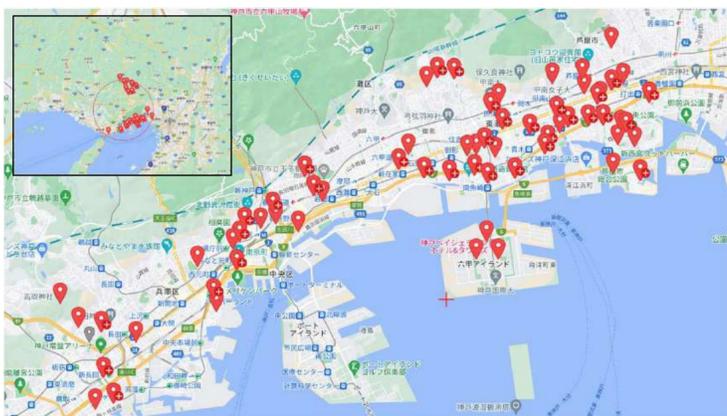
三田市長 事業開始の記者会見



国連機関本部招待訪問、北欧5カ国の市民活動とウェルビーイングの視察調査



住之江区 地域活動協議会 説明会



2023年2月の神戸市、芦屋市周辺のリアルタイムな活動の様子
土地に馴染みがなくてもウェルカムな活動を知り、参加し、つながって地域の人になる



地方公共団体や市民団体が導入管理
市民の投稿・閲覧は全て無料



※全国インフラ化に向け、特許を取得済み



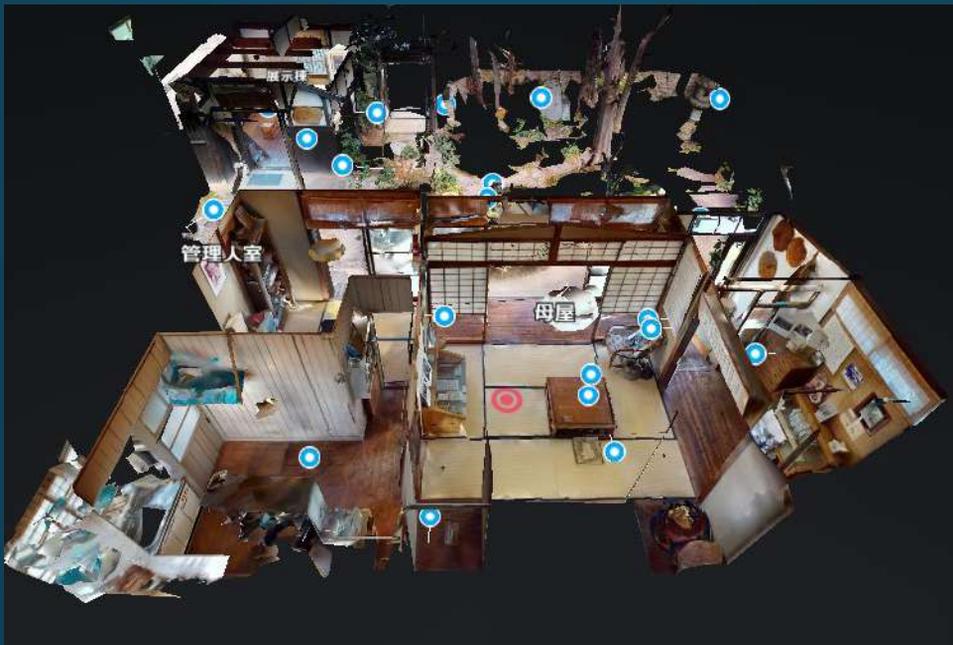
ためまっぷ全国版



みんなのまちの掲示板
ためまっぷ

ご意見・お問い合わせ先
会社名 ためま株式会社
メール cs@tamemap.net
電話番号 080-7019-9688 (清水)
所在地 神戸市中央区浪花町56 KIP内





芦屋市教育委員会生涯学習課 x 芦屋市立あしや市民活動センター x 尼崎信用金庫
x 有限会社花田設計事務所 x 甲南高等学校 x 県立芦屋高等学校 x クラーク記念国際高等学校

「富田碎花旧居3D映像」【活動のきっかけと概要】

コロナ禍で小学生が自宅でオンライン学習ができるようにタブレットが配布されましたが欧米に比べ日本はオンライン学習ができる教材が少ないと感じていました。

もっとオンライン学習コンテンツを増やすべきだと。

そこで建築物のデジタル化技術を使ってコンテンツを制作する話を

尼崎信用金庫様にしたところ、高校生と共同で制作し、小学生に使い方を教えてはどうかと提案があり芦屋市教育委員会生涯学習課と芦屋市立あしや市民活動センターとも連携して頂き高校生を集めて頂きました。

高校生の皆さんには、現地ロケハン・撮影協力・コンテンツ編集・

キッズスクエア向けクイズ制作・キッズスクエアでのタブレット操作補助・

一般公開向けコンテンツの解説動画作成をして頂きとても良い取組みとなりました。



富田碎花旧居でのロケハン
管理人さんに説明を受ける高校生



芦屋市立宮川小学校
キッズスクエアにて
小学生にタブレットでの
使い方を教える高校生

減災復興の仲間と出会う

個性に合わせて



OPEN CAMPUS 2023入試

7/31日

13:00-16:00
受付開始 12:30

気軽に來てね



プログラム概要 ※予定

- 1 | 実践的な学びを語り尽くす
院生プレゼン
- 2 | 余すことなくお伝えします
入試ガイダンス
- 3 | 教員や院生に直接アタック
個別相談会

減災復興への
取り組みを
全力で!



どんな質問も
答えてみせる

本日程は、2022 年度実施分を記載し
終了しています。
2023 年度実施分は、HP で公開予定です。

学びがここから



入試日程

	博士前期課程	博士後期課程
A日程 一般・社会人	B日程 社会人	
2022年	2023年	2022年
9/11日	2/26日	9/11日



兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科

会場 兵庫県立大学 神戸防災キャンパス 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 人と防災未来センター東館4階(大教室)

お問合せ Tel: 078-891-7376 Fax: 078-271-7202 Mail: gensai@ofc.u-hyogo.ac.jp

*新型コロナウイルスの感染状況等により、オンライン開催のみやオンライン併用で実施する場合があります。その場合はHPで告知しますので、QRコードからご確認ください。対面開催の予定です。やむを得ない事情でオンライン参加を希望される場合はお問合せください。

*特定の教員への相談を希望する場合は事前にお問合せください。



あすに備え あすを創る

減災と復興

誰一人とり残さない社会へ

本日程は、2022年度実施分を記載し、終了しています。

2023年度実施分は、HPで公開予定です。

減災復興の
仲間と出会う!

	博士前期課程	博士後期課程
募集人数	12名(推薦 ^{※1} 、AB日程の合計)	2名
入試日程	A日程 ^{※2} 一般・社会人 2022年9月11日(日) B日程 社会人 2023年2月26日(日)	2022年9月11日(日)
試験内容 ^{※3}	小論文、面接審査、口頭試問	面接審査、口頭試問

※1 推薦入試は6月13日に出版を締め切っています。※2 社会人は、自治体・企業等で2年以上の実務経験がある方が対象です。※3 詳細は募集要項を参照してください。

オープンキャンパス 2022年7月31日(日) 13:00-16:00



兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科

会場 兵庫県立大学 神戸防災キャンパス 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 人と防災未来センター東館4階(大教室)

お問合せ Tel: 078-891-7376 Fax: 078-271-7202 Mail: gensai@ofc.u-hyogo.ac.jp

*新型コロナウイルスの感染状況等により、オンライン開催のみやオンライン併用で実施する場合があります。その場合はHPで告知しますので、QRコードからご確認ください。

drg-u-hyogo.jp/guide/g02



2022年度兵庫大学地域活動報告

兵庫大学ボランティアセンター

ボランティアセンター理念・目的

兵庫大学ボランティアセンターでは、ボランティア活動の3原則といわれる「自発性」「無償性」「利他性」をもとに、大学で学んだことを活かし、地域社会の諸課題を解決するために、考えるだけでなく自ら行動し、市民としての社会的役割を果たすことをボランティア活動の目的としています。

第36回防災のつどい 防災フェスタ2022

防災フェスタは、加古川市保安防火協会、加古川市消防本部、稲美町及び播磨町が主催で行われます。加古川市、稲美町、播磨町に住む皆様の防火防災意識を高めることを目的として毎年開催しています。

フェスタ形式で開催し、大学生がステージ上で会場を盛り上げ、消火器体験、防災士による啓発など楽しく防災について学べる体験や展示を行いました。

活動状況



3年ぶりに地元加古川市で「防災啓発活動」を実施しました。ステージパフォーマンスでは「オリジナル体操」「手遊び」「ダンス」などを披露しました。

参加者の皆様を楽しみながら防災に関する知識を身につけ、興味をもってもらえるよう工夫しました。

また、保育現場の先生方や保護者の方々と関わる機会があり、保育現場などにかせる経験とスキルを身につけチームワークの大切さを体験する貴重な社会活動となりました。

なごみカフェ



なごみカフェは、認知症者とその家族の方たちと共に認知症を考える場として発足しました。

大学教員の専門性を活かしたミニレクチャーと、学生と参加者が生豆焙煎から協力して準備し、炊きたてコーヒーを味わいながら語り合う2部構成で実施しています。

学内での実施のみならず、大学から飛び出し「県営住宅」や「介護福祉施設」などでも実施し地域の方々との交流をしました。

県営住宅活動状況



地域の皆様とカフェを通して交流しました。参加者からは「ずっと家にいたけど、参加してみんなと交流できて嬉しかった」「元気が出ました」とのこと。もっと地域の方々に来てやすいような環境作りをしていきたいと思えます。

介護福祉施設活動報告



施設利用者の多くの方と交流することが出来ました。カフェを通じて、利用者同士で仲良くなったと聞くと、地域でカフェをする意味を感じることができました。

(参考) 当日のプログラム

令和4年度 ひょうごボランティア地域づくりネットワーク会議・ ひょうごボランティア基金助成事業 事業報告会

日時 令和5年2月14日(火) 13:00~16:45
場所 神戸クリスタルタワー クリスタルホール

— プログラム —

13:00~13:05 開会あいさつ

13:05~13:25 事例発表

①(特非)きょうどうのわ

「世代結び ~持続可能なコミュニティのための多世代交流~」

②(株)ウィル

「介助犬支援の経緯と現状」

13:25~15:40 グループ別意見交換

13:25~13:30 趣旨説明

13:30~14:30 1回目 グループ別意見交換

(休憩10分)[座席移動]

14:40~15:40 2回目 グループ別意見交換

(休憩10分)

15:50~16:20 感想発表

くじ引き形式でご指名して簡単に感想等をお尋ねします

16:20~16:40 助成事業選考委員によるコメント

16:40 閉会



前面のスクリーンの映像をZOOMとYouTubeで配信しています

前面のスクリーンの画像をZOOMとYouTubeで配信しています。
ご利用の際は会場のWi-Fiに接続のうえ、アクセスされますようお勧めします。
※YouTube配信は1分程度のタイムラグが発生している場合があります。

◎ZOOM ID 859 1906 2855

パスワード 123456

◎Wi-Fi 接続先 hall1

パスワード kct12345



◎YouTubeの
QRコード

